

ニ關シ他人ヨリ反對ノ主張ヲ含メル事實上又ハ權利上ノ妨害ヲ受ク
ル占有者ニ屬ス

六六

此訴權ハ妨害ヲ止マシメ又ハ賠償ヲ得ルヲ以テ其目的トス

第二百一條 新工告發訴權ハ占有ノ妨害ト爲ル可キ隣地ノ新工事ヲ廢
止セシメ又ハ變更セシムル爲メ不動産ノ占有者ニ屬ス

第二百二條 急害告發訴權ハ或ハ建物、樹木其他ノ物ノ傾倒ニ因リ或
ハ土手、水溜、水樋ノ破潰ニ因リ或ハ火、燃燒物、爆發物ノ必要ノ豫防
ヲ爲サ、ル使用ニ因リテ隣地ヨリ生スル損害ヲ懼ル可キ至當ノ事由
アル不動産ノ占有者ニ屬ス

此訴權ハ右危險ニ對スル豫防ノ處分ヲ命令セシメ又ハ未定ノ損害ニ
對スル賠償ノ保證人ヲ立テシムルヲ以テ其目的トス

第二百三條 保持訴權及ヒ新工告發訴權ハ平穩且公然ナル法定ノ占有
者ノニ屬ス但不動産又ハ包括動産ニ付テハ其占有ノ滿一ケ年以來
繼續シタルコトヲ要ス

第二百四條 回收訴權ハ暴行、脅迫又ハ詐術ヲ以テ不動産若クハ包括
動産若クハ特定動産ノ全部又ハ一分ノ占有ヲ奪ハレタル占有者ニ屬
ス但其占有者カ被告ニ對シテ此等ノ瑕疵ノ一ヲ帶ヒサルコトヲ要ス

此訴權ハ侵奪ノ占有ヲ特定權原ニテ承繼シタル者ニ對シテ之ヲ行フ
コトヲ得ス但其者カ侵奪ノ不法ノ所爲ニ關與シタルトキハ此限ニ在
ラス

第二百五條 回收訴權及ヒ急害告發訴權ハ法定ノ占有者及ヒ容假ノ占
有者ニ屬ス縱令其占有カ未ダ一ケ年ニ滿タサルモ亦同シ

第二百六條 保持及ヒ回收ノ訴ハ妨害又ハ侵奪ヲ受ケタルヨリ一ケ年
内ニ非サレハ之ヲ受理セス

新工告發ノ訴ハ其工事ノ竣成セサル間ハ之ヲ受理ス但其工事ニ付キ
占有者カ妨害ヲ受ケタルトキハ其工事竣成ノ前後ニ拘ハラヌ妨害ヨ
リ一ケ年内ニ於テ保持訴權ノミヲ行フコトヲ得

急害告發ノ訴ハ危險ニ存スル間ハ之ヲ受理ス

第二百七條 占有ノ訴ハ本權ノ訴ト並行スルコトヲ得ス

判事ハ當事者ノ權利ノ基本ヨリ出テタル理由ニシテ其權利ヲ豫決ス
可キモノニ基キテ占有ノ訴ヲ裁判スルコトヲ得ス

又判事ハ本權ノ訴カ既ニ審理中ニ在ルモ占有ノ訴ノ判決ヲ猶豫スル
コトヲ得ス

第二百八條 占有ノ訴ヲ起シタル後當事者ノ一方カ其裁判所又ハ他ノ

六七

裁判所ニ本權ノ訴ヲ起シタルトモハ占有ノ訴ノ確定判決ニ至ルマテ
本權ノ訴ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ要ス

本權ノ訴ノ被告カ第二百十條ニ定メタル如ク其訴訟中ニ占有ノ訴ノ
原告ト爲リタルトキモ亦同シ

第二百九條 本權ノ訴ノ原告ハ訴ヲ取下クルト雖モ其訴以前ノ事實ノ
爲メニ更ニ占有ノ訴ヲ起スコトヲ得ス然レトモ既ニ起シタル占有ノ
訴ニ付テハ原告タルト被告タルトヲ問ハス之ヲ繼續スルコトヲ得

本權ノ訴ニ於テ確定ニ敗訴シタル者ハ占有ノ訴ヲ起スコトヲ得ス
第二百十條 本權又ハ占有ノ訴ノ被告ハ其訴訟中反訴ニテ占有ノ訴ノ
原告ト爲ルコトヲ得

第二百十一條 判事ハ占有ノ訴ヲ正當ナリト認ムルトキハ場合ニ從ヒ
妨害ノ絶止、侵奪物ノ返還、新工事ノ廢止若クハ變更又ハ急害ノ豫防
處分ヲ命令ス可ク若シ損害アラハ同時ニ其賠償ヲ言渡ス可シ

又判事ハ急害告發ノ訴ニ付テハ其將來未定ノ損害額ヲ斷定シ之ニ對
スル保證人ヲ立ツ可キコトヲ被告ニ命令スルコトヲ得
第二百十二條 占有ノ訴ニ於テ敗訴シタル原告ハ仍ホ本權ノ訴ヲ起ス
コトヲ得

占有ノ訴ニ於テ敗訴シタル被告モ亦仍ホ本權ノ訴ヲ起スコトヲ得但
既ニ受ケタル言渡ヲ履行セシ後ニ限ル若シ言渡ノ金額カ未定ナルト
キハ其言渡ヲ履行スルニ相應ナル金額ヲ裁判所書記課ニ供托ス可シ

第四百節 占有ノ喪失

第二百十三條 占有ハ左ノ諸件ニ因リテ喪失ス
第一 自己又ハ他人ノ爲メニ占有スル意思ノ絶止
第二 物ノ所持又ハ權利ノ行使ノ任意ノ拋棄又ハ法律上強要セラ
レタル拋棄

第三 不法ト否トヲ問ハス他人ノ占有ノ握取但其占有カ保持訴訟權
又ハ回收訴訟權ノ行使ヲ受クルコト無クシテ一ケ年ヨリ長ク繼續
シタルトキニ限ル

第四 占有ノ目的タル物ノ全部ノ毀滅又ハ其權利ノ消滅

第五章 地役

第二百十四條 地役トハ或ル不動産ノ便益ノ爲メ他ノ所有者ニ屬スル
不動産ノ上ニ設ケタル負擔ヲ謂フ

地役ハ法律又ハ人爲ヲ以テ之ヲ設定ス

第一節 法律ヲ以テ設定シタル地役

第一款 隣地ノ立入又ハ通行ノ權利

第二百五十五條 凡ソ所有者ハ土地ノ分界ニ於テ又ハ自己ノ土地ニ工事ヲ爲シ得ル餘地ナキ距離ニ於テ牆壁若クハ建物ヲ築造シ又ハ修繕スル爲メ隣地ニ立入ルヲ求ムルコトヲ得

第二百十六條 築造又ハ修繕ノ工事ハ收穫ヲ害ス可キ季節ニ於テモ隣地ノ所有者又ハ占有者ノ一時不在ノ場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得ス但急要又ハ極メテ必要ノ場合ハ此限ニ在ラス
如何ナル場合ニ於テモ隣人ノ承諾アルニ非ザレハ右工事ノ爲メ其住家ニ立入ルコトヲ得ス縱令其修繕ヲ要スル建物カ隣人ノ住家ニ連接スルモ亦同シ

第二百十七條 立入ヲ許諾セル隣人ハ工事ノ性質及ヒ時期ヲ酌量シテ其受ケタル妨害ニ相應スル償金ヲ求ムルコトヲ得

第二百十八條 或ル土地カ他ノ土地ニ圍繞セラレテ袋地ト爲リ公路ニ通スル能ハサルトキハ圍繞地ハ公路ニ至ル通路ヲ其袋地ニ供スルトキ要ス但下ニ記載シタル如クニ様ノ償金ヲ拂ハシムルコトヲ得
土地カ堀割若クハ河海ニ由ルニ非ザレハ他ニ通スル能ハサルトキ又

ハ崖岸アリテ公路ト著シキ高低ヲ爲ストキハ之ヲ袋地ト看做スコトヲ得

第二百十九條 袋地ノ利用又ハ其住居人ノ需用ノ爲メ定期又ハ不斷ニ車輛ヲ用ユルコトヲ要スルトキハ通路ノ幅ハ其用ニ相應スルコトヲ要ス

通行ノ必要又ハ其方法及ヒ條件ニ付キ當事者ノ議協ハサルトキハ裁判所ハ成ル可ク袋地ノ需用及ヒ通行ノ便利ト承役地ノ損害トヲ斟酌スルコトヲ要ス

第二百二十條 通路ノ開設及ヒ保持ノ工事ハ袋地ノ負擔ニ屬ス
承役地ノ建物又ハ樹木ヲ取除キ又ハ變更セシムルノ必要アルトキハ一回限ノ償金ヲ其所有者ニ辨償ス

此他承役地ノ使用又ハ耕作ヲ減シ及ヒ永ク其地ノ價格ヲ減スルニ付テノ償金ハ毎年之ヲ辨償ス

第二百二十一條 袋地タルコトノ止ミタルトキハ通行ノ權利及ヒ毎年ノ償金ノ義務ハ從ヒテ消滅ス

要役地ノ所有者ハ未ダ拂期限ノ至ラサル償金ノ六ヶ月分ヲ拂ヒテ常ニ通行ノ權利ヲ拋棄シ及ヒ之ニ對スル義務ヲ免カル、コトヲ得

第二百二十二條

七二

當事者ハ通行ヨリ生スル永久ノ損害ノ賠償又ハ毎年ノ償金ノ買戻ヲ隨意ニ元本ニテ定ムルコトヲ得
孰レノ場合ニ於テモ袋地ノ止ミシトキハ右元本ハ之ヲ全ク返還スル
モノトス但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

第二百二十三條

土地ノ一分ノ讓渡又ハ共有者間ノ分割ニ因リテ袋地ノ生シタルトキハ讓渡人又ハ分割者ハ償金ヲ受クルコト無クシテ通路ヲ供スルノ義務ヲ負擔ス此義務ハ公路ノ創設ニ因リテ袋地タルコトノ止ミシトキハ消滅ス

第二款 水ノ疏通、使用及ヒ引入

第二百二十四條

低地ノ所有者ハ人工ニ由ラスシテ自然ニ高地ヨリ流下スル雨水及ヒ泉水ヲ承クル義務アリ

第二百二十五條

土手其他水ヲ湛フル工作物ノ破潰ニ因リ又ハ水樋、堀割ノ阻塞ニ因リ高地ノ水量ヲ増シテ衝激ヲ致シ又ハ方向ヲ變ヘントスルトキハ低地ノ所有者ハ第二百二條及第二百十一條ニ從ヒテ急害ノ告發ヲ爲シ且高地ノ所有者ノ費用ヲ以テ其修繕ヲ爲スコトヲ得
人工ヲ以テ水ノ疏通路ヲ創設シ又ハ變更セシト雖モ其工事カ三十ヶ年前ニ在ルカ又ハ年月ヲ知ル可カラサルトキハ亦同シ

事變ニ因リ低地ニ於テ水流ノ阻塞シタルトキハ高地ノ所有者ハ平常ノ疏通ニ復スル爲メ自費ヲ以テ必要ノ工事ヲ爲ス權利ヲ有ス然レトモ其義務ヲ負擔セス

第二百二十六條

所有者ハ雨水ノ直チニ隣地ニ落ツル如キ屋根其他ノ工作物ヲ設クルコトヲ得ス

第二百二十七條

泉源ノ所有者ハ隨意ニ之ヲ使用シ且自然ニ隣地ニ流可キ餘水ヲ隣人ニ與ヘサルコトヲ得但次條及ヒ第二百七十六條ノ規定其他源泉ノ利用、收益ニ關スル行政法ノ規定ヲ妨ケス

第二百二十八條

泉源ノ水カ一町村又ハ一部落ノ住民ノ家用ニ必要ナルトキハ所有者ハ其水ノ不用ノ部分ヲ流下セシムル責ニ任ス
又町村ハ自費ヲ以テ水ノ聚合及ヒ引入ニ必要ナル工事ヲ泉源ノ土地ニ施スコトヲ得但其工事ノ爲メ償金ヲ拂ヒ且其土地ニ永久ノ損害ヲ生セシメサルコトヲ要ス

第二百二十九條

溝渠、水流、堀割又ハ池沼ノ沿岸者ニシテ其床地ヲ所有スル者ハ家用及ヒ農工業用ニ其水ヲ使用スルコトヲ得然レトモ其
此他町村ハ水ノ使用ノ爲メ償金ヲ拂フコトヲ要ス但三十ヶ年間無償ニテ使用ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

七三

水路及ヒ幅員ヲ變スルコトヲ得ス
同上ノ流水ノ通過スル土地ノ所有者ハ右ト同一ノ需用ノ爲メ其地内ニ於テ水路ヲ變轉スルコトヲ得然レトモ其水ノ出口ニ於テハ之ヲ自然ノ水路ニ復スルコトヲ要ス
右孰レノ場合ニ於テモ沿岸者ハ地方ノ規則ニ從ヒテ捕漁ノ權利ヲ有ス

沿岸者ハ對岸者ニ損害ヲ及ホス可キトキハ已レノ方ニ於テ水除ヲ築クコトヲ得ス

第二百三十條 前條ニ定メタル二箇ノ場合ニ於テ其水ヲ利用ス可キ沿岸者又ハ低地ノ所有者ヨリ爭チ起シタルトキハ裁判所ハ地方ノ慣習ト衛生ノ需用ト農工業ノ利益トヲ斟酌シテ之ヲ決ス

第二百三十一條 右流水ニ關スル取締ハ地方廳ニ屬ス地方廳ハ其流水ノ疏通、保持及ヒ魚類ノ保育ニ付キ必要ノ處分ヲ令スルコトヲ得

第二百三十二條 一艘又ハ一地方ノ公有又私有ニ屬スル水ノ使用及ヒ取締ハ行政法ヲ以テ之ヲ規定ス

第二百三十三條 自己ノ土地外ニ在ル天然又ハ人工ノ水ヲ用ユル權利ヲ有スル所有者ハ家用又ハ農工業用ノ爲メ價金ヲ拂ヒ其水ノ通過チ

中間ノ土地ニ要求スルコトヲ得

第二百三十四條 低地ノ所有者ハ浸水地ヲ乾カスニ因リ出水ノ疏通ノ爲メ及ヒ家用又ハ農工業用ノ餘水ノ排泄ノ爲メ公路、公流又ハ下水通ニ至ルマテ其通路ヲ供スル責ニ任ス

家用又ハ農工業用ノ爲メニ變質シタル水ノ通過ハ地下ニ於ケルニ非サレハ之ヲ要求スルコトヲ得ス

第二百三十五條 水ノ通路ハ成ル可ク承役地ハ損害少ナキ場所ニ之ヲ設クルコトヲ要ス

如何ナル場合ニ於テモ建物ノ下ヲ經又ハ住家ニ連接シタル庭園ヲ經テ水ノ通過ヲ要求スルコトヲ得ス

第二百三十六條 水ノ通路ニ必要ナル工作物ノ築造及ヒ保持ハ其工作物ニ付キ利益ヲ得ル所有者ノ費用ニテ之ヲ爲ス

第二百三十七條 承役地ノ所有者ハ其土地ニ存スル堀割ヲ要役地ニ出入スル水ノ全部又ハ一分ノ通路ニ供スルコトヲ要求スルヲ得但從來其堀割ヲ通過スル水カ要役地ニ供シタル水ヲ變スルノ性質ナラサルトキニ限ル

又承役地ノ所有者ハ其土地ニ要役所ノ所有者ノ爲シタル工作物ヲ右

ト同一ノ條件ニ從ヒテ水ノ通過ノ爲メ使用セント請求スルコトヲ得
右孰レノ場合ニ於テモ他人ノ爲シタル工作物ヲ使用スル者ハ自己ノ
利益ノ割合ニ應シテ其築造及ヒ保持ノ費用ヲ分擔ス

第二百三十八條 第二百二十九條第一項ニ從ヒ流水ヲ使用スル權利ヲ
有スル所有者ハ堰ヲ設ケテ水ヲ高ムルノ要用アルトキハ償金ヲ拂ヒ
テ其堰ヲ對岸ニ支持セシムルコトヲ得
同一ノ權利ヲ有スル對岸地ノ所有者ハ前條ニ記載シタル如ク費用ヲ
分擔シテ右ノ堰ヲ使用スルコトヲ得

第三款 經界

第二百三十九條 凡ソ相隣者ハ地方ノ慣習ニ從ヒ樹石杭杙ノ如キ標示
物ヲ以テ其連接シタル所有地ノ界限ヲ定メント互ニ強要スルコトヲ得
第二百四十條 經界訴權ハ建物ニ付キ及ヒ土屏、垣柵等ノ圍障アル土
地ニ付テハ行ハレス公路又ハ公流ニテ隔テタル土地ニ付テモ亦同シ
第二百四十一條 經界訴權ハ協議上又ハ裁判上ニテ界限ノ定マラサル
間ハ時効ニ罹ルコト無シ
經界ノ訴ニ付キ被告カ原告ノ土地ノ全部又ハ一分ニ對シ取得時効又
ハ一ケ年以上ノ占有ヲ申立ツルトキハ原告ハ先ツ回復又ハ回收ノ訴

チ爲スコトヲ要ス

第二百四十二條 經界ハ界限ノ確定セサルトキ又ハ爭論アルトキハ所
有權ノ證書ニ記載シタル坪數及ヒ界限ニ從ヒテ之ヲ爲ス其證書ナキ
トキハ之ニ代フルニ足ル他ノ證據又ハ書類ニ依リテ之ヲ爲ス
所有權ニ付キ爭論アルトキハ先ツ其裁判ヲ受クルコトヲ要ス

第二百四十三條 當事者カ協議ヲ以テ界限ヲ定メタルトキハ其證書ヲ
作ルコトヲ要ス此證書ハ坪數及ヒ界限ニ付キ確定權原ノ効ヲ有ス
當事者ノ議協ハサルトキハ判決ヲ以テ坪數及ヒ界限ヲ定メ其判決書
ニ圖面ヲ添フ此圖面ニハ界標ヲ指示シ且各界標ノ距離及ヒ其近傍ノ
移動ナキ目標ト各界標トノ距離ヲ記載ス

第二百四十四條 樹石杭杙ノ代價其設置ノ費用及ヒ證書並ニ訴訟費用
ハ相隣者平分シテ之ヲ負擔ス然レトモ判決ニ因リテ不當ト爲リタル
爭論ノミニ關スル訴訟費用ハ敗訴者之ヲ負擔ス
測量費用ハ當事者其土地ノ廣狹ニ應シテ之ヲ負擔ス

第四款 圍障

第二百四十五條 凡ソ所有者ハ適宜ノ材料ヲ用テ適宜ノ高サニ於テ自
己ノ不動産ニ圍障ヲ設クルコトヲ得但其不動産カ法律又ハ人爲ニテ

隣人ノ立入又ハ通行ノ地役ニ服スルトキハ其地役ヲ行フ權能ヲ妨タルコトヲ得ス

第二百四十六條 二箇ノ住家又ハ農工業用建物ノ間ニ在ル中庭又ハ圍圃ノ土地カ各箇ノ所有者ニ分屬スルトキハ各自其隣人ニ分界圍障ノ分擔ヲ強要スルコトヲ得

當事者ノ議協ハサルトキハ其圍障ハ板屏又ハ竹垣ノ類ニ非サレハ之ヲ要求スルコトヲ得ス

其高サハ分界線ノ平面ヨリ少ナクトモ六尺タル可シ

第二百四十七條 圍障ノ設置、保持及ヒ修繕ノ費用ハ相隣者平分シテ之ヲ負擔ス

相隣者ノ一人ハ前條ニ定メタル材料ヨリ良好ナル他ノ材料ヲ用井又ハ高サヲ増シテ圍障ヲ築造スルコトヲ得但築造費用ノ差額ヲ拂ヒ且保持及ヒ修繕ノ費用ノ全額ヲ負擔ス

第二百四十八條 相隣者ノ一人カ他ノ一人ヲ圍障分擔ノ遲滯ニ付セスシテ之ヲ築造シ又ハ修繕シタルトキハ其人ニ對シテ費用ノ分擔ヲ要求スルコトヲ得ス

第五款 互有

第二百四十九條 前款ニ定メタル義務ニ因リ又ハ任意且協議ニ因リ共擔ノ費用ヲ以テ土地ノ分界線上ニ築造シタル圍障ハ其性質ノ如何ニ問ハス敷地ト共ニ相隣者ノ互有ニ屬ス

性質ノ如何ニ問ハス相隣者ノ建物ト隔壁及ヒ溝渠、生籬、柴垣ニシテ共擔ノ費用ヲ以テ土地ノ分界線上ニ設ケタルモノモ亦同シ

第二百五十條 凡ソ土地ノ圍障又ハ建物ノ隔壁ニシテ分界線上ニ在ルモノハ其性質ノ如何ニ問ハス共擔ノ費用ヲ以テ設ケタルモノトシテ之ヲ互有ト推定ス但或ハ證書ニ因リ或ハ證人ニ因リ或ハ三十年ノ時効ニ因リ或ハ下ニ示シタル非互有ノ目標ニ因リテ反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第二百五十一條 相隣者ノ一人ノ專屬權ヲ定ムル直接ノ證據又ハ時効ノ存セサルトキハ非互有ヲ推定ス可キ目標トナル可キモノハ左ノ如シ

- 第一 土造、石造、煉瓦造ノ牆壁ニ付テハ屋根ノ傾斜面又ハ小簷、
- 第二 板屏、竹垣ニ付テハ其支柱ガ一方ノミニ存スルコト
- 第三 溝渠ニ付テハ堀浚ノ泥土カ一方ノミニ存スルコト
- 第四 生籬、柴垣ニ付テハ一方ノ土地ノミ四面ヲ圍マシタルコト

此四箇ノ場合ニ於テ專屬權ハ右目標ノ存スル一方又ハ土地ノ全ク圍
マレタル一方ノ相隣者ニ屬ス

第二百五十二條 高サノ不同ナル二箇ノ建物ヲ隔ツル牆壁ニ付テハ其
牆壁カ低キ建物ヲ踰ユル部分ニハ互有ノ推定ヲ適用セス
又牆壁カ一箇ノ建物ノミヲ支持スルトキハ右ノ推定ハ如何ナル部分
ニモ之ヲ適用セス

第二百五十三條 二箇ノ土地ヲ分界スル一箇ノ圍障其他ノ工作物ニ互
有ノ目標ト非互有ノ目標トノ併存スルトキハ裁判所ハ事情ニ從ヒテ
其所有權ノ共通ナルカ專屬ナルカヲ查定ス

第二百五十四條 互有界ノ保持及ヒ修繕ハ互有者平分ニシテ之ヲ負擔
ス但其一人ノ所爲ヨリ毀損ノ生シタルトキハ此限ニ在ラス
然レトモ第二百五十六條ニ定メタル義務上ノ圍障ニ非サルトキハ互
有者ノ各自ハ互有權ヲ拋棄シテ保持及ヒ修繕ノ負擔ヲ免カル、コト
ヲ得但自己ノ建物ヲ支持スル牆壁ノ保持及ヒ修繕ニ關スルトキ又ハ
自己ノ所爲ニ因リテ必要ト爲リタル修繕ノ費用ヲ拂フ可キトキハ此
限ニ在ラス

第二百五十五條 相隣者ハ互有界ヲ其性質及ヒ用方ニ從ヒテ使用スル

コトヲ得但其堅牢ヲ傷ハサルコトヲ要ス

相隣者ハ互有ノ牆壁ニ其厚サ四分ノ三ニ至ルマテ梁棟ヲ穿入シテ建
物ヲ支持シ又ハ之ニ煖爐ヲ嵌入シ若クハ烟突、水管、瓦斯管其他家
用、工業用ノ爲メ筒管ヲ通スルコトヲ得但其牆壁ノ性質及ヒ厚サカ
此ニ耐フルトキニ限ル然レトモ互有者ハ其牆壁ニ屬孔ヲ鑿チ又室内
用ノ爲メ些少ノ凹穴ヲモ鑿ツコトヲ得ス

互有者ハ互有ノ牆壁ノ高サヲ増スコトヲ得但其牆壁ノ堅牢此ニ耐フ
ルトキ又ハ自費ニテ工事ヲ加ヘ若クハ改築ヲ爲シテ堅牢ナラシムル
トキニ限ル此場合ニ於テ其高サヲ増シタル部分ハ互有ニ非ス
互有者ハ互有ノ溝渠ニ雨水又ハ家用、工業用ノ水ヲ注下スルコトヲ
得

互有者ハ互有ノ生籬ヲ剪伐シタル樹枝ヲ平分シ又其生籬ニ存スル高
木ノ伐除ヲ要求スルコトヲ得

第二百五十六條 相隣者ノ一人カ石又ハ煉瓦ニテ土地ノ圍障又ハ建物
ノ牆壁ヲ分界線ニ接シ又ハ此ヨリ一尺ニ滿タサル距離ニ於テ築造シ
タルトキハ他ノ一人ハ現時ノ相場ニテ材料代及ヒ手間賃ノ半額ヲ償
ヒテ常ニ其互有權ノ讓渡ヲ要求スルコトヲ得前條第三項ニ從ヒテ増

築シタル牆壁ニ付テモ亦同シ

互有權ノ讓渡ヲ要求スル相隣者ハ圍障、牆壁ノ敷地及ヒ之ト分界線トノ間ノ地面ニ付キ地上權ノミヲ要求スルコトヲ得此地上權ニ付テハ鑑定人ノ評定シタル定期ノ納額ヲ建物ノ存立間拂フ責ニ任ス本條ニ依リ牆壁ノ互有權ヲ取得シタル者ハ前條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ使用スルコトヲ得然レトモ人爲上ノ觀望ノ地役トシテ其牆壁ニ設ケタル罅孔ヲ塞カシムルコトヲ得ス

石造、煉瓦造ニ非サル圍障、隔壁及ヒ籬柵、溝渠、土手ニ付テハ其擔ノ費用ヲ以テセル設定又ハ協議上ノ讓渡ニ因ルニ非サレハ互有權ヲ生セス

第二百五十七條 所有者ハ石造煉瓦造ニ非サル建物ヲ築造スルトキハ其建物ト土地ノ分界線トノ間ニハ其地方ノ慣習ニテ定マリタル尺度ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス

此距離ヲ存セスシテ築造スルトキハ一方ノ相隣者ハ築造ノ間ハ第二百一條ニ從ヒテ新工告發ノ占有訴權ヲ行フコトヲ得

右築造竣成ノ後一方ノ相隣者カ建物ヲ築造セントシ其工事ノ爲メ自己ノ地上ニ於テ分界線ヨリ慣習ノ尺度ヲ超ユル距離ヲ要スルニ因リ

建物ヲ其尺度外ニ退ケタルトキハ其餘分ニ退ケタル地面ニ應シ前築造者ニ對シテ償金ヲ要求スルコトヲ得

第六款 他人ノ所有地ニ對スル觀望及ヒ明取窓

第二百五十八條 二箇ノ土地ノ分界線ヨリ少ナクトモ三尺ノ距離アルニ非サレハ建物ニ窓又ハ縁飾ヲ設ケテ他人ノ所有地ヲ直線ニ觀望スルコトヲ得ス

此距離ハ窓又ハ縁側ノ突出シタル部分ヨリ直角線ニテ分界線ニ至ルマテヲ測算ス

第二百五十九條 右距離ノ制限ヲ遵守スルニ不便ナルトキハ目隠ヲ以テ窓ヲ蔽フコトヲ要ス但其目隠ハ分界線上ニ突出スルコトヲ得ス目隠ヲ設クル能ハサルトキハ明取窓ニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス此明取窓ハ其下部ヨリ床板マテ少ナクトモ六尺ト爲シ格子ヲ附着シ其格子目ハ一寸以内タルコトヲ要ス

此場合ニ於テ尙ホ隣地ノ所有者ハ目隠カー一尺以上分界線ヲ踰ユルヲ許シテ之ヲ設ケシムルコトヲ得

第二百六十條 觀望又ハ明取窓ニ關スル第三條ノ規定ハ建物ト對向スル隣地ノ建物ニ罅孔ナキトキハ之ヲ適用セズ

第七款 或ル工作物ニ要スル距離

八四

第二百六十一條 自己ノ土地ニ井戸、用水溜、下水溜又ハ露庭坑ヲ穿テ
シトスル所有者ハ分界線ヨリ少ナクトモ六尺ノ距離ヲ存スルヲ要
ス但土砂ノ崩壊又ハ水液ノ滲漏ヲ防クニ必要ナル工事ヲ爲ス可シ
乾燥シテ覆蓋アル地窖ニ付テハ右距離ヲ三尺ニ減ス
水路ニ供シタル石樋又ハ溝渠ニ付テハ右距離ハ少ナクトモ其深サノ
半ニ同シキコトヲ要ス然レトモ三尺ヲ踰ユルコトヲ要セス
右溝渠ハ分界線ノ方ノ崖ヲ斜ニ削下シ又ハ石垣若クハ木柵ヲ以テ之
ヲ支持ス可シ

第二百六十二條 高サ三間ニ踰ユル竹木ハ分界線ヨリ六尺ニ滿タサル
距離内ニ之ヲ栽植シ又ハ保持スルコトヲ得ス

高サ三間ニ滿タス一間ニ踰ユル竹木ニ付テハ二尺ノ距離ヲ存スルコ
トヲ要ス

此他矮小ノ竹木ハ直チニ之ヲ分界線ニ接着セシムルコトヲ得
右孰レノ場合ニ於テモ相隣者ハ竹木ノ所有者ニ對シ分界線ヲ踰エタ
ル枝ノ剪除ヲ要求スルコトヲ得又自己ノ土地ヲ侵セル根ヲ自ラ截去
スルコトヲ得

前條及ヒ本條ノ規定ハ二箇ノ土地ノ分界カ互有ナルトキト雖モ之ヲ
適用ス

第二百六十三條 右ニ異ナリタル慣習アルトキハ前二條ノ規定ニ依ラ
スシテ其慣習ヲ遵守ス

第二百六十四條 危險ヲ含ミ衛生ヲ害シ又ハ不都合ヲ生スル營業ニ付
キ近隣ノ利益ノ爲メニ要スル條件ハ行政法ヲ以テ之ヲ規定ス

前諸款ニ共通ナル規則

第二百六十五條 本節ノ規定ハ國、府縣、市町村ノ私有及ヒ公有ノ財産
ニ付キ働方及ヒ受方ニテ之ヲ適用ス

然レトモ公有財産ハ水ノ疎通及ヒ互有ノ要求權ニ服セシ

第二節 人爲ヲ以テ設定シタル地役

第一款 地役ノ性質及ヒ種類

第二百六十六條 相隣者ハ其不動産ノ利益又ハ負擔ニテ諸種ノ地役ヲ
設定スルコトヲ得但其地役カ公ノ秩序ニ反セサルコトヲ要ス

第二百六十七條 地役ハ不動産ノ所有權カ何人ニ移轉スルモ働方又ハ
受方ニ於テ其不動産ニ從トシテ附着ス

働方ノ地役ハ要役地ヨリ分離シテ之ヲ讓渡シ賃貸シ又ハ抵當ト爲ス

八五

コトヲ得ス又地役ノ上ニ地役ヲ設定スルコトヲ得ス
第二百六十八條 地役ハ不動産カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ其一人自
己ノ持分ニ付キ要役地ニ地役ヲ失ハシメ又承役地ニ之ヲ免カレシム
ルコトヲ得サルニ因リテ之ヲ不可分トス

又土地ノ分割又ハ其一分ノ讓渡ノ場合ニ於テ地役ハ不可分ニテ承役
地ノ各部分ヲ累ハシ又ハ要役地ノ各部分ヲ利ス但其地役カ承役地ノ
一部分ニ對スルニ非サレハ有益ニ行ハレス又ハ要役地ノ一部分ノ爲
メニ非サレハ便益ヲ得セシメサル場合ハ此限ニ在ラヌ

第二百六十九條 要役地ノ所有者ハ自己ニ屬スト主張スル地役ニ付キ
占有ニ係ルト本權ニ係ルトヲ問ハス要請訴權ヲ行フコトヲ得
又承役地ナリトノ主張ヲ受ケタル不動産ノ所有者ハ其爭フ地役ノ行
使ヲ拒ミ又ハ之ヲ止マシムル爲メ占有ニ係ルト本權ニ係ルトヲ問ハ
ス拒却訴權ヲ行フコトヲ得

第二百七十條 前三條ノ規定ハ法律ヲ以テ設定シタル地役ニ之ヲ適用
ス
第二百七十一條 設地役ノ種類ハ左ノ如シ
第一 繼續又ハ不繼續ノ地役

第二 表見又ハ不表見ノ地役
第三 有的又ハ無的ノ地役

第二百七十二條 地役カ場所ノ位置ノミニ因リ人ノ所爲ヲ要セスシテ
間斷ナク要役地ニ便ヲ與ヘ承役地ニ累ヲ爲ストキハ繼續地役ナリ
地役カ要役地ノ便益ノ爲メ時時人ノ所爲ヲ要スルトキハ不繼續地役
ナリ

第二百七十三條 地役カ外見ノ工作又ハ形跡ニ因リテ顯露スルトキハ
表見地役ニシテ之ニ反スルトキハ不表見地役ナリ
第二百七十四條 地役ハ左ノ場合ニ於テハ有的地役ナリ
第一 不動産ノ所有者カ他人ノ不動産ヨリ或ル便益ヲ取ルコトヲ
得ルトキ

第二 不動産ノ所有者カ相隣便益ノ爲メ法律ノ普通ニ制禁スル或
ル工作ヲ自己ノ不動産ニ爲スコトヲ得ルトキ
地役ハ左ノ場合ニ於テハ無的地役ナリ

第一 不動産ノ所有者カ普通ニ所有者ニ許サル可キ所爲ヲ隣人カ
自己ノ不動産ニ爲スタ禁スルコトヲ得ルトキ
第二 不動産ノ所有者カ普通法ニ從ヒ自己ノ不動産ニ於テ相隣便
益ヲ得ルトキ

益ノ爲メニ爲ス可ク又ハ許ス可キ所爲ヲ爲サス又ハ許サハルコトヲ得ルトキ

第二款 地役ノ設定

第二百七十五條 地役ハ合意又ハ遺言ヲ以テ之ヲ設定スルコトヲ得、右孰レノ場合ニ於テモ當事者ノ間ニ於ケルト第三者ニ對スルトテ間ハス地役ノ有効ナル爲メニハ不動産物權ノ讓渡ニ關スル通常規則ヲ遵守ス可シ

第二百七十六條 不動産所有權ニ關シ時効ヨリ生スル正當ナル取得推定ハ繼續且表見ノ地役ニノミ之ヲ適用ス

隣地ヨリ引ク水ノ取得ニ關スル時効ノ期間ハ其時効ヲ援用スル所有者カ自己ノ土地又ハ承役地ニ於テ其便益ノ爲メ水ヲ聚合シ及ヒ引入スル外見ノ工作物ヲ作リタル當時ヨリ起算ス

第二百七十七條 初メ一人ノ所有ニ屬シタル二箇ノ土地カ不分ノ時既ニ繼續且表見ノ地役ノ成立ス可キ位置ヲ成シ其分離ノ時此形狀ヲ變更セヌ又之ヲ變更スルコトヲ要約セサリントキハ所有者ノ用方ニ因リ此種ノ地役ヲ設定シタルモノト看做ス

第二百七十八條 不繼續地役及ヒ不表見地役ハ第二百七十五條ニ記載

シタル二箇ノ權原ノ一ニ依ルニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス

第二百七十九條 要役權ヲ有スト主張スル所有者ハ承役地ノ所有者ヨリ出テ又ハ其前所有者ノ一人ヨリ出テタル地役追認ノ證書ヲ差出スコトヲ得ルトキハ前ニ掲ケタル方法ノ一ニ因レル地役設定ノ直接ノ證據ヲ舉グルコトヲ要セヌ

第三款 地役ノ効力

第二百八十條 適法ニ取得シタル地役權ハ其性質ニ從ヒテ行使ニ必要ナル從タル權利及ヒ權能ヲ帶フ

右ノ外合意又ハ遺言ヲ以テ設定シタル地役ニ付テハ其合意又ハ遺言ノ解釋ニ關スル一般ノ規則ニ從フ又時効ニ基キタル地役ニ付テハ實際占有ノ廣狹ヲ量リ所有者ノ用方ニ因リテ生シタル地役ニ付テハ設定者ノ意思ヲ推定シテ其權利ノ廣狹ヲ定ム

第二百八十一條 通行ノ地役、繼續若クハ不繼續ナル取水ノ地役、牧畜又ハ物料採取ノ地役ニ付キ設定權原又ハ其後ノ合意ニ於テ行使ノ時日、場所、方法又ハ收取ノ數量ヲ定メサリントキハ當事者ノ一方ハ常ニ他ノ一方ト立會ノ上其定方ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得、此定方ニ付テハ裁判所ハ雙方ノ需用ヲ斟酌シ且地役權行使ノ從來ノ

八九

實蹟ヲ照査ス可シ

九〇

第二百八十二條 取水ノ地役ニ服スル不動産ノ所有者ハ自己ノ所爲ニ因リテ水ノ缺乏ヲ生セシメタルトキニ非サレハ其責ニ任セス
二箇ノ不動産ノ需用ノ爲メニ水ノ不足スルトキハ先ツ家用ニ次ニ農業用ニ次ニ工業用ニ之ヲ供ス右ハ總テ其不動産ノ重要ノ度ニ割合フ可シ

數箇ノ要役地アルトキハ各要役地ハ家用ノ爲メ相共ニ水ヲ使用ス農工業用ニ付テハ取水ノ先後ハ地役權取得ノ先後ニ從フ

第二百八十三條 地役權ヲ有スル者ハ承役地ノ所有者ノ承諾アルニ非サレハ正シク定置キタル行使ノ時日、場所又ハ方法ヲ變更スルコトヲ得ス但承役地ノ所有者カ如何ナル損害ヲモ受ケサルトキハ此限ニ在ラス

又承役地ノ所有者カ右變更ニ付キ正當ナル利益ヲ得且要役地ノ所有者カ如何ナル損害ヲモ受ケサルトキハ承役地ノ所有者ハ其變更ヲ要求スルコトヲ得

第二百八十四條 地役ヲ設定スル爲メ或ル工作物ヲ必要トスルトキハ其費用ハ要役地ノ所有者ノ負擔ニ屬ス但承役地ノ所有者ノ負擔ニ屬

ス可キコトヲ要約シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百八十五條 地役ノ行使ニ關スル工作物ノ保持及ヒ修繕ハ亦要役地ノ所有者ノ負擔ニ屬ス但修繕カ承役地ノ所有者ノ過失ニ因リテ必要ト爲リタルトキハ此限ニ在ラス

又承役地ノ所有者カ保持及ヒ修繕ヲ負擔ス可キヲ合意スルコトヲ得此場合ニ於テ承役地ノ所有者ハ地役ノ存スル不動産ノ部分ヲ要役地ノ所有者ニ遺棄スルトキハ常ニ右ノ負擔ヲ免カル、コトヲ得

第二百八十六條 承役地ノ所有者ハ地役ノ行使ニ如何ナル妨礙ヲモ爲サス又其便益ニ如何ナル減少ヲモ生セサルニ於テハ其所有權ニ固有ナル適法ノ權能ヲ行フコトヲ得

又承役地ノ所有者ハ地役ノ行使ノ爲メ其不動産ニ設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得但其所有者カ工作物ヨリ收ムル便益及ヒ其使用ニ因リ増加ス可キ費用ニ應ジテ其建設又ハ保持ノ費用ヲ分擔ス

第四款 地役ノ消滅

第二百八十七條 地役ハ左ノ諸件ニ因リテ消滅ス

第一 地役ヲ設定シタル期間ノ満了

第二 設定ノ權原又ハ設定者ノ權利ノ解除、削除又ハ廢絶

九一

第三 承役地ノ公用徴収

第四 拋棄

第五 混同

第六 三十ヶ年間ノ不使用

第三者カ地役アルコトヲ知ラスシテ承役地ヲ占有シ其占有ニ不動産所有權ノ取得ニ關スル時効ニ必要ナル條件ヲ具備スルトキハ地役ハ消滅シタリトノ推定ヲ受ク

第二百八十八條 地役ノ拋棄ハ之ヲ明示スルコトヲ要ス然レトモ繼續地役ノ行使ノ爲メ承役地ニ設ケタル工作物ノ毀壞又ハ其使用ノ廢止ニ付キ要役地ノ所有者カ異議ヲ留メスシテ明示ノ承諾ヲ與ヘタルトキハ其地役ヲ拋棄シタリト看做ス

拋棄ハ拋棄者カ自己ノ不動産權利ヲ讓渡スノ能力ヲ有スルトキニ非サレハ其効ナシ

第二百八十九條 地役ハ要役地及ヒ承役地チ一人ノ所有ニ併合シタルトキハ混同ニ因リテ消滅ス然レトモ其併合ノ行爲ヲ裁判上ニテ解除シテ消除シ又ハ廢絶シタルトキハ其地役ヲ曾テ消滅セザリシモノト看做ス

右不動産ヲ再ヒ分離シタルトキハ繼續且表見ノ地役ハ第二百七十七條ノ規定ニ從ヒテ再生ス

第二百九十條 地役ハ要役地ノ所有者カ任意タルト否トヲ問ハス其地役權ヲ行フ無クシテ三十ヶ年ヲ經過シタルトキハ不使用ニ因リテ消滅ス

右期間ハ不繼續地役ニ付テハ最後ノ使用ノ行爲ヨリ之ヲ起算シ繼續地役ニ付テハ地役ノ自然ノ作用ニ對スル形體上ノ妨礙ノ起レル當時ヨリ之ヲ起算ス

右妨礙カ承役地ニ起發シタル事變ヨリ生スルトキハ要役地ノ所有者ハ自費ニテ舊狀ニ復スルコトヲ得又其妨礙カ承役地ノ所有者ノ所爲ヨリ生スルトキハ其費用ヲ以テ復習ス

第二百九十一條 要役地カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ其一人ノ權利ノ行使ニ因リテ他ノ人ノ權利ヲ保存ス
此他死責時効ノ停止又ハ中斷ニ關スル規則ハ地役ノ不使用ニ之ヲ適用ス

第二百九十二條 地役權ノ行使ノ時日、場所及ヒ方法ニ關スル利益ハ不使用又ハ時効ノ結果ニ因リテ賦殺ヲ受クルコト有リ

第二部 人權及義務

總則

第二百九十三條 人權即チ債權ハ常ニ義務ト對當ス

義務ハ一人又ハ數人ヲシテ他ノ定マリタル一人又ハ數人ニ對シテ或ル物ヲ與ヘ又ハ或ル事ヲ爲シ若クハ爲サハルコトニ服從セシムル人定法又ハ自然法ノ羈絆ナリ

義務ヲ負フ者ハ之ヲ債務者ト名ツケ義務ニ因リテ利益ヲ得ル者ハ之ヲ債權者ト名ツク

第二百九十四條 人定法ノ義務ハ其履行ニ付キ法律ノ許セル諸般ノ方法ニ依リテ債務者ヲ強要スルコトヲ得ルモノナリ

自然ノ義務ニ對シテハ訴權ヲ生セス

第一章 義務ノ原因

總則

第二百九十五條 義務ハ左ノ諸件ヨリ生ズ

第一 合意

第二 不當ノ利得

第三 不正ノ損害

第四 法律ノ規定

第一節 合意

第二百九十六條 合意トハ物權ト人權トヲ問ハス或ル權利ヲ創設シ若クハ移轉シ又ハ之ヲ變更シ若クハ消滅セシムルヲ目的トスル二人又ハ數人ノ意思ノ合致ヲ謂フ

合意カ人權ノ創設ヲ主タル目的トスルトキハ之ヲ契約ト名ツク

第一款 合意ノ種類

第二百九十七條 合意ニハ雙務ノモノ有リ片務ノモノ有リ

當事者相互ニ義務ヲ負擔スルキハ其合意ハ雙務ノモノナリ

當事者ノ一方ノミ他ノ一方ニ對シテ義務ヲ負擔スルキハ其合意ハ片務ノモノナリ

第二百九十八條 合意ニハ有償ノモノ有リ無償ノモノ有リ

各當事者カ出捐ヲ爲シテ相互ニ利益ヲ得又ハ第三者ヲシテ之ヲ得セシムルキハ其合意ハ有償ノモノナリ

當事者ノ一方ノミカ何等ノ利益ヲモ給セスシテ他ノ一方ヨリ利益ヲ受クルキハ其合意ハ無償ノモノナリ

第二百九十九條 合意ニハ諾成ノモノ有リ要物ノモノ有リ

合意カ當事者ノ承諾ノミヲ以テ成立スルトキハ其合意ハ諾成ノモノナリ

合意カ當事者ノ承諾ノ外尙ホ目的物ノ引渡ヲ要スルトキハ其合意ハ要物ノモノナリ

第三百條 合意ニハ要式ノモノ有リ不要式ノモノ有リ
公正證書ヲ以テ承諾ヲ與フ可キ合意ハ要式ノモノナリ
此他ノ場合ニ於ケル合意ハ不要式ノモノナリ

第三百一條 合意ニハ實定ノモノ有リ射倖ノモノ有リ
合意ノ成立及ヒ効力カ合意ノ當初ヨリ確實ナルキハ其合意ハ實定ノモノナリ

合意ノ成立又ハ其効力ノ全部若クハ一分カ偶然ノ事ニ繫ルキハ其合意ハ射倖ノモノナリ

第三百二條 合意ニハ主タルモノ有リ從タルモノ有リ
合意ノ成立カ他ノ合意ノ成立ニ關係ナキトキハ其合意ハ主タルモノナリ

反對ノ場合ニ於テハ其合意ハ從タルモノナリ
主タル合意ノ無効ハ從タル合意ノ無効ヲ惹起ス但從タル合意カ主タル

合意ノ無効ノ場合ニ於テ之ニ代ハルヲ目的トスルモノナルトキハ此限ニ在ラス

從タル合意ノ無効ハ主タル合意ノ無効ヲ惹起セス但當事者カ其二箇ノ合意ヲ分離ス可カラサルモノト看做シタルトキハ此限ニ在ラス

第三百三條 合意ニハ有名ノモノ有リ無名ノモノ有リ
有名ノ合意ハ固有ノ名稱アリテ本法又ハ商法ニ於ケル特別ノ規則ノ目的タルモノナリ特別ノ規則ヲ設ケサル總テノ場合ニ於テハ其合意ハ本部ノ規則ニ從フ

無名ノ合意ハ本部ニ掲ケタル合意ノ一般ノ規則ニ從フ又有名ノ合意ニ特別ナル規則ハ其合意ト最モ類似スル無名ノ合意ニ之ヲ適用スルコトヲ得

第二款 合意ノ成立及ヒ有効ノ條件
第三百四條 凡ソ合意ノ成立スル爲メニハ左ノ三箇ノ條件ヲ具備スルヲ必要トス

- 第一 當事者又ハ代人ノ承諾
- 第二 確定ニシテ各人カ處分權ヲ有スル目的
- 第三 眞實且合法ノ原因

右ノ外尙ホ要式ノ合意ハ必要ノ方式ヲ遵守シ要物ノ合意ハ返還セラ
ルベキ物ノ引渡ヲ爲シタルニ非サレハ成立セス

第三百五條 合意ノ成立ニ必要ナル條件ノ外尙ホ其有効ノ爲メニハ左
ニ掲クルニ箇ノ條件ヲ具備スルヲ必要トス

第一 承諾ノ瑕疵ヲ成ス可キ錯誤又ハ強暴ノ無キコト

第二 當事者ノ能力アルコト又ハ有効ニ代理セラレタルコト

第三百六條 承諾トハ利害關係人トシテ合意ニ加ハル總當事者ノ意思
ノ合致ヲ謂フ

當事者中ノ一人カ承諾セサルトキハ他ノ當事者カ承諾シタルモ合意

ハ成立セス但此ニ異ナル意思ノ存セシ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第三百七條 承諾ハ書面、口頭又ハ容態ヲ以テ之ヲ與フルコトヲ得但

此末ノ場合コト於テハ他ニ同意ヲ表スルノ手段ナキコト且承諾スル意

思ノ確證アルコトヲ要ス

又承諾ハ事情ニ因リテ默示ヨリ成ルコトヲ得

第三百八條 遠隔ノ地ニ於テ取結フ合意ノ旨込ハ其受諾ノ爲メ明示又

ハ默示ノ期間ナキトキハ受諾ノ報ナキノ間ハ之ヲ言消スコトヲ得但

言消ノ報ノ達スルニ先ヲ受諾ノ報ヲ發シタルトキハ其受諾ハ有効

ニシテ其言消ハ無効ナリ

右ニ反シ明示又ハ默示ノ期間アルトキハ其期間ハ旨込ヲ言消スコト

得ス但言消ノ報カ旨込又ハ期間指示ノ報ニ先ヲ受諾ノ報ニ先方ニ

達シタルトキハ此限ニ在ラス

此指示期間ニ受諾ヲ爲サルトキハ旨込ハ期間満了ノミニテ消滅ス

受諾モ亦之ヲ言消スコトヲ得但其報カ受諾ノ報ニ先ヲ受諾ノ報ニ

旨込人ニ達スルコトヲ要ス

旨込人カ死亡シ又ハ合意スル能力ヲ失ヒタルモ先方カ未ダ此事實ヲ

知ラサル間ハ其受諾ハ有効ナリ

郵便、電信ノ錯誤ハ差出人ノ責ニ歸ス但郵便、電信ノ官署ニ對スル求

償權アルトキハ之ヲ行フコトヲ妨ケス

第三百九條 當事者ノ錯誤ニテ合意ノ性質、目的又ハ原因ノ著眼ニ相

違アリシトキハ其錯誤ハ承諾ヲ阻却ス

合意ノ緣由ノ錯誤ハ其錯誤ノミニテハ無効ノ原因ヲ成サス但當事者

ノ一方ノ詐欺ニ關シテ定ムルモノハ此限ニ在ラス

當事者ノ身上ノ錯誤ハ其身上ニ付テノ著眼カ決意ノ原因ナリシトキ

ハ其錯誤ハ承諾ヲ阻却ス

身上ノ著眼カ合意ノ附隨ノ原因タルニ過キサルトキハ其合意ハ身上ノ錯誤ノ爲メ單ニ取消スコトヲ得ヘキモノナリ

第三百十條 物上ノ錯誤カ物ノ品質ニ存スルトキハ其錯誤ハ承諾ノ瑕疵ヲ成ス但品質ニ付テノ著眼カ當事者ノ決意ヲ助成セサルトキハ此限ニアラス

之ニ反シテ物ノ品格ニ存スル錯誤ハ承諾ノ瑕疵ヲ成サス但當事者ノ意思カ明示又ハ事情ニ因リテ品格ニ著眼シタルコトノ明白ナルトキハ此限ニ在ラス物ノ時代、出處又ハ用方ノ如キ思想上ノ品格ニ付テモ亦同シ

合意ノ履行ノ時期又ハ場所ニ存スル錯誤ニ付テハ前項ノ規定ニ從フ算數、氏名、證書ノ日附又ハ場所ノ錯誤ニ付テハ第五百五十九條ノ規定ニ從フ

第三百十一條 法律ノ錯誤カ或ハ合意ノ性質、原因又ハ効力ニ存スルトキ或ハ物ノ資格又ハ人ノ分限ニ存シテ其資格若クハ分限カ決意ヲ爲シシメタルトキハ其錯誤ハ事實ノ錯誤ノ如ク承諾ヲ阻却シ又ハ其瑕疵ヲ成ス然レトモ裁判所ハ宥恕ス可キ情狀アルニ非サレハ右錯誤ノ爲メ合意

ノ無効ヲ認許スルコトヲ得ス

法律ノ錯誤ハ責罰ニ對シ時期ヨリ生スル法律上ノ失權ニ對シ又ハ行爲ノ違式ヨリ生スル無効ニ對シ此他公ノ秩序ニ係ル法律、規則ノ不知ニ對シテ當事者ヲ救護スル爲メニ之ヲ認許セス

第三百十二條 詐欺ハ承諾ヲ阻却セス又其瑕疵ヲ成サス但詐欺カ錯誤ヲ惹起シ其錯誤ノミヲ以テ前三條ニ記載セル如ク承諾ヲ阻却シ又ハ其瑕疵ヲ成ストキハ此限ニ在ラス

此他ノ場合ニ於テハ詐欺ハ之ヲ行ヒタル者ニ對スル損害賠償ノ訴權ヲミチ生ス

然レトモ當事者ノ一方カ詐欺ヲ行ヒ其詐欺カ他ノ一方ヲシテ合意ヲ爲スコトニ決意セシメタルトキハ其一方ハ賠償ノ名義ニテ合意ノ取消ヲ求メ且損害アルトキハ其賠償ヲ求ムルコトヲ得但其合意ノ取消ハ善意ナル第三者ヲ害スルコトヲ得ス

第三百十三條 強暴ハ當事者ノ一方カ抵抗スルコトヲ得サル暴行、脅迫ヲ受ケタルニ因リ枉ケテ合意ヲ爲シタルトキハ阻却ス當事者ノ一方カ不可抗力ニ出テタル急迫ノ災害ヲ避クル爲メ熟慮スルノ暇ナクシテ過度ナル義務ヲ約シ又ハ無思慮ナル讓渡ヲ爲シタル

暴行、脅迫又ハ災害カ抵抗ス可カラサルニ非サルモ當事者又ハ第三者ノ身體、財産ノ爲メ切迫ニシテ一層重大ノ害ヲ避クル爲メ當事者ヲシテ合意ヲ爲スコトニ決意セシメタルトキハ強暴ハ承諾ノ瑕疵ヲ成ス

第三百十四條 強暴ニ因リテ身體財産ニ危難ノ恐ヲ受ケタル第三者カ當事者ノ配偶者又ハ直系ノ親屬若クハ姻屬ナルトキハ其強暴ハ常ニ之ヲ當事者ニ加ヘザリト看做ス

此他ノ人ニ付テハ親屬ナルト姻屬ナルト又ハ外人ナルトヲ問ハス裁判所ハ此等ノ者ニ對シテ加ヘタル強暴カ當事者ノ承諾ニ及ホセシ影響ヲ其事情ニ從ヒテ査定ス

第三百十五條 強暴ハ當事者ノ一方ノ所爲ニ出テタルト第三者ノ所爲ニ出テタルト又第三者カ其一方ニ通謀セルト否トヲ問ハス上ノ區別ニ從ヒテ承諾ヲ阻却シ又ハ其瑕疵ヲ成ス

第三百十六條 強暴ヲ受ケタル一方ハ合意ヲ銷除スルコトヲ得ル場合ニ於テモ強暴ヲ行ヒタル者ニ對シ損害賠償ノミヲ請求シテ其合意ヲ維持スルコトヲ得

強暴カ合意ノ決意ヲ爲サシメタルニ非スシテ單ニ不利ナル條件ヲ承諾セシメタルトキハ其合意ハ銷除スルコトヲ得ス但賠償ノ要求ヲ妨ケス

第三百十七條 強暴ノ場合ニ於テ裁判所ハ當事者ノ男女、年齢、強弱、智愚及ヒ相互ノ身分ヲ斟酌ス可シ

然レトモ卑屬親ノ尊屬親ニ對スル尊敬ノミニ出テタル畏懼ハ合意ヲ取消ス理由ト爲ラス

第三百十八條 錯誤、強暴、詐欺及ヒ無能力ハ之ヲ推定セス其申立人ヨリ之ヲ證スルコトヲ要ス

當事者ノ雙方ニ屬スル銷除訴權ノ方法ハ相互ノ非理ニ基クトキト雖モ互ニ毀滅セス但損害アルトキハ其賠償ノ相殺ヲ妨ケス

第三百十九條 前數條ノ場合ニ於ケル銷除訴權ハ無能力者又ハ瑕疵アル承諾ヲ與ヘタル者ノミニ屬ス

然レトモ處刑ノ言渡ヨリ生スル無能力ハ其言渡ヲ受ケタル者ト合意ヲ爲シタル者ヨリ之ヲ申立ツルコトヲ得

第三百二十條 取消スコトヲ得ヘキ合意ヲ第三章第七節ニ定メタル期間ニ攻撃セサルトキハ默示ニテ之ヲ認諾シタルモノト看做ス

此他默示認諾ノ場合及ヒ明示認諾ノ方式ハ右同節ノ規定ニ從フ

第三百二十一條 合意ハ未來ニ係リ且成立ノ不確定ナル物ヲ目的トスルコトヲ得此場合ニ於テ諾約者ハ其諾約ノ實施ヲ妨碍シ若クハ減縮スル何等ノ事ヲモ爲サス又其實施ニ便ス可キ何等ノ事ヲモ放却シ若クハ怠ラサルコトヲ要ス

然レトモ相續ニテ受ク可キ財産ヲ讓渡ス合意ハ其相續ヲ遺ス可キ人ノ承諾アリト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三百二十二條 合意ハ不法又ハ不能ノ作爲又ハ不作爲ヲ目的トスルトキハ無効ナリ

合意ノ目的タル第三者ノ作爲又ハ不作爲カ合法又ハ可能ナリト雖トモ若シ諾約者カ其第三者ニ對シテ威權ヲ有セサルトキハ其諾約ハ之ヲ能ク作爲又ハ不作爲ヲ目的トセルモノト看做ス

然レトモ何人ニテモ第三者ノ作爲又ハ不作爲ニ付キ明示ニテ擔保人ト爲ルコトヲ得此場合ニ於テハ諾約者ハ保證人ノ義務ニ服ス

又何人ニテモ第三者ニ代ハリテ諾約ヲ爲シ若シ其第三者カ之ヲ履行セサルニ於テハ過怠金ヲ辨濟ス可キ責ニ服スルコトヲ得

何人ニテモ第三者ノ名ヲ以テ合意ヲ爲シ第三者ヲシテ之ヲ承認セシ

ト可キコトノヨリ諾約シタルトキハ其第三者ノ承認シタル時ヨリ義務ヲ免カル

第三百二十三條 要約者カ合意ニ付キ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ正當ノ利益ヲ有セサルトキハ其合意ハ原因ナキ爲メ無効ナリ

第三者ノ利益ノ爲メニ要約ヲ爲シ且之ニ過怠約款ヲ加ヘサルトキハ其要約ハ之ヲ要約者ニ於テ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ有セサルモノト看做ス

然レトモ第三者ノ利益ニ於ケル要約ハ要約者カ自己ノ爲メ爲シタル要約ノ從マリ又ハ諾約者ニ爲シタル贈與ノ從タル條件ナルトキハ有効ナリ

右二箇ノ場合ニ於テ從タル條件ノ履行ヲ得サルトキハ要約者ハ單ニ合意ノ解除訴權又ハ過怠約款ノ履行訴權ヲ行フコトヲ得

第三百二十四條 主マリ又ハ從タル要約ハ常ニ要約者ノ相續人ノ利益ノ爲メニ之ヲ爲スコトヲ得

主マリ又ハ從タル諾約ハ諾約者ノ相續人ノ負擔トシテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百二十五條 前二條ノ場合ニ於テ第三者又ハ相續人ノ利益ノ爲メ

ニ爲シタル要約ハ享益者ノ之ヲ承諾セサル間ハ要約者ハ自己ノ利益
ノ爲メニ之ヲ廢罷シ又ハ之ヲ他人ニ移轉スルコトヲ得

第三百二十六條 合意ノ證書ニ原因ヲ明示シタルト否トテ問ハス其原
因ノ不成立ハ必ズ又ハ不法ナルコトノ證據ハ被告ヨリ之ヲ爲ス可キ
モノトス若シ原因ノ明示ナキトキハ被告ハ先ツ原告ヲシテ其原因ヲ
陳述セシムル爲メニ之ニ催告スルコトヲ得但其原因ニ付キ争フコト
ヲ妨ケス

第三款 合意ノ効力

第一則 當事者間及ヒ其承繼人間ノ合意ノ効力

第三百二十七條 適法ニ爲シタル合意ハ當事者ノ間ニ於テ法律ニ同シ
キ効力ヲ有ス

此合意ハ當事者ノ雙方カ承諾スルニ非サレハ之ヲ廢罷スルコトヲ得
ス但法律カ一方ノ意思ヲ以テ廢罷スルコトヲ許セル場合ハ此限ニ在
ラス

第三百二十八條 當事者ハ合意ヲ以テ普通法ノ規定ニ依ラサルコトヲ
得又其効力ヲ増減スルコトヲ得但公ノ秩序及ヒ善良ノ風俗ニ觸ル、
コトヲ得ス

第三百二十九條 合意ハ當事者ノ明示及ヒ默示ノ効力ノミナラス尙ホ
合意ノ性質ニ從ヒテ條理若シハ慣習ヨリ生シ又ハ法律ノ規定ヨリ生
スル効力ヲ有ス

第三百三十條 合意ハ善意ヲ以テ之ヲ履行スルコトヲ要ス
第三百三十一條 特定物ヲ授與スル合意ハ引渡ヲ要セズ直チニ其
所有權ヲ移轉ス但合意ニ附帶スルコト有ル可キ停止條件ニ關シ下ニ
規定スルモノヲ妨ケス

第三百三十二條 代替物ヲ授與スル合意ハ諾約者ヲシテ其物ノ所有權
ヲ約束シタル性質、品格及ヒ分量ヲ以テ要約者ニ移轉スル義務ヲ負
ハシム此場合ニ於テ所有權ハ物ノ引渡ニ因リ又ハ當事者立會ニテ爲
シタル其指定ニ因リテ移轉ス

第三百三十三條 前二條ノ場合ニ於テハ約束シタル時日及ヒ場所ニ於
テ諾約者ノ注意及ヒ費用ニテ物ノ引渡ヲ爲スコトヲ要ス
引取ノ費用ハ要約者之ヲ負擔ス

證書ノ費用ハ有償行爲ニ付テハ當事者雙方之ヲ負擔シ無償行爲ニ付
テハ享益者之ヲ負擔ス

不動産ノ引渡ハ證書ノ交付及ヒ場所ノ明渡ヲ以テ之ヲ爲ス但簡易ノ

引渡及ヒ占有ノ改定ニ關シ第百九十一條ニ規定シタルモノヲ妨ケス
債權ノ引渡ハ證書ノ交付ヲ以テ之ヲ爲ス

引渡ノ期限ノ定マラザリシトキハ即時ニ引渡ヲ要求スルコトヲ得
引渡ノ場所ノ定マラザリシトキハ特定物ニ付テハ合意ノ當時其物ノ
存在セシ場所、代替物ニ付テハ其物ノ指定ヲ爲シタル場所其他ノ場
合ニ在テハ諾約者ノ住所ニ於テ引渡ヲ爲ス

第三百三十四條 諾約者ハ特定物ノ引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理人タ
ルノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス懈怠又ハ惡意アルトキハ
損害賠償ノ責ニ任ス

無償ニテ讓渡シタル物ノ保存ニ付テハ諾約者ハ自己ノ物ニ加フルト
同一ノ注意ヲ加フルノミノ責ニ任ス

此他諾約者カ右ト同一ノ注意ノミヲ負擔スル場合ハ其各事項ニ於テ
之ヲ規定ス

第三百三十五條 授與スル合意カ特定物ヲ目的トスルトキハ意外ノ事
又ハ不可抗力ニ出テタル其物ノ滅失又ハ毀損ハ諾約者カ危險ヲ負擔
シタル場合及ヒ停止條件ニ關スル規定ヲ除クハ要約者ノ損ニ歸ス
物ノ増加ハ要約者ノ益ニ歸ス

然レトモ諾約者カ物ノ引渡ノ遲滯ニ付セラレタルトキハ其滅失又ハ
毀損ハ諾約者ノ負擔ニ歸ス但縱令引渡ヲ爲シタルモ滅失又ハ毀損ヲ
免ル可カラザリシ場合ハ此限ニ在ラス

第三百三十六條 左ノ場合ニ於テハ諾約者其他ノ債務者ハ遲滯ニ付セ
ラレタルモノトス

第一 期限ノ到來後ニ裁判所ニ請求ヲ爲シ又合式ニハ催告書ヲ送
達シ若クハ執行文ヲ示シタルトキ

第二 期限ノ到來ノミニ因リテ遲滯ニ付スルコトヲ法律又ハ合意
ヲ以テ定メタル場合ニ於テ其期限ノ到來シタルトキ

第三 諾約者カ或ル時期ニ後レタル履行ハ要約者ニ無用ナルコト
ヲ知リテ其時期ヲ經過セシメタルトキ

第三百三十七條 作爲又ハ不作爲ノ義務ヲ定ムル合意ノ効力ハ第三百
八十二條ノ規定ニ從フ

第三百三十八條 合意ハ當事者ノ相續人其他一般ノ承繼人ヲ利シ又ハ
之ヲ害ス但法律又ハ合意ニ於テ格別ノ定ヲ爲シタル場合ハ此限ニ在
ラス

第三百三十九條 債權者ハ其債務者ニ屬スル權利ヲ申立テ及ヒ其訴權

ヲ行フコトヲ得

債權者ハ此事ノ爲メ或ハ差押ノ方法ニ依リ或ハ債務者ノ原告又ハ被告タル訴ニ参加スルコトニ依リ或ハ民事訴訟法ニ從ヒテ得タル裁判上ノ代位ヲ以テ第三者ニ對スル間接ノ訴ニ依ル

然レトモ債權者ハ債務者ニ屬スル純然タル權能又ハ債務者ノ一身ニ專屬スル權利ヲ行フコトヲ得ヌ又法律又ハ合意ノ明文ヲ以テ差押ヲ禁シタル財産ヲ差押フルコトヲ得ヌ

第三百四十條 右ニ反シ債權者ハ其債務者カ第三者ニ對シ承諾シタル義務、拋棄又ハ讓渡ニ付キ其損害ヲ受ク但債權者ノ權利ヲ詐害スル行爲ハ此限ニ在ラス

債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ自己ノ財産ヲ減シ又ハ自己ノ債務ヲ増シタルトキハ之ヲ詐害ノ行爲トス

第三百四十一條 詐害ノ行爲ノ廢罷ハ債務者ト約束シタル者及ヒ轉得者ニ對シ次條ノ區別ニ從ヒ債權者ヨリ廢罷訴權ヲ以テ之ヲ請求ス
債務者カ原告タルト被告タルトト問ハス詐害スル意思ヲ以テ故サラニ訴訟ニ失敗シタルトキハ債權者ハ民事訴訟法ニ從ヒ再審ノ方法ニ依リテ訴フルコトヲ得

右號レノ場合ニ於テモ債務者ヲ訴訟ニ参加セシムルコトヲ要ス
債權者カ詐害ノ行爲ノ廢罷ヲ得ル能ハザルトキハ被告ニ對シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得

第三百四十二條 債權者ハ攻擧スル行爲ノ如何ヲ問ハス其債務者ノ詐害ヲ證スルコトヲ要ス此他有償ノ行爲ニ付テハ債務者ト約束シ又ハ之ト訴訟シタル者ノ通謀ヲ證スルコトヲ要ス

讓渡ニ對スル廢罷訴權ハ有償又ハ無償ノ轉得者カ最初ノ取得者ト約束スルニ當リ債權者ニ加ヘタル訴害ヲ知リタルトキニ非サレハ其轉得者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ヌ

第三百四十三條 廢罷ハ訴害行爲ニ先キ權利ヲ取得シタル債權者ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ヌ然レトモ廢罷ヲ得タルトキハ總債權者ヲ利ス但各債權者ノ間ニ於テ適法ノ先取原因ノ存スルトキハ此限ニ在ラス

第三百四十四條 廢罷訴權ハ訴害行爲ノ有リタル時ヨリ三十ケ年ニシテ時効ニ罹リ消滅ス若シ債權者カ訴害ヲ覺知シタルトキハ其覺知ノ時ヨリ二十ケ年ニシテ消滅ス

右ノ時効ハ再審申立ノ訴權ニ之ヲ適用ス

第二則 第三者ニ對スル合意ノ効力

第三百四十五條 合意ハ當事者及ヒ其承繼人ノ間ニ非サレハ効力ヲ有セスト雖モ法律ニ定メタル場合ニ於テシ且其條件ニ從フトキハ第三者ニ對シテ効力ヲ生ス

第三百四十六條 所有者カ一箇ノ有體動産ヲ二箇ノ合意ヲ以テ各別ニ二人ニ與ヘタルトキハ其二人中現ニ占有スル者ハ證書ノ日附ハ後ナリトモ其所有者タリ但其者カ自己ノ合意ヲ爲ス當時ニ於テ前ノ合意ヲ知ラス且前ノ合意ヲ爲シタル者ノ財産ヲ管理スル責任ナキコトヲ要ス

此規則ハ無記名證券ニ之ヲ適用ス

第三百四十七條 記名證券ノ讓受人ハ債務者ニ其讓受ヲ合式ニ告知シ又ハ債務者カ公正證書若クハ私署證書ヲ以テ之ヲ承諾シタル後ニ非サレハ自己ノ權利ヲ以テ讓渡人ノ承繼人及ヒ債務者ニ對抗スルコトヲ得ス
債務者ハ讓渡ヲ承諾シタルトキハ讓渡人ニ對スル抗辯ヲ以テ新債權者ニ對抗スルコトヲ得ヌ又讓渡ニ付テノ告知ノミコトハ債務者ヲシテ其告知後ニ生スル抗辯ノミヲ失ハシム

右ノ行爲ノ一ヲ爲スマテハ債務者ノ辨濟、免責ノ合意、讓渡人ノ債權者ヨリ爲シタル拂渡差押又ハ合式ニ告知シ若クハ承諾ヲ得タル新讓渡ハ總テ善意ニテ之ヲ爲シタルモノトノ推定ヲ受ケ且之ヲ以テ懈怠ナル讓受人ニ對抗スルコトヲ得

當事者ノ惡意ハ其自己ニ因ルニ非サレハ之ヲ證スルコトヲ得ス然レトモ讓渡人ト通謀シタル詐害アリシトキハ其通謀ハ通常ノ證據方法ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得

裏書ヲ以テスル商證券ノ讓渡ニ特別ナル規則ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

第三百四十八條 左ニ掲クル諸件ハ財産所在地ノ區裁判所ニ備ヘタル登記簿ニ之ヲ登記ス

第一 不動産所有權其他ノ不動產物權ノ讓渡

第二 右ノ權利ノ變更又ハ拋棄

第三 差押ヘタル不動産ノ競落

第四 公用徵收ヲ宣言シタル判決又ハ行政上ノ命令

第三百四十九條 登記ハ當事者ノ請願ニ因リ其費用ヲ以テ之ヲ爲ス請願者ニハ其求ニ因リテ登記ノ認證書ヲ交付ス

何人ニテモ登記簿ノ抄本ヲ要求スルコトヲ得
登記ニ關スル方式ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第三百五十條、第三百四十八條ニ掲ケタル行爲、判決又ハ命令ノ効力ニ因リテ取得シ變更シ又ハ取回シタル物權ハ其登記ヲ爲スマテハ仍ホ名義上ノ所有者ト此物權ニ付キ約束シタル者又ハ其所有者ヨリ此物權ト相容レサル權利ヲ取得シタル者ニ對抗スルコトヲ得ス但其者ノ善意ニシテ且其行爲ノ登記ヲ要スルモノナルトキハ之ヲ爲シタルトキニ限ル

惡意及ヒ通謀ニ付テハ第三百四十七條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ證スルコトヲ得

第三百五十一條、法律、裁判又ハ合意ニ因リテ前取得者ノ爲メ登記ヲ爲ス義務アル者カ之ヲ爲サスシテ後ニ取得者ト爲リタルトキハ善意アリト雖モ自己又ハ其相續人若クハ一般ノ承繼人ヨリ登記ナキコトヲ申立テ、前取得者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百五十二條、登記ヲ經タル讓渡ノ解除、銷除又ハ廢罷ヲ爲サントスル訴權カ善意ノ轉得者ニ對シテ行フコトヲ得サル場合ニ在テハ原告ハ爾後自己ニ對抗スルコトヲ得ヘキ登記ヲ防止スル爲メ其攻撃ス

ル行爲ノ登記ニ豫メ訴狀ノ抜抄ヲ附記ス

右ノ訴權ヲ總テノ轉得者ニ對シテ行フコトヲ得ヘキ場合ニ在テハ其攻撃スル行爲ノ登記ニ訴狀ヲ附記セサル間ハ裁判所ニ於テ其訴訟ヲ受理セス

行爲取消ノ判決ハ假執行アリトモ其執行以前ニ訴狀ノ附記ノ末尾ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス縱令執行ナキモ亦其判決ノ確定ト爲リタル時ヨリ一ヶ月内ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス此ニ違ハタルトキハ其判決ヲ得タル者ヲ五十圓以下ノ過料ニ處ス裁判所ハ請求ヲ却下シ又ハ其手續ノ失効ヲ宣告シタルトキハ其判決ノ確定ニ至リテ訴狀ノ附記ヲ抹消セシムル爲メ職權ヲ以テ豫メ其抹消ヲ命ス

原告カ取下ヲ爲シタルトキハ當事者ノ請願ニ因リテ訴狀ノ附記ヲ抹消ス

第三百五十三條、登記ヲ經タル行爲ノ協議上ノ解除、銷除又ハ廢罷ハ總テ之ヲ任意ノ讓戻ト看做シ第三百四十八條乃至第三百五十一條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

右登記ハ登記官吏其職權ヲ以テ取消ト爲リタル行爲ノ登記ニ之ヲ附記ス

第三百五十四條 登記及ヒ附記ハ總テ利害ノ關係ヲ有スル者ヨリ其抹消又ハ改正ヲ請求スルコトヲ得

右請求及ヒ其判決ハ第三百五十二條ノ規定シタル如ク其爭フ行爲ノ附記ニ之ヲ登記スルコトヲ要ス此ニ違フ者ノ責罰モ亦同條ノ規定ニ從フ

能力ヲ有シ又ハ合式ニ代理セラレ若クハ保佐セラレタル當事者ハ協議ニテ抹消又ハ改正ヲ承諾スルコトヲ得

裁判上ニテ合式ニ命シ又ハ協議ニテ承諾シタル抹消又ハ改正ハ登記ヲ爲シタル權利者ヲ此事ニ付キ異議ヲ述ヘシムル爲メニ召喚シ又ハ其承服ヲ得タルニ非サレハ之ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百五十五條 登記官吏ハ前數條ニ掲ゲタル登記、記載、抹消若クハ改正又ハ登記認證書ニ於ケル脱漏又ハ訛誤ニ付キ請願者又ハ利害關係人ニ對シテ其責ニ任ス

第四款 合意ノ解釋

第三百五十六條 合意ノ解釋ニ付テハ裁判所ハ當事者ノ用弁タル語辭ノ字義ニ拘ハラシヨリ寧ロ當事者ノ共通ノ意思ヲ推尋スルコトヲ要ス

第三百五十七條 一箇ノ語辭カ各地ニ於テ意義ヲ異ニスルトキハ當事者雙方ノ住所ヲ有スル地ニ於テ慣用スル意義ニ從ヒ若シ同一ノ地ニ住所ヲ有セサルトキハ合意ヲ爲シタル地ニ於テ慣用スル意義ニ從フ一箇ノ語辭ニ本來ニ様ノ意義アルトキハ其合意ノ性質及ヒ目的ニ最も適スル意義ニ從フ

第三百五十八條 合意ノ各項目ハ合意ノ全体ト最も善ク一致スル意義ニ從ヒテ相互ニ之ヲ解釋ス

一箇ノ項目ニニ様ノ意義アリテ其一カ項目ヲ有効ナラシムルトキハ其意義ニ從フ

第三百五十九條 合意ノ語辭カ如何ニ廣泛ナルモ其語辭ハ當事者ノ合意ヲ爲スニ付キ期望シタル目的ノミヲ包含セルモノト推定ス
當事者カ合意ノ自然若クハ法律上ノ効力ノ一ヲ明言シ又ハ特別ノ場合ニ於ケル其適用ヲ明言シタルモ慣習若クハ法律ニ因リテ生スル他ノ効力又ハ適當ニ受ク可キ他ノ適用ヲ阻却セント欲シタルモノト推定セス

第三百六十條 總テノ場合ニ於テ當事者ノ意思ニ疑アルトキハ其合意ノ解釋ハ諾約者ノ利ト爲ル可キ意義ニ從フ

雙務ノ合意ニ於テハ此規定ハ各項目ニ付キ各別ニ之ヲ適用ス

第二節 不當ノ利得

第三百六十一條 何人ニテモ有意ト無意ト又錯誤ト故意トヲ問ハス正當ノ原因ナクシテ他人ノ財産ニ付キ利ヲ得タル者ハ其不當ノ利得ノ取戻ヲ受ク

此規定ハ下ノ區別ニ從ヒ主トシテ左ノ諸件ニ之ヲ適用ス

第一 他人ノ事務ノ管理

第二 負擔ナクシテ辨濟シタル物及ヒ虛妄若クハ不法ノ原因ノ爲メ又ハ成就セス若クハ消滅シタル原因ノ爲メニ供與シタル物ノ領受

第三 遺贈其他遺言ノ負擔ヲ付シタル相續ノ受諾

第四 他人ノ物ノ添附ヨリ又ハ他人ノ勞力ヨリ生スル所有物ノ増加

第五 他人ノ物ノ占有者カ不法ニ收取シタル果實、產出物其他ノ利益及ヒ之ニ反シテ占有者カ其占有物ニ加ヘタル改良但第百九十四條乃至第百九十八條ニ規定シタル區別ニ從フ

第三百六十二條 不在者其他ノ人ノ財産ニ侵害アリト見ユルトキ合意

上、法律上又ハ裁判上ノ委任ナク好意ヲ以テ其事務ヲ管理スル者ハ本主ノ財産ヨリ收メタル利益ヲ返還シ且其管理ノ際自己ノ名ニテ取得シタル權利及ヒ訴權ヲ本主ニ移轉スル責アリ

右管理者ハ本主又ハ其相續人カ自ラ管理ヲ爲シ得ルニ至ルマテ其管理ヲ繼續スル責アリ

又右管理者ハ過失又ハ懈怠ニ因リテ本主ニ加ヘタル損害ノ責ニ任ス但管理者カ其管理ニ任スルニ至レル事情ヲ酌量スルコトヲ要ス

第三百六十三條 本主ハ管理者カ管理ノ爲メニ出シタル必要又ハ有益ナル諸費用ヲ賠償シ及ヒ管理者カ其管理ノ爲メニ自身ニ負擔シタル義務ヲ免カレシメ又ハ其擔保ヲ爲スコトヲ要ス

若シ本主ノ意思ニ反シ管理ヲ爲シタルトキハ管理者ハ出訴ノ日ニ於テ存在スル費用又ハ約務ノ有益ノ限度ニ非サレハ賠償ヲ受タルコトヲ得ス

第三百六十四條 債權者ニ非スシテ辨濟ヲ受ケタル者ハ其善意ト惡意ト又辨濟者ノ錯誤ト故意トヲ問ハス訴ヲ受ケタル日ニ於テ現ニ已レタル利シタルモノ、取戻ヲ受ク

第三百六十五條 辨濟ヲ受ケタル者カ債權者ナルモ債務者ニ非サル者

ヨリ之ヲ受ケタルトキハ辨濟者カ錯誤ニテ辨濟ヲ爲シタルトキニ非
サレハ其取戻ヲ許サス
債權者カ辨濟ヲ受ケタル爲メニ善意ニテ債權證書ヲ毀滅セントキモ
亦其取戻ヲ許サス

右二箇ノ場合ニ於テ辨濟者カ事務管理ノ訴權ニ依リ又ハ代位辨濟ノ
規則ニ依リ眞ノ債務者ニ對シテ有スル求償權ヲ妨ケス

第三百六十六條 眞ノ債務者ヨリ眞ノ債權者ニ辨濟ヲ爲シタル場合ニ
在テハ債務者カ其負擔シタル物ニ異ナル性質ノ物又ハ自己ニ屬セサ
ル物ヲ錯誤ニ因リ辨濟トシテ與ヘタルトキニ非サレハ其取戻ヲ許サ
ス

或ハ期限ニ先ダチテ辨濟ヲ爲シ或ハ辨濟ヲ實行ス可キ場所外ニ於テ
辨濟ヲ爲シ或ハ諾約シタル物ニ異ナル品質、品格若クハ價格ノ物ヲ
以テ辨濟ヲ爲シタルトキモ亦其取戻ヲ許サス但當事者ノ一方ノ錯誤
ニ出テタルトキハ其一方ハ爲メニ受ケタル損失ヲ他ノ一方ノ得タル
利益ノ割合ニ應シテ賠償セシムルコトヲ妨ケス

第三百六十七條 第三百六十一條第二號ニ掲ケタル供與ニシテ辨濟ノ
性質ヲ有セサルモノニモ亦第三百六十四條ノ規定ヲ適用ス

然レトモ不法ノ原因ノ爲メ供與シタル物又ハ有價物ハ其原因カ之ヲ
供與シタル者ノ方ニ於テ不法ナルトキハ其取戻ヲ許サス

第三百六十八條 第三百六十一條第二號ニ掲ケタル供與ヲ惡意ニテ領
受シタル者ハ訴ヲ受ケタル日ニ於テ其不當ニ已レテ利シタルモノ、
外尙ホ左ノ物ヲ返還ス可シ

第一 元本ヲ領受セシ時ヨリノ法律上ノ利息

第二 收取ヲ怠リ又ハ消費シタル特定物ノ果實及ヒ產出物

第三 自己ノ過失又ハ懈怠ニ因ル物ノ價額ノ喪失又ハ減少ノ償金
縱令其喪失又ハ減少カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因ルモ其物カ供
與者ノ方ニ在ルニ於テハ此損害ヲ受ケサル可カリントキハ亦同
シ

第三百六十九條 不當ニ領受シタル物カ不動産ニシテ且之ヲ第三者ニ
讓渡シタルトキハ初ノ引渡人ハ其選擇ヲ以テ或ハ第三所持者ニ對シ
テ其不動産ノ回復ヲ訴ヘ或ハ領受者ニ對シテ其代金ノ取戻ヲ訴フル
コトヲ得

善意ナル領受者ニ對シテハ單ニ不動産ノ讓渡代金ヲ取戻シ又ハ其代
金ニ關スル訴權ヲ要求シ願意ナル領受者ニ對シテハ其代金ヲ評價ニ

ヲ取戻スコトヲモ得

第三節 不正ノ損害即チ犯罪及ヒ准犯罪

第三百七十條 過失又ハ懈怠ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ其賠償ヲ爲ス責ニ任ス

此損害ノ所爲カ有意ニ出テタルトキハ其所爲ハ民事ノ犯罪ヲ成シ無意ニ出テタルトキハ准犯罪ヲ成ス

犯罪及ヒ准犯罪ノ責任ノ廣狹ハ合意ノ履行ニ於ケル詐欺及ヒ過失ノ責任ニ關スル次章第二節ノ規定ニ從フ

第三百七十一條 何人ヲ問ハス自己ノ所爲又ハ懈怠ヨリ生スル損害ニ付キ其責ニ任スルノミナラス尙ホ自己ノ威權ノ下ニ在ル者ノ所爲又ハ懈怠及ヒ自己ニ屬スル物ヨリ生スル損害ニ付キ下ノ區別ニ從ヒテ其責ニ任ス

第三百七十二條 父權ヲ行フ尊屬親已レト同居スル未成年ノ卑屬親ノ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ス

後見人ハ已レト同居スル被後見人ノ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ス
瘋癲白痴ヲ看守スル者ハ瘋癲白痴者ノ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ス

醫師、師匠及ヒ工場長ハ未成年ノ生徒、習業者及ヒ職工カ自己ノ監督ノ下ニ在ル間ニ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ス

本條ニ指定シタル責任者ハ損害ノ所爲ヲ防止スル能ハサリシコトヲ證スルトキハ其責ニ任セス

第三百七十三條 主人、親方又ハ工事、運送等ノ營業人若クハ總テノ委託者ハ其雇人、使用人、職工又ハ受任者カ受任ノ職務ヲ行フ爲メ又ハ之ヲ行フニ際シテ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ス

第三百七十四條 動物ノ加ヘタル損害ノ責任ハ其所有者又ハ損害ノ當時之ヲ使用セル者ニ歸ス但其損害ノ意外ノ事又ハ不可抗力ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス

第三百七十五條 建物其他ノ工作物ノ所有者ハ此等ノ工作物ノ崩落カ修繕ノ欠缺又ハ築造ノ瑕疵ニ出テタルトキハ其崩落ニ因リテ加ヘタル損害ノ責ニ任ス但此末ノ場合ニ於テハ工事請負人ニ對スル求償權ヲ妨ケス

堤防ノ破潰ニ因リ投錨若クハ繫纜ノ粗忽ニ因リ又ハ樹木、柱竿、目隠、看板、屋瓦其他堅牢ヲ缺ケル建物ノ部分ノ崩落墮落ニ因リテ加ヘタル損害ニ付テモ亦同シ

第三百七十六條 自治産ナリト否トテ問ハス未成年者ハ其有意又ハ粗忽ニテ加ヘタル不正ノ損害ニ付テハ刑事上責任ヲ免カル可キトキト雖モ民事上責任アリト宣告セラレハコト有リ
又右未成年者ハ其雇人若クハ使用人又ハ自己ニ屬スル物ノ加ヘタル損害ニ付キ民事上其責ニ任セシメラル、コト有リ但後見人ニ對スル求償權ヲ妨ケス

第三百七十七條 前數條ノ場合ニ於テ加害者ニ責任アリト認ムルトキハ裁判所ハ之ニ對シテ主タル裁判ヲ言渡シ且民事擔當人ノ附隨ノ義務ノ廣狹ヲ定ム但民事擔當人ハ犯罪者ニ對シテ當然求償權ヲ有ス民事擔當人ハ法律ニ特定シタル場合ニ非サレハ犯罪者ノ言渡サレタル罰金ノ責ニ任セス

第三百七十八條 本節ニ定メタル總テノ場合ニ於テ數人カ同一ノ所爲ニ付キ責ニ任シ各自ノ過失又ハ懈怠ノ部分ヲ知ル能ハサルトキハ各自全部ニ付キ義務ヲ負擔ス但其謀ノ場合ニ於テハ其義務ハ連帶ナリ
第三百七十九條 民事ノ犯罪又ハ准犯罪カ刑事ノ犯罪ヲ成ストキハ犯罪者ニ付テモ民事擔當人ニ付テモ刑事訴訟法ヲ以テ定メタル民事訴訟ノ管轄及ヒ特効ニ關スル規則ヲ適用ス

第四節 法律ノ規定

第三百八十條 或ル義務ハ人ノ所爲ニ拘ハラヌ法得ニ依リテ之ヲ負擔セシム即チ左ノ如シ

第一 或ル親族間又ハ或ル姻族間ノ養料ノ義務

第二 後見ノ義務

第三 共有者間ノ義務

第四 相隣者間ノ義務ニシテ地役ヲ成サ、ルモノ

此等ノ義務ニ特別ナル規則ハ其各事項ニ於テ之ヲ掲グ

第二章 義務ノ効力

總則

第三百八十一條 義務ノ主タル効力ハ下ノ第一節第二節及ヒ第三節ニ定メタル區別ニ從ヒテ其義務ヲ直接ニ履行セシムル爲メ又不履行ノ場合ニ於テハ附隨トシテ損害ヲ賠償セシムル爲メノ訴權ヲ債權者ニ與フルニ在リ

右ノ外義務ノ効力ハ第四節ニ定メタル義務ノ諸種ノ體様ニ從ヒテ其廣狹ヲ異ニス

第一節 直接履行ノ訴權

第三百八十二條 義務ノ本質ニ從ヒテ直接ノ履行ヲ債權者ヨリ請求シ且債務者ノ身體ヲ拘束セスシテ履行セシムルコトヲ得ル場合ニ於テハ裁判所ハ其直接履行ヲ命スルコトヲ要ス引渡ス可キ有體物ニシテ債務者ノ財産中ニ在ルモノニ付テハ裁判所ノ威權ヲ以テ差押ヘ之ヲ債權者ニ引渡ス作爲ノ義務ニ付テハ裁判所ハ債務者ノ費用ヲ以テ第三者ニ之ヲ爲サシムルコトヲ債權者ニ許ス不作爲ノ義務ニ付テハ其義務ニ背キテ爲シタルモノヲ債務者ノ費用ヲ以テ毀壞セシメ及ヒ將來ノ爲メ適當ノ處分ヲ爲スコトヲ債權者ニ許ス此等ノ場合ニ於テ損害アリタルトキハ其賠償ヲ爲サシムルコトヲ妨

債務者ニ對スル強制執行ノ方法ハ民事訴訟法ヲ以テ之ヲ規定ス

第二節 損害賠償ノ訴權

第三百八十三條 債務者カ義務履行ヲ拒絕シタル場合ニ於テ債權者強制執行ヲ求メサルカ又ハ義務ノ性質上強制執行ヲ爲スコトヲ得サルトキハ債權者損害賠償ヲ爲サシムルコトヲ得債務者ノ責ニ歸ス可キ

履行不能ノ場合ニ於テモ亦同シ

又債權者ハ履行遅延ノミノ爲メ損害賠償ヲ爲サシムルコトヲ得

法律ヲ以テ損害賠償ノ額ヲ定メタル場合ノ外當事者之ヲ定メサリシトキハ下ノ區別及ヒ條件ニ從ヒテ裁判所之ヲ定ム

第三百八十四條 損害賠償ハ債務者カ第三百三十六條ニ依リテ遲滞ニ付セラレタル後ニ非サレハ之ヲ負擔セス

然レトモ不作爲ノ義務ニ於テハ債務者ハ常ニ當然遲滞ニ在リ

犯罪ニ因リテ他人ニ屬スル金銀其他ノ有價物ヲ返還スル責ニ任スル者モ亦同シ

第三百八十五條 損害賠償ハ債權者ノ受ケタル損失ノ償金及ヒ其失ヒタル利得ノ填補ヲ包含ス

然レトモ債務者ノ惡意ナク懈怠ノミニ出テタル不履行又ハ遅延ニ付テハ損害賠償ハ當事者カ合意ノ時ニ豫見シ又ハ豫見スルヲ得ヘカリ

シ損失ト利得ノ喪失トノミヲ包含ス

惡意ノ場合ニ於テハ豫見スルヲ得サリシ損害ト雖モ不履行ヨリ生スル結果ニシテ避ク可カラサルモノタルトキハ債務者其賠償ヲ負擔ス

第三百八十六條 損害賠償カ主タル訴ノ目的タルトキハ裁判所ハ金銀

ニテ其額ヲ定ム

損害賠償ノ請求カ直接履行ノ訴又ハ契約解除ノ訴ノ從タルトキハ裁判所ハ主タル請求ヲ決スルト同時ニ先ツ數額不定ノ損害賠償ヲ債務者ニ言渡シ其計算ハ疏明ヲ待チテ日後ニ之ヲ爲サシムルコトヲ得又裁判所ハ債務者ニ直接履行ヲ命スルト同時ニ其極度ノ期間ヲ定メ其遅延スル日毎ニ又ハ月毎ニ若干ノ償金ヲ拂フ可キヲ言渡スコトヲ得此場合ニ於テハ債務者ハ直接履行ヲ爲サスシテ損害賠償ノ即時ノ計算ヲ請求スルコトヲ得

第三百八十七條 不履行又ハ遅延ニ關シ當事者雙方ニ非理アルトキハ裁判所ハ損害賠償ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌ス

第三百八十八條 當事者ハ豫メ過怠約款ヲ設ケ不履行又ハ遅延ノミニ付テノ損害賠償ヲ定ムルコトヲ得

第三百八十九條 裁判所ハ過怠約款ノ數額ヲ増スコトヲ得ス又不履行若クハ遅延カ債務者ノ過失ノミニ出テサルトキ又ハ一分ノ履行アリタルトキニ非サレハ其數額ヲ減スルコトヲ得ス

第三百九十條 雙務契約ニ於テ不履行ニ付テノ過怠約款ヲ要約シタルトキト雖モ其債權者ハ解除ノ權利ヲ失ハス但明白ニ其權利ヲ拋棄シ

タルトキハ此限ニ在ラス

債權者ハ遅延ノミニ付テノ過怠約款ヲ要約シタルトキニ非サレハ解除ト過怠ヲ併セテ要求スルコトヲ得ス

第三百九十一條 金錢ヲ目的トスル義務ノ遅延ノ損害賠償ニ付テハ裁判所ハ法律上ノ利息ノ割合ト異ナル額ニ之ヲ定ムルコトヲ得ス但法律ノ特例アル場合ハ此限ニ在ラス

當事者カ損害賠償ノ數額ヲ定ムルトキハ合意上ノ利息ノ最上限以下タルコトヲ要ス

第三百九十二條 債權者ハ右ノ損害賠償ヲ請求スル爲メニ何等ノ損失ヲモ證スル責ニ任セス又債務者ハ其請求ヲ拒ム爲メニ意外ノ事又ハ不可抗力ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百九十三條 遅延利息ヲ生セシムル爲メ債務者ヲ遅滞ニ付スルニハ裁判所ニ其利息ヲ請求シ又ハ債務者ノ特別ノ追認ヲ得ルコトヲ要ス但法律カ當然此利息ヲ生セシムル場合及ヒ法律カ催告其他ノ行爲ニ因リテ此利息ヲ生セシムルヲ許セル場合ハ此限ニ在ラス

第三百九十四條 要求スルヲ得ヘキ元本ノ利息ハ填補タルト遅延タルトヲ問ハス其一ケ年分ノ延滞セル毎ニ特別ニ合意シ又ハ裁判所ニ請

求シ且其時ヨリ後ニ非サレハ此ニ利息ヲ生セシムル爲メ元本ニ組入ル、コトヲ得ス

然レトモ建物又ハ土地ノ貸賃、無期又ハ終身ノ年金權ノ年金返還ヲ受ク可キ果實又ハ產出物ノ如キ滿期ト爲リタル入額ハ一ケ年未滿ノ延滞タルトキト雖モ請求又ハ合意ノ時ヨリ其利息ヲ生スルコトヲ得、債務者ノ免責ノ爲メ第三者ノ拂ヒタル元本ノ利息ニ付テモ亦同シ

第三節 擔保

第三百九十五條 物權ト人權トヲ問ハス權利ヲ讓渡シタル者ハ讓渡以前ノ原因又ハ自己ノ責ニ歸ス可キ原因ニ基キタル追奪又ハ妨礙ニ對シテ其權利ノ完全ナル行使及ヒ自由ナル收益ヲ擔保スル責ニ任ス、擔保ニ二箇ノ目的アリ即チ第三者ノ主張ニ對シ讓受人ヲ保護スルコト及ヒ防止スル能ハサリシ妨礙若クハ追奪ニ對シ償金ヲ拂フコト是ナリ

第三百九十六條 擔保ハ有償ノ行爲ニ付テハ反對ノ要約ナキトキハ當然存立シ無償ノ行爲ニ付テハ之ヲ諾約シタルニ非サレハ存立セス、然レトモ如何ナル場合ニ於テモ又如何ナル要約ノ爲メニモ讓渡人ハ自ラ讓受人ニ妨礙ヲ加フルコトヲ得ス又第三者ヲ讓渡人ノ授與シタル權利ニ依リテ讓受人ニ妨礙ヲ加ヘ又ハ追奪ヲ爲シタルトキハ讓渡人ハ其擔保ノ責ニ任ス但權利ノ授與カ無擔保ニテ爲シタル讓渡ノ以前ニ在ルトキト雖モ亦同シ

右擔保ノ義務ハ讓渡人ノ相續人ニ移轉ス、第三百九十七條 買主又ハ賃借人ノ爲メニスル賣主又ハ賃貸人ノ擔保及ヒ共同分割者ノ相互ノ擔保ニ特別ナル規則ハ其擔保ヲ生スル契約及ヒ行爲ノ各事項ニ於テ之ヲ規定ス

第三百九十八條 他人ト共ニ又ハ他人ノ爲メニ義務ヲ負擔スル者ハ保證連帶及ヒ不可分ノ事項ニ於テ規定シタル如ク他人ノ免責ノ爲メニ爲シタル辨濟ニ付キ擔保ノ求償權ヲ有ス

又債權者ノ一人カ連帶又ハ不可分ノ義務ノ皆濟ヲ受ケタルトキハ他ノ債權者ハ其一人ノ收メタル利益ノ分與ニ付キ之ニ對シテ特別ナル訴權ヲ有セサルトキハ擔保ノ訴權ヲ有ス

第三百九十九條 擔保ニ付キ權利ヲ有スル者ハ訴ヲ受ケタルトキ民事訴訟法ニ從ヒテ擔保人ノ訴訟參加ヲ請求スルコトヲ得

第四百條 擔保人ヲ訴訟ニ參加セシメスシテ追奪ヲ受ケ又ハ他人ノ債務ヲ辨濟シタル者ハ主タル訴訟ヲ以テ擔保人ニ對シ擔保ヲ請求スル

コトヲ得但擔保人カ前ノ請求ヲ却下セシムルニ有効ナル方法ヲ有セ
シコトヲ證スルトキハ此限ニ在ラス

第四節 義務ノ諸種ノ體様

第四百一條 義務ハ左ノ場合ニ從ヒテ其體様ヲ變ス

第一 義務ノ成立ノ單純、有期又ハ條件附ナルトキ

第二 義務ノ目的ノ單一、選擇又ハ任意ナルトキ

第三 債權者又ハ債務者ノ單數又ハ複數ナルトキ

第四 義務ノ性質又ハ其履行ノ可分又ハ不可分ナルトキ

義務ハ其體様ノ變スルニ從ヒテ其効力モ亦變ス

第一款 成立ノ單純、有期又ハ條件附ナル義務

第四百二條 義務ノ成立カ初ヨリ正確ニシテ且即時ニ要求スルコトヲ

得ヘキトキハ其義務ハ單純ナリ

第四百三條 債權者カ或ル時期前又ハ時期ハ確定セサルモ必ス到來ス

可キ或ル事件ノ到來前ニ履行ヲ求ムルコトヲ得サルトキハ其義務ハ

有期ナリ

當事者ノ定メタル期限又ハ法律ニ依リテ許與シタル期限ハ之ヲ稱テ

上ノ期限トス

債務者ノ爲シ得ヘキ時又ハ欲スル時ニ辨濟ス可シトノ語辭アルトキ
ハ裁判所ハ債權者ノ請求ニ因リ事情ニ從ヒ及ヒ當事者ノ意思ヲ推定
シテ其履行ノ期間ヲ定ム但當事者カ無期ノ年金權ヲ設定セント欲シ
タル場合ハ此限ニ在ラス

第四百四條 債務者ハ期限ノ利益ヲ拋棄シテ滿期前ニ其義務ヲ履行ス

ルコトヲ得但要約ニ因リ又ハ事情ニ因リテ當事者雙方ノ利益又ハ債

權者ノヨリノ利益ノ爲メニ期限ヲ定メタル證據アルトキハ此限ニ在ラ

ズ

債權者ノヨリノ利益ノ爲メニ期限ヲ定メタル場合ニ於テハ債權者モ其

期限ヲ拋棄スルコトヲ得

當事者カ錯誤ニ因リテ滿期前ニ辨濟シタル場合ニ於テハ第三百六十

六條ノ規定ニ從フ

第四百五條 債務者ハ左ノ場合ニ於テ債權者ノ請求ニ因リ權利上ノ期

限ノ利益ヲ失フ

第一 債務者カ破産シ又ハ顯然無資力ト爲リタルトキ

第二 債務者カ財産ノ多分ヲ讓渡シ又ハ其多分カ他ノ債權者ノ差

償ヲ受クタルトキ

第三 債務者カ其供シタル特別ノ擔保ヲ毀滅シ若クハ減少シ又ハ其豫約シタル擔保ヲ供セサルトキ

第四 債務者カ填補利息ヲ拂ハサルトキ

第四百六條 權利上ノ期限ノ有無ヲ問ハス又執行力ヲ有スル證書アル場合ト雖モ債務者カ不幸且善意ニシテ債權者カ猶豫ノ爲メ確實ノ損害ヲ受ケサル可キトキハ裁判所ハ債務者ニ相應ナル恩惠上ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

又裁判所ハ右ノ條件ニ從ヒテ債務ノ一分ツ、ノ履行ヲ許スコトヲ得右ニ反スル要約ハ總テ無効ナリ

第四百七條 恩惠上ノ期限ヲ得タル債務者ハ第四百五條ニ定メタル場合ノ外尙ホ左ノ場合ニ於テモ之ヲ失フ

第一 債務者カ逃亡シ又ハ住所ヲ去リテ債權者ニ其居所ヲ隱秘スルトキ

第三 債務者カ言渡ヲ受ケタル條件ノ一ヲ行ハサルトキ

第四 債務者カ法律上ノ相殺ヲ爲シ得ヘキ場合ニ於テ自ラ其債權者ノ債權者ト爲リタルトキ

恩惠上ノ期限ハ裁判所ニ於テ更ニ之ヲ延フルコトヲ得ス

第四百八條 當事者又ハ法律カ義務ノ發生又ハ消滅ヲ未來且不確定ノ事件ノ有無ニ繫ラシムルトキハ其義務ハ條件附ナリ此條件ハ第一ノ

場合ニ於テハ停止ニシテ第二ノ場合ニ於テハ解除ナリ

物權モ亦主タルト從タルトヲ問ハス之ヲ停止又ハ解除ノ條件ニ繫ラシムルヲ得

第四百九條 停止ノ條件ノ成就スルトキハ合意ノ日ニ遡リテ其効ヲ生ス

解除ノ條件ノ成就スルトキハ當事者ヲシテ合意前ノ各自ノ地位ニ復セシム

第四百十條 停止又ハ解除ノ條件カ成就セサル間ハ當事者ノ各自ハ條件ヲ帶ヒタル權利ヲ其儘ニ第三者ニ授與スルコトヲ得

然レトモ其條件ヲ第三百四十七條以下ニ定メタル方法ニ從ヒテ公示シタルニ非サレハ當事者ノ一方又ハ其承繼人ハ之ヲ以テ他ノ一方ノ承繼人ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百十一條 解除條件ヲ帶ヒタル權利ヲ有スル者ノ善意ニ出テ且法律ニ從ヒテ爲シタル管理ノ行爲ハ第三者ノ利益ノ爲メニ之ヲ保持ス

解除條件ヲ帶ヒタル權利ヲ有スル當事者ノ一方ト第三者トニ對シテ

言渡サレタル判決ハ他ノ一方又ハ其承繼人之ヲ援用スルコトヲ得然レトモ右判決ハ他ノ一方ノ當事者又ハ其承繼人ヲ異議申述ノ爲メニ訴訟ニ召喚セサリシトキハ之ヲ以テ其當事者又ハ承繼人ニ對抗スルコトヲ得ス但其判決カ管理ノ行爲ノニ關スルトキハ此限ニ在ラス

第四百十二條 條件ノ成就シタルトキハ物又ハ金錢ヲ引渡シ又ハ返還ス可キ當事者ハ其成就セサル間ニ收取シ又ハ滿期ト爲レル果實若クハ利息ヲ交付スルコトヲ要ス但當事者間ニ反對ノ意思アル證據カ事情ヨリ生スルトキハ此限ニ在ラス

第四百十三條 合意ノ主タル目的ヲ不能又ハ不法ノ條件ニ繋ラシメタルトキハ其合意ハ無効ナリ

當事者ノ一方カ或ハ禁止ノ所爲ヲ行ヒ又ハ本分ノ責務ヲ盡サ、ルニ因リテ自己ニ利ヲ得或ハ禁止ノ所爲ヲ行ハス又ハ本分ノ責務ヲ盡スニ因リテ自己ニ害ヲ受ク可キトキハ其條件ハ不法ナリ
不能又ハ不法ノ條件カ合意ノ從タル効力ノニ關スルトキハ其約款ノニ成立セス

第四百十四條 條件カ偶成ナルトキ又ハ其全部若クハ一分カ要約者ノ

隨意ナルトキ諾約者カ其成就ヲ妨ケタルニ於テハ其條件ハ之ヲ成就シタルモノト看做ス

第四百十五條 條件カ全ク當事者ノ一方ノ隨意ナルトキハ他ノ一方ハ其成否ヲ決ス可キ或ル期限ヲ定メント裁判所ニ請求スルコトヲ得

第四百十六條 有的條件ノ爲メ當事者又ハ裁判所カ或ル期限ヲ定メタル場合ニ於テ事件カ到來セスシテ此期限ヲ經過シタルトキハ其條件ハ之ヲ成就セサルモノト看做ス條件ノ成否ノ爲メ期限ヲ定メタルト否トヲ問ハス事件ノ到來セサルコトノ確實ト爲リタルトキモ亦同シ無的條件ノ爲メ或ル期限ヲ定メタル場合ニ於テ事件カ到來セスシテ此期限ヲ經過シタルトキハ其條件ハ之ヲ成就シタルモノト看做ス又其期限ヲ定メタルト否トヲ問ハス事件ノ到來セサルコトノ確實ト爲リタルトキモ亦同シ

右孰レノ場合ニ於テモ裁判所ハ當事者ノ定メタル期限ヲ延フルコトヲ得ス

第四百十七條 當事者ノ一方又ハ雙方カ條件ノ成就又ハ不成就ノ前ニ死亡シタルトキハ合意ノ効力ハ其相續人ニ對シ働方又ハ受方ニテ存在ス但條件カ其性質ニ因リ又ハ當事者ノ意思ニ因リテ要約者又ハ陪

約者ノ一身ノミニ附著シタルトキハ此限ニ在ラス

一三八

第四百十八條 條件カ如何様ニ成就ス可キカ又如何ナル時ニ成就シ又ハ成就セスト看做サル可キカヲ知ルコトハ當事者ノ明示又ハ默示ノ意思ニ從ヒテ之ヲ決ス其條件ノ一分ノ成就ヨリ生ス可キ効力ニ付テモ亦同シ

第四百十九條 諾約シタル物カ諾約者ノ過失ナクシテ停止條件ノ成就前ニ其價額ノ全部又ハ其過半ノ喪失シタルトキハ合意ハ之ヲ成立セスト看做シ且孰レノ方ヨリ何等ノ要求ヲ爲スコトヲ得ス之ニ反シ解除條件ヲ以テ諾約シタルトキハ右同一ノ喪失ハ要約者ノ權利確定シテ其負擔ニ歸シ且何等ノ返還ヲモ要求スルコトヲ得ス前二項ノ場合ニ於テ喪失カ價額ノ半ヲ越エサルトキハ條件ノ成就ノ合意ノ効力ヲ生ス

第四百二十條 一分ノ喪失カ當事者ノ一方ノ責ニ歸ス可キトキハ他ノ一方ハ自己ノ選擇ヲ以テ或ハ損失ノ償金ト共ニ合意ノ履行ヲ請求シ或ハ損害ノ賠償ト共ニ合意ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

又全部喪失ノ場合ニ於テハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第四百二十一條 凡ソ雙務契約ニハ義務ヲ履行シ又ハ履行ノ申込ヲ爲

セル當事者ノ一方ノ利益ノ爲メ他ノ一方ノ義務不履行ノ場合ニ於テ常ニ解除條件ヲ包含ス

此場合ニ於テ解除ハ當然行ハレス損害ヲ受ケタル一方ヨリ之ヲ請求スルコトヲ要ス然レトモ裁判所ハ第四百六條ニ從ヒ他ノ一方ニ恩惠上ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第四百二十二條 當事者ハ前條ノ解除ヲ行ハサル旨ヲ明約スルコトヲ得

又當事者ハ履行ノ遲滞ニ付セラレタル一方ニ對シテ解除ノ當然行ハル可キ旨ヲ明約スルコトヲ得然レトモ遲滞ニ付セラレタル一方ハ他ノ一方カ其解除ヲ申立ツルニ非サレハ自己ヨリ之ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四百二十三條 不履行ノ爲メニ損害ヲ受ケタル當事者ハ默示ノ解除ノ場合ニ於テ未タ之ヲ裁判上ニテ請求セサル間又ハ明示ノ解除ノ場合ニ於テ未タ之ヲ援用スル旨ヲ述ヘサル間ハ其解除ヲ拋棄スルコトヲ得

第四百二十四條 裁判上ニテ解除ヲ請求シ又ハ援用スル當事者ハ其受ケタル損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得

第四百二十五條 當事者ハ其權利カ停止條件ニ繫リ又ハ其訴權カ權利上若クハ恩惠上ノ期限ノ爲メニ阻止ヲ受クルト雖モ其間ニ於テ本法及ヒ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ自己ノ權利ノ保存處分ヲ爲スコトヲ得

第四百二十六條 賣買契約ニ於テ特ニ慣用スル隨意ノ停止又ハ解除ノ條件ニ付テハ財産取得編第二十九條乃至第三十二條ノ規定ニ從フ
第二款 目的ノ單一、選擇又ハ任意ノ義務

第四百二十七條 義務カ一箇若クハ數箇ノ特定物又ハ定量物或ハ物ノ聚合、財産ノ包括ヲ目的トスルトキハ其義務ハ單一ナリ又義務カ同時又ハ順次ニ數箇ノ各別ナル供與ヲ目的トスル場合ト雖モ唯一又ハ牽連ノ合意ヲ以テ其供與ヲ負擔シタルトキハ尙ホ其義務ハ之ヲ單一ナリト看做ス

右軌レノ場合ニ於テモ債務者ハ負擔シタル總テノ物ヲ供與スルニ非サレハ其義務ヲ免カル、コトヲ得ス

第四百二十八條 義務カ數箇ノ各別ナル目的ヲ有スルモ債務者カ其中ノ幾箇ノ供與ヲ爲スコトヲ因リテ義務ヲ免カル可キトキハ其義務ハ選擇ナリ

供與ス可キ物ノ選擇ハ債務者ニ屬ス但其選擇ヲ債權者ニ許與シタルトキハ此限ニ在ラス

然レトモ債務者ハ選擇ニテ負擔シタル數箇ノ物ノ各ノ一分ヲ受クルコトヲ債權者ニ強ヒ又債權者ハ其各ノ一分ヲ與フルコトヲ債務者ニ強フルコトヲ得ス

第四百二十九條 選擇ヲ有スル當事者ノ競レタル同ハス二箇ノ物ノ一カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ滅失シタルトキハ義務ハ單一ト爲リテ其殘ル所ノ物ニ存ス

二箇ノ物カ共ニ全部滅失シタルトキハ義務ハ消滅ス

二箇ノ物ノ一カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ其價ノ半額ヨリ多キ部分ヲ喪失シタルトキハ其物ハ債務者ノ選擇ノ目的タルコトヲ得ス

第四百三十條 債務者カ實物ノ提供ヲ爲シ又ハ債權者カ合式ノ請求ヲ爲シテ一旦有効ニ行フタル選擇ハ當事者ノ一方ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ言消スコトヲ得ス

第四百三十一條 選擇カ債務者ニ屬スル場合ニ於テ二箇ノ物ノ一カ其過失ニ因リテ滅失シタルトキハ義務ハ殘ル所ノ物ニ存シ債務者ハ滅失シタル物ノ價金ヲ與ヘテ其義務ヲ免カル、コトヲ得ス

二箇ノ物カ債務者ノ過失ニ因リテ順次ニ滅失シタルトキハ債務者ハ後ニ滅失シタル物ノ價金ヲ負擔ス
又二箇ノ物カ同時ニ滅失シテ債務者カ其二箇又ハ一箇ニ對シ過失アリタルトキハ選擇ハ債權者ニ移轉シ之ヲシテ一箇ノ物ノ價金ヲ得セシム

第四百三十二條 同上ノ場合ニ於テ二箇ノ物ノ一カ債權者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カル但債務者ハ自己ノ選擇ヲ以テ殘ル所ノ物ヲ與ヘテ滅失シタル物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得
三箇ノ物カ共ニ債權者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ自己ノ選擇ヲ以テ一箇ノ物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得
二箇ノ物カ一ハ債權者ノ過失ニ因リ一ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ同時ニ滅失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カレ債權者ニ對シテ價金ヲ要求スルコトヲ得ス

第四百三十三條 合意ヲ以テ債權者ニ選擇ヲ與ヘタル場合ニ於テ二箇ノ物ノ一カ債務者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債權者ハ殘ル所ノ物ヲ要求シ又ハ滅失シタル物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得
三箇ノ物カ共ニ債務者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債權者ハ自己ノ選擇ヲ以テ一箇ノ物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得

已ノ選擇ヲ以テ一箇ノ物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得二箇ノ物カ一ハ債務者ノ過失ニ因リ一ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ同時ニ滅失シタルトキモ亦同シ

第四百三十四條 同上ノ場合ニ於テ二箇ノ物ノ一カ債權者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カル
三箇ノ物カ共ニ債權者ノ過失ニ因リテ同時ニ滅失シタルトキハ選擇ハ債務者ニ移轉シ之ヲシテ一箇ノ物ノ價金ヲ得セシム
三箇ノ者カ一ハ債權者ノ過失ニ因リ一ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ同時ニ滅失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カレ債權者ニ對シテ價金ヲ要求スルコトヲ得ス

第四百三十五條 前數條ノ規定ニ從ヒテ選擇ノ義務カ一箇ノ物ニ歸着シタルトキ又ハ其權利ヲ有スル當事者カ選擇ヲ爲シタルトキハ其義務ハ停止條件ノ義務ニ關シ第四百九條ニ規定シタル如ク既往ニ遡リテ効ヲ生ス

第四百三十六條 債務者カ一定ノ物ヲ主トシテ負擔スルモ他ノ物ヲ與ヘテ義務ヲ免カル、ノ權能ヲ有スルトキハ其義務ハ任意ナリ
主トシテ負擔スル物ヲ與フルノ義務ハ任意ニテ負擔スル物ヲ辨濟ス

ルニ於テハ解除ス可シトノ條件ニ繋ルモノト看做ス
主トシテ負擔スル物カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ滅失シタルト
キハ債務者ハ義務ヲ免カル

主トシテ負擔スル物カ債務者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務
者ハ其價金ノ償還及ヒ損害ノ賠償ニ任ス然レトモ債務者ハ任意ニテ
負擔スル物ヲ與ヘテ義務ヲ免カル、ノ權能ヲ有ス

二箇ノ物ノ一カ債權者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ其
免責ヲ申立テ又ハ殘ル所ノ物ヲ與ヘテ滅失シタル物ノ價金ヲ要求ス
ルコトヲ得

二箇ノ物カ共ニ債權者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ義
務ヲ免カレ且自己ノ選擇ヲ以テ一箇ノ物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得
二箇ノ物カ一ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リ一ハ債權者ノ過失ニ因
リテ同時ニ滅失シ其過失カ任意ニテ負擔シタル物ノ上ニ存スルトキ
又ハ其過失カ孰レノ物ノ上ニ存シタルカチ知り得サルトキハ債務者
ハ義務ヲ免カレ且任意ニテ負擔シタル物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得

第三款 債權者及ヒ債務者ノ單數又ハ複數ナル義務

第四百三十七條 債權者及ヒ債務者カ各一人ナルトキハ其義務ハ單數

ナリ

債權者又ハ債務者カ數人ナルトキハ其義務ハ複數ナリ

複數ノ義務ニハ連合ノモノ有リ連帶ノモノ有リ全部ノモノ有リ不可
分ノモノ有リ

第四百二十八條 連合ノ義務ニ於テハ次款ニ定ムル如ク各債權者又ハ
各債務者ハ自己ノ部分外ニ履行ヲ求ムルコトヲ得ス又訴追ヲ受クル
コト無シ

連帶ノ義務ニ於テハ各債權者又ハ各債務者ハ自己ノ名ヲ以テ自己ノ
部分ノ爲メニスルト他人ノ名ヲ以テ他人ノ部分ノ爲メニスルトヲ問
ハス全部ニ付キ履行ヲ求ムルコトヲ得又訴追ヲ受クルコト有リ但擔
保訴權ニ因レル相互ノ求償權ヲ妨ケス
全部ノ義務ハ債權擔保編第七十三條ニ於テ之ヲ規定ス

第四款 性質又ハ履行ノ可分又ハ不可分ナル義務

第四百三十九條 單數ノ義務ハ債權者ト債務者トノ間ニ在テハ不可分
ナル如ク之ヲ履行スルコトヲ要ス但第四百六條ヲ以テ一分ノ辨濟ヲ
許スコトニ付キ裁判所ニ與ヘタル權能ヲ妨ケス

第四百四十條 連合ノ義務ニ於テハ債權者ノ各自カ履行ヲ求メ又ハ債

務者ノ各自カ訴訟ヲ受シ可キ實地ノ部分ハ合意又ハ事情ニ從ヒテ之ヲ定ム

前項ノ規定ニ從フテ得サルトキハ其各自ノ部分ハ平分ニテ之ヲ計算ス但債權ノ利益又ハ債務ノ負擔ニ於テ各自カ其實地ノ部分ニ復スル相互ノ求償權ヲ妨ケス

第四百四十一條 複數ノ義務ハ左ノ場合ニ於テ債權者ノ間ニモ債務者ノ間ニモ不可分ナリ

第一 負擔スル目的ノ性質ニ因リテ一身ノ履行カ形體上及ヒ智能上不能ナルトキ

第二 義務カ性質ニ因リテ可分ナルモ當事者ノ明示ノ意思又ハ其期望シタル用途其他事情ヨリ顯ハル、意思カ一身ノ履行ヲ許サ、ルトキ

第四百四十二條 義務ハ其性質ニ因リテ兩分ナルモ左ノ場合ニ於テハ尙ホ當事者ノ意思ニ因リ受方ノミニテ不可分ナリ

第一 債務者ノ一人ノ處分權内ニ在ル特定物ノ引渡ニ關スルトキ
第二 債務者ノ一人カ債務ノ設定權原ニ因リテ獨リ履行ニ任シタルトキ

右第一ノ場合ニ於テ數人ノ債權者アルトキハ其一人ノ債務者ハ此數債權者ニ對シテ同時ニ義務ヲ免カル、爲メ其數債權者ノ訴訟參加ヲ要求スルコトヲ得

第四百四十三條 不可分ハ債權擔保編ニ規定スル如ク性質ニ因リテ可分ナル債務ノ履行ノ擔保ノ爲メ連帶ニ併合シ又ハ併合セスシテ債務者ノ負擔又ハ債權者ノ利益ニ於テ之ヲ要約スルコトヲ得

第四百四十四條 債權者ノ一人カ不可分債務ノ履行ヲ受ケタルトキハ他ノ債權者ノ權利ノ限度ニ應シテ之ニ其利益ヲ分與スルコトヲ要ス又債務者ノ一人カ義務ノ履行ヲ爲シタルトキハ義務ノ原因ニ從ヒ又ハ從來相互ノ關係ニ從ヒテ他ノ債務者ノ分擔ス可キ部分ニ付キ之ニ對シテ擔保ノ求償權ヲ有ス

第四百四十五條 債權者ノ一人ハ要約シタル如ク辨濟ヲ受クルニ非サレハ他ノ債權者ノ權利ヲ減少シ又ハ消滅セシムルコトヲ得ス

債權者ノ一人カ總債務者若クハ其一人ノ免責ヲ主旨トスル更改、免除其他ノ合意ヲ爲シタルモ又ハ債務者カ其一人ノ債權者ニ對シテ適法ナル相殺ノ原因ヲ有スルモ他ノ債權者ハ尙ホ債務ノ全部ノ履行ヲ請成スルコトヲ得然レトモ他ノ債權者ハ此一人ノ債權者カ其權利ヲ

失ハサリシナラハ第五百一條第四項、第五百十五條第二項、第五百二

十一條第三項第四項ノ規定ニ從ヒ其一人ノ債權者ニ分與ス可キ利益

ニ付キ其訴追ヲ受ケタル債務者ニ對シテ計算ヲ爲ス
第四百四十六條 債權者ノ一人ノ爲シタル付遲滯其他ノ保存ノ爲爲ハ

他ノ債權者ヲ利ス
又債權者ノ一人ノ利益ノ爲メニ時効ヲ停止スル適法ノ原因アルトキ

ハ他ノ債權者ノ利益ノ爲メ之ヲ停止ス
第四百四十七條 債務者ノ一人ハ他ノ債務者ノ負擔ヲ加重スルコトヲ

得ス又債務者ノ一人ニ對スル付遲滯ハ之ヲ以テ他ノ債務者ニ對抗ス

ルコトヲ得ス
然レトモ債務者ノ一人ニ對抗スルコトヲ得ヘキ時効ノ中斷又ハ停止

ノ原因ハ之ヲ以テ他ノ債務者ニ對抗スルコトヲ得但債權者訴追ヲ受
ケタル債務者ニ對シ時効ニ因リ義務ヲ免カレタル債務者ノ債務ノ部
分ニ付キ計算ヲ爲ス
第四百四十八條 債務者ノ一人ノ過失ニ因リテ不可分ノ義務ヲ履行ス

モ亦同シ

第四百四十九條 第四百四十一條ノ場合ニ於テ不可分義務ノ履行ノ爲
メ訴ヲ受ケタル債務者ハ他ノ債務者ヲ訴訟ニ參加セシメ共ニ裁判ヲ
受ケル爲メ及ヒ之ニ對スル自己ノ求償ニ付キ裁判ヲ受ケル爲メ期間
ヲ請求スルコトヲ得

第三章 義務ノ消滅

第四百五十條 義務ハ左ノ諸件ニ因リテ消滅ス

- 第一 辨濟
- 第二 更改
- 第三 合意上ノ免除
- 第四 相殺
- 第五 混同
- 第六 履行ノ不能
- 第七 銷除
- 第八 廢罷
- 第九 解除

此他義務ハ免責時効ノ條件ノ具備スルトキハ之ヲ消滅シタルモノト

第一節 辨濟

第四百五十一條 辨濟ハ義務ノ本旨ニ從フノ履行ナリ
辨濟ハ下ノ第一款及ヒ第四款ニ記載シタル區別ニ從ヒテ單純ナル有
リ代位ナル有リ

數箇ノ債務アリテ只一箇ノ辨濟ヲ爲ストキハ第二款ニ從ヒテ債務ノ
一箇又ハ數箇ニ付キ辨濟ノ充當ヲ爲ス
債權者カ辨濟ヲ受クルコト能ハス又ハ欲セサルトキハ債務者ハ第三
款ニ記載シタル如ク提供及ヒ供託ノ方法ヲ以テ自ラ義務ヲ免カル、
コトヲ得

債務者カ債權者ニ對シテ自己ノ財産ヲ委棄スルコトヲ得ル場合ハ民
事訴訟法ヲ以テ之ヲ規定ス

第一款 單純ノ辨濟

第四百五十二條 辨濟ハ債務者又ハ共同債務者ノ一人ヨリ有効ニ之ヲ
爲スノ外尙ホ保證人又ハ抵當財産ヲ所持スル第三者ノ如キ附隨ノ義
務者ヨリ有効ニ之ヲ爲スコトヲ得
又辨濟ハ利害ノ關係ナキ第三者ヨリ或ハ債務者ノ名ヲ以テ或ハ自己

ノ名ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四百五十三條 利害ノ關係ヲ有スルト否トヲ問ハス第三者ノ爲シタ
ル辨濟ノ有効ナル爲メニハ債權者ノ承諾ヲ必要トセス但作爲ノ義務
ニ關シ債權者カ特ニ債務者ノ一身ニ著眼シタルトキハ此限ニ在ラズ
又債務者ノ承諾モ之ヲ必要トセス但利害ノ關係ヲ有セサル第三者ノ
辨濟ニ付テハ債務者又ハ債權者ノ承諾アルコトヲ要ス

第四百五十四條 辨濟シタル第三者ハ法律又ハ合意ニ依リ債權者ノ權
利ニ代位シタル場合ノ外其權ニ基キ下ノ區別ニ從ヒ債務者ニ對シ求
償權ヲ有ス

第三者カ委任ヲ受ケタルトキハ其權限ノ範圍内ニ於テ辨濟シタル全
額ノ爲メ求償權ヲ有ス
事務管理ニテ辨濟ヲ爲シタルトキハ辨濟ノ日ニ於テ債務者ニ得セシ
メタル有益ノ限度ニ從ヒ求償權ヲ有ス

債務者ノ意ニ反シテ辨濟ヲ爲シタルトキハ求償ノ日ニ於テ債務者ノ
爲メ存在スル有益ノ限度ニ非サレハ求償權ヲ有セス
第四百五十五條 義務カ定量物ノ所有權ノ移轉ヲ目的トスルトキハ其
物ノ所有權ニシテ且之ヲ讓渡スノ能力アル者ニ非サレハ引渡其他ノ

方法ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス
他人ノ物ヲ引渡シタルトキハ當事者各自ニ其辨濟ノ無効ヲ主張スル
コトヲ得

讓渡スノ能力ナキ所有者カ物ヲ引渡シタルトキハ其所有者ノミ辨濟
ノ無効ヲ請求スルコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ債務者ハ更ニ有効ナル辨濟ヲ爲スニ非サレハ
引渡シタル物ヲ取戻スコトヲ得ス

債權者カ辨濟トシテ受ケタル動産物ヲ善意ニテ消費シ又ハ讓渡シタ
ルトキハ債權者ハ其取戻ヲ爲スコトヲ得ス

又債權者ハ他人ノ物ヲ以テセル辨濟ヲ認諾スルコトヲ得但眞ノ所有
者ヨリ回復ヲ訴ヘタルトキハ債務者ニ對スル擔保ノ訴權ヲ妨ケス

第四百五十六條 辨濟ハ債權者又ハ其代人ニ之ヲ爲スコトヲ要ス辨濟
領受ノ分限ヲ有セサル者ニ爲シタル辨濟ト雖モ債權者カ之ヲ認諾シ
又ハ之ニ因リテ利得シタルトキハ有効ナリ

第四百五十七條 眞ノ債權者ニ非サルモ債權ヲ占有セル者ニ爲シタル
辨濟ハ債務者ノ善意ニ出テタルトキハ有効ナリ

表見ナル相續人、其他ノ包括承繼人、記名債權ノ表見ナル讓受人及ヒ

無記名證券ノ占有者ハ之ヲ債權ノ占有者ト看做ス

第四百五十八條 領受ノ能力ナキ債權者又ハ債權占有者ニ爲シタル辨
濟ハ其債權者又ハ債權占有者ノ請求ニ因リテ之ヲ取消スコトヲ得但
其利得シタル部分ニ付テハ此限ニ在ラス

第四百五十九條 民事訴訟法ニ從ヒ正當ニ爲シタル拂渡差押ノ後債務
者カ自己ノ債權者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ差押債權者ハ其受ケタル

損害ノ限度ニ於テ更ニ辨濟ス可キヲ債務者ニ強要スルコトヲ得但辨
濟ヲ受ケタル債權者ニ對スル債務者ノ求償權ヲ妨ケス

第四百六十條 債權者ハ己レニ對シテ負擔シタル物ヨリ他ノ物ヲ辨濟
トシテ受取ルノ責ニ任セス他ノ物ノ價格カ高キトキト雖モ亦同シ

債務者ハ其負擔シタル物ヨリ他ノ物ヲ與フル責ニ任セス請求ヲ受ケ
タル物ノ價格カ低キトキト雖モ亦同シ

代替物ヲ目的トセル債務ニ於テハ債務者ハ最良品ヲ與ヘ債權者ハ最
惡品ヲ受取ル責ニ任セス

第四百六十一條 雙方一致ニテ物ヲ金錢ニ、金錢ヲ物ニ又ハ或ル物ヲ
他ノ物ニ代ヘテ辨濟シ若クハ辨濟スルコトヲ諾約シタルトキハ原義

務ヲ更改シタリト看做シ其行爲ハ協合ニ因リテ賣買又ハ交換ノ規則

第四百六十二條 特定物ノ債務者ハ引渡ヲ爲ス可キ時ノ現狀ニテ其物ヲ引渡スニ因リテ義務ヲ免カル但條件附ノ義務ノ危険ニ關スル第四百十九條ノ規定ヲ妨ケス

債務者ノ費用ニテ物ヲ保存シ若クハ改良シ又ハ其過失若クハ懈怠ニ因リテ之ヲ毀損シタルトキハ償金ハ上ノ第一章第二節第三節ニ從ヒテ當事者互ニ之ヲ負擔ス

第四百六十三條 金錢ヲ目的トセル債務ニ於テハ債務者ハ其選擇ヲ以テ金若クハ銀ノ國貨又ハ強制通用ノ紙幣ヲ與ヘテ義務ヲ免カル債務者ハ法律ニ依リ貨幣ノ名價又ハ其純分ノ割合ニ變更ヲ生スルモ略約シタル數額ヨリ多ク又ハ少ナク負擔セス

本條ノ規則ニ違背スル合意ハ無効ナリ但第四百六十五條第二項ノ規定ヲ妨ケス

第四百六十四條 右ニ反シ辨濟期ニ於テ諸種ノ貨幣ノ爲替相場ヨリ生ス可キ相互ノ高低ノ差ハ債務者ノ選擇スル法律上ノ貨幣ヲ以テスル平均價格ノ辨濟ニ因リテ當事者ノ間ニ之ヲ填補スル合意ヲ爲スコトヲ得

第四百六十五條 金貨又ハ銀貨ヲ以テ負擔ノ金額ヲ指定シタルトキハ債務者ハ獨リ爲替相場ノ損益ヲ受ケ法律上ノ他ノ貨幣ヲ以テ義務ヲ免カル、コトヲ得

金貨又ハ銀貨ヲ以テ負擔ノ金額ヲ辨濟ス可キコトノ要約アリタルトキモ亦同シ

外國ノ貨幣ヲ以テ辨濟ヲ爲ス可キコトヲ合意シタルトキハ債務者ハ右ノ規定ニ從ヒ自己ノ選擇スル法律上ノ貨幣ヲ以テ其外國ノ貨幣ノ價額ヲ辨濟シテ義務ヲ免カル、コトヲ得

第四百六十六條 銅貨及ヒ補助銀貨ハ特別法ニ定メタル數額ヨリ多ク辨濟トシテ之ヲ與フルコトヲ得ス但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

第四百六十七條 金錢ノ貸借ニ特別ナル規則ハ財産取得編第百八十五條ニ之ヲ定ム

第四百六十八條 經濟ノ場所ノ定ナキトキハ辨濟ハ債務者ノ住所ニ於テ之ヲ爲ス但後ニ掲クル或ル契約ノ場合及ヒ第三百三十三條ニ掲ケタル規定ハ此限ニ在ラス

自己ノ住所ニ於テ辨濟ノ有ル可キ當事者カ詐欺ナクシテ轉住シタル

トキハ辨濟ハ其新住所ニ於テ之ヲ爲ス但其當事者ハ爲替相場ノ差額及ヒ人ノ往復若シハ物ノ運送ノ補足費用ヲ一方ノ當事者ニ拂フコトヲ要ス

經濟ノ其他ノ費用ハ債務者之ヲ負擔ス

第四百六十九條 經濟ノ期日カ一般ノ休日ナルトキハ經濟ハ其翌日ニ非サレハ之ヲ要求スルコトヲ得ス

第二款 辨濟ノ充當

第四百七十條

一人ノ債權者ニ對シテ一樣ノ性質ナル數箇ノ債務ヲ有スル債務者カ總債務ヲ全消スルコトヲ得サル辨濟ヲ爲ストキハ債務者ハ辨濟ノ時ニ於テ其孰レノ債務ニ充當セントスル意ヲ述ヘ且此充當ヲ受取證書ニ記入セシムルコトヲ得然レトモ債務者ハ債權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ債權者ノ利益ノ爲メ定メタル期限ノ至ラサル債務ニ充當ヲ爲シ又費用及ヒ利息ニ先々テ元本ニ充當ヲ爲シ又一分ツ、數箇ノ債務ニ充當ヲ爲スコトヲ得ス

第四百七十一條 債務者カ有効ナル充當ヲ爲サルトキハ債權者ハ受取證書ニ於テ自由ニ辨濟ノ充當ヲ爲スコトヲ得但財産取得編第百二十九條ノ會社契約ニ關スル規定ヲ妨グズ

十九條ノ會社契約ニ關スル規定ヲ妨グズ

債務者カ異議ナク又ハ異議ヲ留メスシテ受取證書ヲ受取リタルトキハ債務者ハ自己ノ錯誤又ハ債權者ノ欺瞞アリタルニ非サレハ充當ヲ非難スルコトヲ得ス

第四百七十二條 債務者及ヒ債權者カ有効ニ充當ヲ爲サルトキハ當然左ノ如ク充當ス

- 第一 期限ノ至リタル債務ヲ先ニシ期限ノ至ラサル債務ヲ後ニス
- 第二 費用及ヒ利息ヲ先ニシ元本ヲ後ニス
- 第三 總債務カ期限ニ至リ又ハ至ラサルトキハ債務者ノ爲メ最モ辨濟ノ利益アル債務ヲ先ニス
- 第四 債務者カ辨濟ノ先後ニ付キ利益ヲ有セサルトキハ期限ノ最モ先ニ至リタル又ハ至ル可キ債務ヲ先ニス
- 第五 總債務カ何レノ點ニ於テモ相同シキトキハ充當ハ各債務ノ額ニ應シテ之ヲ爲ス

第四百七十三條 辨濟充當ノ規定ハ交互計算上ノ振込ニ之ヲ適用セス此振込ハ振込人ノ貸方ニ之ヲ記入ス

第三款 經濟ノ提供及ヒ供託

第四百七十四條

債權者カ經濟ヲ受クルヲ欲セス又ハ之ヲ受クル能ハサルトキハ債務者ハ左ノ區別ニ從ヒ提供及ヒ供託ヲ爲シテ義務ヲ免カル、コトヲ得

第一 債務カ金錢ヲ目的トスルトキハ提供ハ貨幣ヲ提示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二 債務カ特定物ヲ目的トシ其存在スル場所ニ於テ引渡サル可キトキハ債務者ハ其物ノ引取ノ爲メ債務者ニ催告ヲ爲ス

第三 特定物ヲ債權者ノ住所其他ノ場所ニ於テ引渡ス可クシテ其運送カ多費 困難又ハ危險ナルトキハ債務者ハ合意ニ從ヒテ引渡ヲ即時ニ實行スル準備ヲ爲シタルコトヲ提供中ニ述フ定量物ニ關シテモ亦同シ

第四 債權者ノ立會又ハ參同ヲ要スル作爲ノ義務ニ關シテハ債務者カ義務履行ノ準備ヲ爲シタルコトヲ述フルヲ以テ足ル

第四百七十五條 提供ハ前條ノ外上ニ定メタル辨濟ニ必要ナル條件ヲ具備シ且特別法ニ定ムル方式ニ從フニ非サレハ有効ナラス

第四百七十六條 時期ヲ失セス且有効ニ爲シタル提供ハ法律ヲ以テ規定シ若クハ合意ヲ以テ要約シタル失權、解除及ヒ責罰ヲ豫防ス

此提供ハ付遲滞ヲ防止シ又既ニ付遲滞ノ存セルトキハ將來ニ向ヒテ其効力ヲ止メ且遲延利息ヲ停ム

第四百七十七條 債權者カ提供ヲ承諾セサルトキハ債務者ハ供託ノ日マテニ債務ニ生シタル填補利息ト共ニ辨濟ノ金額ヲ供託所ニ供託スルコトヲ得

特定物又ハ定量物ニ付テハ債務者ハ其物ヲ供託ス可キ場所ヲ指定スルコト及ヒ其保管人ヲ選任スルコトヲ裁判所ニ請求ス

第四百七十八條 有効ニ爲シタル供託ハ債務者ニ義務ヲ免カレシメ且債務者カ意外ノ事ニ任シタルトキト雖モ其物ノ危險ヲ債權者ニ歸セシム

然レトモ債權者カ供託ヲ受諾セス又ハ其供託カ債務者ノ請求ニテ既判力ヲ有スル判決ニ因リテ有効ト宣告セラレサル間ハ債務者ハ其供託物ヲ引取ルコトヲ得但此場合ニ於テハ義務ハ舊ニ依リ存在ス
右ノ受諾又ハ判決アリタル後ト雖モ債務者ハ債權者ノ承諾ヲ以テ供託物ヲ引取ルコトヲ得然レトモ共同債務者及ヒ保證人ノ義務解脱ヲモ質權及ヒ抵當權ノ消滅ヲモ供託物ニ付キ債權者ノ債權者カ爲シタ

ル拂渡差押ヲモ妨碍スルコトヲ得ス

一六〇

第四款 代位ノ辨濟

第四百七十九條 代位ヲ以テ第三者ノ爲シタル辨濟ハ債權者ニ對シテ債務者ニ義務ヲ免カレシメ且其債權及ヒ之ニ附著セル擔保ト効力トヲ其第三者ニ移轉ス但場合ニ從ヒテ第三者ノ有スル事務管理又ハ代理ノ訴權ヲ妨ケス

代位ハ下ノ區別ニ從ヒテ債權者若クハ債務者ヨリ之ヲ許與シ又ハ法律ヲ以テ之ヲ付與ス

第四百八十條

債權者ノ許與シタル代位ハ受取證書ニ之ヲ明記スルニ非サレハ有効ナラス但第三者カ辨濟ニ付キ利害ノ關係ヲ有スルヤ否ヤヲ區別スルコトヲ要セス又自己ノ名ニテ辨濟スルカ債務者ノ名ニテ辨濟スルカヲ區別スルコトヲ要セス

第四百八十一條

債務者ハ其債務ノ辨濟ニ必要ナル金額又ハ有價物ヲ已レニ貸與シタル第三者ヲシテ債權者ノ承諾ナク其權利ニ代位セシムルコトヲ得

右ノ場合ニ於テ借用書證ニハ其金額又ハ有價物ノ用方ヲ記載シ受取證書ニハ其出所ヲ記載ス

公正證書又ハ私署證書ニ非サレハ他ノ第三者ニ對シテ右ノ行爲ノ證據トスルコトヲ許サス

然レトモ借用ト辨濟トノ間ニ不相當ナル長キ時間ノ經過シタルトキハ裁判所ハ代位ヲ不成立ト宣告スルコトヲ得

第四百八十二條

代位ハ左ノ者ノ利益ノ爲メ當然成立ス

第一 他人ト共ニ又ハ他人ノ爲メニ義務ヲ負擔シタルニ因リ其義務ヲ辨濟スルニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者及ヒ先取特權又ハ抵

當權ヲ負擔スル財産ノ第三所持者トシテ他人ノ義務ヲ辨濟スルニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者

第二 或ハ抵當訴權ヲ豫防スル爲メ或ハ不動産ノ差押又ハ契約解除ノ請求ヲ止ムル爲メ他ノ債權者ニ辨濟シタル債權者

第三 自己ノ財産ヲ以テ相續ノ債務ノ全部又ハ一分ヲ辨濟シタル善意ナル表見ノ相續人

第四百八十三條

前三條ニ依リテ代位シタル者ハ債權ノ効力又ハ擔保トシテ債權者ニ屬セシ總テノ對人及ヒ物上ノ權利及ヒ訴權ヲ行フコトヲ得但左ニ掲グル場合ヲ例外トス

第一 當事者カ代位者ニ移轉セシ權利及ヒ訴權ヲ制限シタルトキ

一六一

其制限ニ從フ

第二 保証人ハ債務ヲ辨濟シ債權擔保編第三十六條ノ規定ニ從ヒタルトキニ非サレハ第三所持者ニ對シテ代位セズ

第三 第三所持者カ債務ヲ辨濟シタルトキハ保証人ニ對シテ代位セズ

第四 一箇ノ債務ノ抵當ト爲リタル數箇ノ不動産カ各別ニ數箇ノ第三所持者ノ手ニ存スル場合ニ於テ其一人カ債務ヲ辨濟シタルトキハ各不動産ノ價額ノ割合ニ應スルニ非サレハ他ノ第三所持者ニ對シテ代位ノ權ヲ行フコトヲ得ス

第五 互ニ擔保人タル共同債務者ノ一人カ債務ヲ辨濟シタルトキハ辨濟者ハ他ノ債務者カ分擔ス可キ債務ノ限度ニ應スルニ非サレハ其各自ニ對シテ代位セズ

第四百八十四條 代位者ハ自己ノ支拂ヒタル金額ヲ超エテ債權者ノ訴權ヲ行フコトヲ行ス

第四百八十五條 代位ハ原債權者ヲ害セサルコトヲ要ス
數箇ノ債權ヲ有スル者ハ其一箇ニ係ル代位辨濟カ他ノ債權ノ擔保ヲ減スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得

第四百八十六條 代位辨濟カ債務ノ一分ノミニ係ルトキハ代位者ハ自己ノ辨濟ノ割合ニ應シテ原債權者ト共ニ其權利ヲ行フ

然レドモ原債權者ハ全部ノ辨濟ヲ受ケサルトキハ獨リ契約ノ解除ヲ行フ但代位者ニ賠償スルコトヲ要ス

第四百八十七條 代位辨濟ニ因リテ全部ノ辨濟ヲ受ケタル債權者ハ債權ノ證書及ヒ質物ヲ代位者ニ交付スルコトヲ要ス

債權者カ一分ノ辨濟ノミヲ受ケタルトキハ要ニ應シテ代位者ニ證書ヲ示シ且質物ノ保存ニ注意スルヲ之ニ許スコトヲ要ス

第四百八十八條 辨濟ノ有効充當、提供及ヒ供託ニ關スル前三款ノ規定ハ代位辨濟ニ之ヲ適用ス

第四百八十九條 更改即チ舊義務ノ新義務ニ變更スルコトハ左ノ場合ニ於テ成ル

第一 當事者カ義務ノ新目的ヲ以テ舊目的ニ代フル合意ヲ爲スト

第二 當事者カ義務ノ目的ヲ變セズシテ其原因ヲ變スル合意ヲ爲スト

第三 當事者カ義務ノ目的ヲ變セズシテ其原因ヲ變スル合意ヲ爲スト

第三 新債務者カ舊債務者ニ替ハルトキ

第四 新債權者カ舊債權者ニ替ハルトキ

第四百九十條 當事者カ期限、條件又ハ擔保ノ加減ニ因リ又ハ履行ノ場所若クハ負擔物ノ數量、品質ノ變更ニ因リテ單ニ義務ノ體様ヲ變更スルトキハ之ヲ更改ト爲サス
商證券ヲ以テスル債務ノ辨濟ハ其證券ニ債務ノ原因ヲ指示シタルトキハ更改ヲ成サス從來ノ債務ノ追認ハ其證券ニ執行文アルトキト雖モ亦同シ

第四百九十一條

債權者ハ其債權及ヒ擔保ヲ有償ニテ處分スル能力ヲ有スルニ非サレハ更改ヲ承諾スルコトヲ得ス
右規定ハ合意上、法律上又ハ裁判上ノ管理人及ヒ代理人ニ之ヲ適用ス

第四百九十二條

更改ノ意思ハ債權者ニ在テハ之ヲ推定セズ明カニ證書又ハ事情ヨリ見ハル、コトヲ要ス
然レトモ同一ノ當事者間ニ於テ義務ノ更改アリタルカ二箇ノ義務ノ共ニ存スルカノ疑アルトキハ第三百六十條ニ依リテ債務者ノ利益ノ爲メニ更改ノ意義ニ解釋ス

第四百九十三條

舊義務カ停止又ハ解除ノ條件附ナリシトキハ更改ハ同一ノ條件ニ從フモノトノ推定ヲ受ク

又新義務カ條件附ナルトキハ更改ハ停止條件ノ成就シタルトキ又ハ解除條件ノ成就セサルトキニ非サレハ成ラス

右孰レノ場合ニ於テモ當事者カ單純ナル更改ヲ爲サント欲シタル證據アルトキハ此限ニ在ラス

第四百九十四條

舊義務カ初ヨリ法律上成立セズ又ハ法律ノ定ムル原因ニ由リテ消滅シ若クハ取消サレタルトキハ更改ハ無効ロシテ新義務ハ成立セズ

又新義務カ其成立及ヒ有効ニ要スル法律上ノ條件ヲ具備セサルトキハ舊義務ハ存在ス

右孰レノ場合ニ於テモ當事者カ自然義務ヲ法定義務ニ又ハ法定義務ヲ自然義務ニ變セント欲シタル證據アルトキハ此限ニ在ラス

第四百九十五條

舊義務ヲ更改スル爲メ異議ナク又ハ異議ヲ留メスシテ有効ニ新義務ヲ諾約シタル債務者ハ其了知セル舊義務ノ無効ノ理由ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

債務者カ此條ニ從ヒ舊債權者ノ委託ニ因リ新債權者ニ對シテ義務ヲ

附屬シタルトキモ亦同シ

第四百九十六條 債務者ノ交替ニ因ル更改ハ或ハ舊債務者ヨリ新債務者ニ成セル囑託ニ因リ或ハ舊債務者ノ承諾ナクシテ新債務者ノ隨意ノ干涉ニ因リテ行ハル

囑託ニハ完全ノモノ有リ不完全ノモノ有リ

第三者ノ隨意ノ干涉ハ下ニ記載スル如ク除約又ハ補約ヲ成ス

第四百九十七條 債權者カ明カニ第一ノ債務者ヲ免スルノ意思ヲ表シタルトキニ非サレハ囑託ハ完全ナラスシテ更改ハ行ハレス此意思ノ無キトキハ囑託ハ不完全ニシテ債權者ハ第一第二ノ債務者ヲ連帶ニテ訴追スルコトヲ得

第三者ノ隨意干涉ノ場合ニ於テ債權者カ舊債務者ヲ免シタルトキハ除約ニ因ル更改行ハル之ニ反セル場合ニ於テハ單一ノ補約成リテ債權者ハ債務ノ全部ニ付キ第二ノ債務者ヲ得然レトモ此債務者ハ連帶ノ義務ニ任セス

第四百九十八條 完全囑託及ヒ除約ノ場合ニ於テ新債務者カ債務ヲ辨濟スルコトヲ得サルトキハ債權者ハ囑託又ハ除約ノ當時ニ於テ新債務者ノ既ニ無資力マリシコトヲ知ラサルニ非サレハ舊債務者ニ對シテ擔保ノ求償權ヲ有セス但特別ノ合意ヲ以テ此擔保ヲ伸縮スルコトヲ得

第四百九十九條 債權者ノ交替ニ因ル更改ハ債務者ト新舊債權者トノ承諾アルニ非サレハ成ラズ

第五百條 債權者カ第五百三條ニ定ムル如ク其債權ノ物上擔保ヲ留保シテ或ハ他人ヲ惠ム爲メ或ハ他人ニ對スル債務ヲ免カル、爲メ其人ニ囑託シテ自己ノ債務者ヨリ辨濟ヲ受ケシムルトキハ其受囑託人ハ債權ノ讓渡ニ關スル第三百四十七條ノ規定ニ從フニ非サレハ第三者ニ對シテ其債權ヲ主張スルコトヲ得ス

第五百一條 債權者ト連帶債務者ノ一人又ハ不可分債務者ノ一人トノ間ニ爲シタル更改ハ他ノ債務者及ヒ保證人ヲシテ其義務ヲ免カレンシム

然レトモ債權者カ右共同債務者及ヒ保證人ノ新義務ニ同意スルコトヲ更改ノ條件ト爲シタル場合ニ於テ共同債務者及ヒ保證人ノ之ヲ拒ムトキハ更改ハ成立セス

連帶債權者ノ一人ト爲シタル更改ハ其債權者ノ部分ニ付テノミ債務者ヲシテ義務ヲ免カレンシム

者ヲシテ義務ヲ免カレンシム

性質ニ因ル不可分債務ノ債權者ノ一人ト更改ヲ爲シタルトキハ他ノ債權者ハ全部ニ付キ訴追ノ權利ヲ有ス但第四百四十五條ニ從ヒ計算ヲ爲スコトヲ要ス

第五百二條 保證人ト爲シタル更改ハ反對ノ意思アル證據ナキトキハ保證ニ付テノミ之ヲ爲シタルトノ推定ヲ受ケ主タル債務者ニモ他ノ保證人ニモ義務ヲ免カレシメス

第五百三條 舊債權ノ物上擔保ハ新債權ニ移ラス但債權者之ヲ留保スルトキハ此限ニ在ラス

此留保ハ共同債務者、保證人又ハ第三所持者ノ手ニ存スル擔保負擔ノ財産ニモ之ヲ行フコトヲ得

此留保ニ付テハ更改ノ相手方ノ承諾ノミヲ必要トス
右ノ場合ニ於テ財産ハ舊債務ノ限度ヲ超エテ擔保ヲ負擔セス

第三節 合意上ノ免除

第五百四條 債務ノ全部又ハ一分ニ付テノ合意上ノ免除ハ有償又ハ無償ニテ之ヲ爲スコトヲ得

有償ノ免除ハ事情ニ從ヒテ代物辨濟、更改、和解又ハ解除ヲ成ス又無償ノ免除ハ贈與ヲ成ス然レトモ公式ノ特別規則ニ從フコトヲ要セス

協諾契約ヲ以テ破産シタル債務者ニ許與スル一分ノ免除ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

第五百五條 債務ノ免除ハ明示又ハ默示ヨリ成リ推定ヨリ成ラス但法律ニ特定シタル場合ハ此限ニ在ラス

第五百六條 主タル債務者ニ爲シタル債務ノ免除ハ保證人ヲシテ其義務ヲ免カレシム

連帶債務者ノ一人ニ爲シタル債務ノ免除ハ他ノ債務者ヲシテ其義務ヲ免カレシム但債權者カ他ノ債務者ニ對シテ其權利ヲ留保シタル場合ハ此限ニ在ラス此場合ニ於テモ免除ヲ受ケタル債務者ノ部分ヲ控除スルコトヲ要ス

不可分債務者ノ一人ニ爲シタル債務ノ免除ニ付テモ亦同シ然レトモ性質ニ因ル不可分債務ノ債權者カ他ノ債務者ニ對シテ其權利ヲ留保シタルトキハ債權者ハ先ツ全部ニ付キ其權利ヲ行ヒ免除ヲ受ケタル債務者ノ部分ヲ計算ス

第五百七條 保證人ノ一人ニ爲シタル主タル債務ノ免除ハ債務者及ヒ他ノ保證人ヲシテ其義務ヲ免カレシム

第五百八條 債務ノ免除ヲ受ケタル債務者及ヒ保證人ハ債權者ヨリ其

通ノ免除ヲ得ル爲メ實際供與シタル數額ニ付テノミ他ノ共同債務者及ヒ共同保證人ニ對シテ求償權ヲ有ス

第五百九條

共同債務者ノ一人ニ對シテ連帶ノミ又ハ任意ノ不可分ノ免除アリタルトキハ其一人ヲシテ他ノ債務者ノ部分ヲ免カレシメ且他ノ債務者ヲシテ其一人ノ部分ヲ免カレシム性質ニ因ル不可分ノミノ免除ニ付テハ債務者ハ債務者ノ各自ニ對シテ全部ノ要求ヲ爲ス權利ヲ失ハス但免除ヲ受ケタル債務者ノ負擔ス可キ債額ヲ計算スルコトヲ要ス

第五百十條

債務者ハ免除ヲ受ケタル債務者ニ對シテ全部ノ要求ヲ爲スコトヲ得但他ノ債務者ノ負擔ス可キ債額ヲ計算スルコトヲ要ス

第一

債權者カ擔保ノ權利ヲ留保セシメテ債務者ノ一人ヨリ其債務ノ部分ナリト明言シタル金額又ハ有價物ヲ受取リタルトキ

第二

債權者カ擔保ノ權利ヲ留保セシメテ債務者ノ一人ニ對シテ其債務ノ部分ナリト稱シテ裁判上ノ請求ヲ爲シタルニ其一人請求ニ承服シ又ハ辨濟ヲ爲スコトヲ得言渡ヲ受ケタルトキ

第三

債權者カ異議ヲ留メスシテ十ヶ年間引續キ債務者ノ一人ヨリ其負擔ス可キ利息又ハ年金ノ部分ヲ受取リタルトキ

第五百十一條

保證人ノ一人ニ保證ヲ免除シタルトキハ主タル債務者ハ其債務ヲ免カレシ他ノ保證人ハ保證ノ免除ヲ受ケタル一人ノ部分ニ付キ其義務ヲ免カル然レトモ保證人ノ間ニ連帶ヲ爲セル場合ニ於テ債權者カ第五百六條第二項ニ記載シタル如ク他ノ保證人ニ對シテ自己ノ權利ヲ留保セサルトキハ他ノ保證人ヲシテ其義務ヲ免カレシム

第五百十二條

債權者ノ質又ハ抵當ノ拋棄ハ其債權ヲ減セス然レトモ連帶債務者又ハ保證人ハ其拋棄ニ因リテ此等ノ擔保ニ代位スルコトヲ妨ケラレタルカ爲メ債權擔保編第四十五條及ヒ第七十二條ニ依リ債權者ニ對シテ自己ノ免責ヲ請求スルコトヲ得

第五百十三條

共同債務者ノ一人カ連帶若クハ不可分ノミノ免除ヲ得ル爲メ又ハ保證人ノ一人カ保證ノ免除ヲ得ル爲メ債權者ニ出捐ヲ爲シタルモ其債務ヲ減セス且他ノ共同債務者又ハ共同保證人ニ對シテ求償權ヲ有セス

第五百十四條

特定物ヲ引渡スノミ又ハ返還スルノミノ義務ヲ免除ス

ルモ債務者ノ利益ニ於テ讓戻又ハ讓渡ヲ惹起セズ其所有者ハ回復ノ權利ヲ失ハス

第五百十五條 連帶債權者ノ一人ノ爲シタル債務又ハ連帶ノミノ免除ハ單ニ其一人ノ部分ニ付キ之ヲ以テ他ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得他ノ債權者ヲ害スルコトヲ得ス他ノ債權者ハ第四百四十五條及ヒ第五百六條ノ規定ニ從ヒテ全債權ヲ行フ

第五百十六條 債權者カ債務者ノ義務ヲ記載シタル本證書ヲ任意ニテ債務者ニ交付シタルトキハ其證書ニ免除ノ旨ヲ附記セスト雖モ債權者ハ債務ノ免除ヲ爲シタリトノ推定ヲ受ク但債權者ノ反對ノ意思ヲ證スル權利ヲ妨ケス

公正證書ノ正本又ハ判決書ノ正本ノ任意ノ交付ハ其書類ニ執行文ヲ具備スルモ債務ノ免除ヲ推定セシムルニ足ラス但裁判所カ事情ニ從ヒテ其免除ヲ推測スルコトヲ妨ケス

債務者カ右ノ書類ヲ所持スルトキハ反對ノ證據アルマテハ債權者ヨリ任意ノ交付アリタリトノ推定ヲ受ク

第五百十七條 債權者カ證書ノ全文又ハ債務者ノ署名其他緊要ナル部

分チ有意ニテ毀滅シ抵破シ又ハ抹殺シタルトキハ前條ノ區別ニ從ヒテ任意ノ交付ニ準シ債務ノ免除アリタリト推定ス

右毀滅、抵破又ハ抹殺ハ其當時證書カ債權者ノ占有ニ係リシトキハ反對ノ證據アルマテ債權者ノ所爲又ハ其承諾ニ出テタリトノ推定ヲ受ク

第五百十八條 債務ノ免除ハ明示ナルト默示ナルト又直接ニ證スルト法律上推定スルトヲ問ハス反對ノ證據アルマテ有償ニテ之ヲ爲シタリトノ推定ヲ受ク

然レトモ授受スル相對能力ナキ者ノ間ニ於ケル免除ハ有償ニテ之ヲ爲シタリトノ直接ノ證據ヲ舉クルコトヲ要ス

第四節 相殺

第五百十九條 二人互ニ債權者タリ債務者タルトキハ下ノ條件及ヒ區別ニ從ヒテ法律上、任意上又ハ裁判上ノ相殺成立ス

相殺ハ二箇ノ債務ヲシテ其寡少ナル債務ノ數額ニ滿ツルマテ消滅セシム

第五百二十條 二箇ノ債務カ主タルモノ互ニ代替スルヲ得ヘキモノ明確ナルモノ及ヒ要求スルヲ得ヘキモノニシテ且法律ノ規定又ハ當事

一七四
者ノ明示若クハ默示ノ意思ヲ以テ其相殺ヲ禁セザルコトハ當事者ノ不知ニテモ法律上ノ相殺ハ當然行ハル

第五百二十一條

主タル債務者ハ自己ノ債務ト債權者カ保證人ニ對シテ負擔スル債務トノ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス然レトモ訴追ヲ受ケタル保證人ハ債權者カ主タル債務者又ハ自己ニ對シテ負擔スル債務ノ相殺ヲ以テ對抗スルコトヲ得
連帶債務者ハ債權者カ其連帶債務者ノ一人ニ對シ負擔スル債務ニ關シテハ其一人ノ債務ノ部分ニ付テニ非ラサレハ相殺ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

然レトモ自己ノ權ニ基キ相殺ヲ以テ對抗ス可キトキハ全部ニ付キ之ヲ申立ルコトヲ得

數人ノ連帶債權者アルトキハ債務者ハ債權者ノ一人カ自己ニ對シテ負擔スル債務ノ相殺ヲ以テ訴追者ニ對抗スルコトヲ得

債務カ債務者ノ間又ハ債權者ノ間ニ於テ任意不可分ナルトキハ相殺ハ受方又ハ働方ノ連帶ニ於ケルト同一ノ方法ニ從フ又性質ニ因ル不可分ノ債務ナルトキハ第四百四十五條ノ規定ニ從フ

第五百二十二條

當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對シ地方市場ノ相殺アル

日用品ノ定期ノ供與ヲ負擔シタルトキハ其供與ハ他ノ一方ノ負擔スル金錢ト相殺スルコトヲ得

第五百二十三條

債務ノ成立、其目的物ノ性質及ヒ分量カ確實ナルトキハ其債務ハ善意ニテ爭ハルトキト雖モ之ヲ明確ナリトス

第五百二十四條

裁判所ノ許與シタル恩惠上ノ期限ハ相殺ノ妨ヲ爲サス債務者ノ要求ニ因リ無償ニテ債權者ノ許與シタル期限ニ付テモ亦同シ

二箇ノ債務ノ一カ解除條件附ナルトキト雖モ相殺ハ行ハル但其條件ノ成就シタルトキトハ相殺モ亦解除ス

第五百二十五條

二箇ノ債務カ同一ノ場所ニ於テ又ハ同一ノ貨幣ヲ以テ辨濟ス可キモノニ非サルトキト雖モ相殺ハ行ハル但第一ノ場合ニ於テハ運送費又ハ爲替料ヲ計算シ第二ノ場合ニ於テハ兩替賃ヲ計算スルコトヲ要ス

第五百二十六條

左ノ場合ニ於テハ法律上ノ相殺ハ行ハレス

- 第一 債務ノ一カ他人ノ財産ヲ不正ニ取リタル原因ト爲ストキ
- 第二 消費ヲ許セル寄託物ノ返還ニ關スルトキ
- 第三 債權ノ一カ差押フルコトヲ得サル有價物ヲ目的トスルトキ

第四 當事者ノ一方カ豫メ相殺ノ利益ヲ拋棄シタルトキ又ハ債權者ト爲ルニ當リ期望シタル目的カ相殺ノ爲メ達スルコトヲ得サルトキ

第五百二十七條 債權ノ讓受人カ其讓受テ債務者ニ告知シタルノミニテハ債務者ハ讓渡人ニ對シテ從來有セル法律上ノ相殺ヲ以テ讓受人ニ對抗スルノ權利ヲ失ハス

債務者カ讓渡人ニ對シテ既ニ得タル法律上ノ相殺ノ權利ヲ留保セスシテ讓渡ヲ受諾シタルトキハ債務者ハ讓受人ニ對シテ其權利ヲ申立ツルコトヲ得ス

右二箇ノ場合ニ於テ債務者カ相殺ヲ申立ツルコトヲ得サリシ金額又ハ有價物ヲ讓渡人ヲシテ自己ニ償還セシムルノ權利ヲ妨ケス

第五百二十八條 排渡差押ヲ受ケタル債務者ハ自己ノ債權者ニ對シテ差押後ニ取得シタル債權ノ相殺ヲ以テ差押人ニ對抗スルコトヲ得ス又從來有セル相殺ノ原因ニ付テモ排渡差押ヲ受ケタル債務者ハ民事訴訟法ニ掲ケタル方式及ヒ期間ニ從ヒテ其原因ヲ述ヘタルニ非サレハ之ヲ以テ差押人ニ對抗スルコトヲ得ス
右就レノ場合ニ於テモ排渡差押ヲ受ケタル債務者ハ差押ノ金額又ハ

有價物ニ付キ自己ノ債權ノ辨濟ヲ得ル爲メ差押人ト共ニ配當ニ加入スル權利ヲ有ス

第五百二十九條 相殺ニ因リテ既ニ消滅シタル債務ヲ辨濟シタル者ハ不當利得ノ取戻訴權ノミヲ行フコトヲ得但次條ニ記載スル場合ハ此限ニ在ラス

第五百三十條 前三條ニ掲ケタル場合ニ於テ相殺ニ因リ既ニ消滅シタル債務ヲ讓受人若クハ差押人ノ利益ノ爲メ追認シ又ハ自己ノ債權者ニ辨濟シタル者ハ自己ノ舊債權ヲ擔保シタル保證、先取特權若クハ抵當ヲ申立ツルコトヲ得ス但既ニ行ハレタル相殺ヲ知ラサル正當ノ原因アリシコトヲ證スルトキハ此限ニ在ラス此場合ニ於テ舊債權ハ其性質ヲ以テ擔保ト共ニ復舊ス

第五百三十一條 任意上ノ相殺ハ法律カ法律上ノ相殺ヲ許サハル爲メ利益ヲ受クル一方ノ當事者ヨリ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得總テノ場合ニ於テ各利害關係人ノ承諾アルトキハ相殺ハ之ヲ合意上ノモノトス

任意上ノ相殺ハ既往ニ遡ルノ効ヲ有セス
第五百三十二條 裁判上ノ相殺ハ被告カ原告ニ對シテ自己ノ利益ノ爲

債權ヲ追認セシメ又ハ清算セシムルヲ主旨トスル反訴ノ方法ニ依
リテ之ヲ求ムルコトヲ得

此場合ニ於テ裁判所ハ或ハ先ツ主タル訴ヲ裁判シ或ハ二箇ノ訴ヲ併
セテ裁判スルコトヲ得

裁判上ノ相殺ハ之ヲ以テ對抗シタル日ニ遡リテ効チ有ス

第五百三十三條 當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對シテ法律上又ハ裁判上
ノ相殺ニ服スル數箇ノ債務チ有スルトキハ其債務ヲ相殺スル順序ハ

第四百七十二條ニ掲ケタル辨濟ノ法律上ノ充當ノ規定ニ從フ
相殺カ任意上又ハ合意上ノモノナルトキハ辨濟ノ充當ハ第四百七十
條及ヒ第四百七十一條ノ規定又ハ當事者ノ協議ニ從フ

第五節 混同

第五百三十四條 一箇ノ義務ノ債權者タリ及ヒ債務者タルノ分限カ相
續等ニテ一人ニ併合シタルトキハ義務ハ混同ニ因リテ消滅ス

右ノ混同カ其以前ノ適法ノ原因ニ由リテ解除、削除又ハ廢罷ヲ受ケ
タルトキハ義務ハ之ヲ消滅セザリシモノト看做ス

第五百三十五條 債權者カ連帶債務者ノ一人ニ相續シ又ハ連帶債務者
ノ一人カ債權者ニ相續シタルトキハ連帶債務ハ其一人ノ部分ニ付テ

ノニ消滅ス

混同カ連帶債權者ノ一人ト債務者トノ間ニ行ハレタルトキモ亦其混
同ハ債務ノ一分ニ付テノニ成ル

第五百三十六條 義務カ性質ニ因ル不可分ナルトキハ債權者ノ一人ト
債務者ノ一人トノ間ノ混同ハ他ノ者ノ利害ニ於テ其義務ヲ全存セシ

ム然レトモ其混同ヲ得タル者ハ第四百四十五條ニ從ヒテ一分ノ債金
ヲ供シ又ハ受取ルニ非サレハ全部ニ付キ訴追スルコトヲ得ス又ハ訴
追セラレハコト無シ

第五百三十七條 二人ノ連帶債權者又ハ二人ノ連帶債務者ノ分限カ一
人ニ併合シタルトキハ權利又ハ義務ノ消滅ナシ其身ニ就キ併合ノ成

リタル者ハ或ハ自己ノ名或ハ己レカ相續シタル者ノ名ニテ全部ニ付
キ訴追スルコトヲ得又ハ訴追セラレハコト有リ

働方又ハ受方ニテ不可分ナル義務ニ付テモ亦同シ

第五百三十八條 保證人カ債權者ニ相續シ又ハ債權者カ保證人ニ相續
シタルトキハ保證ハ其附從ノモノト共ニ消滅ス

債務者カ保證人ニ相續シ又ハ保證人カ債務者ニ相續シタルトキハ債
權者ハ主タル債務者、共同保證人若シハ保證人ノ擔保人ニ對シ及ヒ

保證ニ附着シタル質若クハ抵押ニ付キ其權利ニ變更ヲ受クルコト無

第六節 履行ノ不能

第五百二十九條 義務カ特定物ノ引渡ヲ目的トシタル場合ニ於テ其目的物カ債務者ノ過失ナリ且付遲滯前ニ滅失シ紛失シ又ハ不融通物ト爲リタルトキハ其義務ハ履行ノ不能ニ因リテ消滅ス若シ義務カ定マリタル物ノ中ノ數箇ヲ目的トシタル場合ニ於テ其一箇ヲモ引渡スコト能ハサルトキハ亦同シ
作爲又ハ不作爲ノ義務ハ其履行カ右ト同一ノ條件ヲ以テ不能ト爲リタルトキハ消滅ス

第五百四十條 債務者カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因ル危險及ヒ災害ヲ擔任シ若クハ第三百三十六條及ヒ第三百八十四條ニ從ヒテ遲滯ニ付セラレタルトキハ其債務者ハ前條ノ原因ニ由ルモ其義務ヲ免カレス
第五百四十一條 債務者ハ自己ノ申立ツル意外ノ事又ハ不可抗力ヲ證スルノ責ニ任ス

債務者カ第三百三十五條 第二項ニ依リテ其義務ヲ免カル、爲メ假令其物カ債權者ノ方ニ在ルモ亦滅失ス可カリシコトヲ申立ツルトキ

ハ其證據ヲ舉グルコトヲ要ス
第五百四十二條 債務者カ履行ノ不能ニ因リテ義務ヲ免カレタルトキハ其債務者ハ己レノ受取ル可キ對價ニ付テハ其履行ノ爲メ既ニ出捐シタル限度ニ於テノ權利ヲ有ス

第五百四十三條 物ノ全部又ハ一分ノ滅失ノ場合ニ於テ其滅失ヨリ餘三者ニ對シテ或ル補償訴權ノ生スルトキハ債權者ハ殘餘ノ物ヲ要求シ且此訴權ヲ行フコトヲ得

第七節 銷除

第五百四十四條 無能力者又ハ錯誤ニ因リテ承諾ヲ與ヘタル人又ハ強暴若クハ詐欺ニ因リテ承諾ヲ獲ラレタル人ノ約シタル義務ハ五年ノ間ハ或ハ其人又ハ其代人ノ請求ニ因リ或ハ履行ノ訴ニ對シ此等ノ者ヨリ爲シタル抗辯ニ因リテ裁判上之ヲ銷除スルコトヲ得

第五百四十五條 右時効ノ期間ハ強暴ニ付テハ其強暴ノ止ムマテ錯誤ニ付テハ其錯誤ヲ覺知スルマテ詐欺ニ付テハ其詐欺ヲ發見スルマテ無能力ニ付テハ其無能力ノ止ムマテ之ヲ停止ス
然レトモ瘋癲者又ハ喪心ニ因ル禁治產者ノ合意ニ付テハ右時効ハ其者ハ能力ヲ復シタル後其承諾シタル行爲ノ通知ヲ受テ又ハ其行爲ヲ

了知シタル時ヨリ進行ス

治産ヲ禁セラレタル處刑人ニ付テハ銷除ノ訴權及ヒ抗辯ハ自他ノ爲メ其刑期滿了後ニ非サレハ時効ニ罹ラス
此他免責時効ノ停止及ヒ中斷ノ通常ノ原因ニ關スル規定ハ右時効ニ之ヲ適用ス

第五百四十六條 銷除訴權ヲ有セル人カ前條ノ期間ノ滿了前ニ死亡シタルトキハ訴權ハ其相續人ニ移轉ス
右ノ場合ニ於テ期間カ死亡者ニ對シテ未タ進行ヲ始メサリシトキハ

相續人ノ訴權ハ其相續ノ時ヨリ時効ニ罹リ既ニ進行ヲ始メタルトキハ其殘期ヲ以テ時効ニ罹ル但證據編第二百二十九條ニ記載セル停止ハ此限ニ在ラス

第五百四十七條 未成年者又ハ禁治産者ノ財産ニ關シ後見人ノ爲シタル合意及ヒ行爲ハ無能力者ノ利益ノ爲メ法律ノ定メタル方式及ヒ條件ヲ遵守セザリシトキハ之ヲ銷除スルコトヲ得
未成年者自治産ノ未成年者及ヒ准禁治産者ノ行爲ニ付テハ特別ナル方式及ヒ條件ニ依ラザリシトキ又禁治産者ノ行爲ニ付テハ何等ノ場合ヲ問ハス亦其行爲ヲ銷除スルコトヲ得

右規定ハ有能力者ノ爲メニ許與セル銷除ノ訴權ヲ妨ケス

第五百四十八條 未成年者一人ニテ特別ナル方式又ハ條件ノ必要ナキ合意又ハ行爲ヲ承諾シタルトキハ銷除訴權ハ其未成年者ノ爲メ缺損アルトキニ非サレハ之ヲ受理セス

法律カ保佐人ノ立會ノミヲ要シタルトキ其立會ナクシテ自治産ノ未成年者及ヒ准禁治産者ノ爲シタル右ト同一ナル性質ノ行爲ニ對シ亦缺損ニ因ルニ非サレハ銷除訴權ヲ行フコトヲ得ス

缺損ハ行爲ノ時ニ於テ之ヲ見積リ其偶然ノ事件ヨリ生スルモノハ之ヲ算入セス

第五百四十九條 未成年者カ成年ナリト陳述シタルノミニシテ成年タルコトヲ信セシムル爲メ自ラ詐術ヲ用サルトキハ其無能力又ハ缺損ニ因ル銷除訴權ヲ妨ケス

此他ノ無能力者ノ虛偽ノ陳述ニ付テモ亦同シ

第五百五十條 商業又ハ工業ヲ營ムノ許可ヲ得タル自治産ノ未成年者ハ其營業ニ關スル行爲ニ付テハ之ヲ成年者ト看做ス

然レトモ其未成年者ハ普通法ニ從フニ非サレハ不動産ヲ讓渡スコトヲ得ス

第五百五十一條 婦ノ行為ハ配偶者ノ相互ノ權利及ヒ本分ニ關シ法律ニ定メタル場合ニ非サレハ婦又ハ夫ノ請求ニ因リテ之ヲ銷除スルコトヲ得ス

第五百五十二條 承諾ノ瑕疵ニ因リテ行為ノ銷除ヲ得タル成年者ハ其行為ニ因リテ既ニ受取リタル總テノ物ヲ返還スル責ニ任ス無能力者ハ銷除ヲ得タル行為ニ因リテ仍ホ現ニ已レテ利スル物ノ返還スル責ニ任ス

右返還ヲ要求スル訴權ハ通常ノ時効ニ因ルニ非サレハ消滅セス
第五百五十三條 不動産ノ讓渡カ無能力、錯誤又ハ強暴ノ瑕疵ニ因ル銷除ニ服スルトキハ第三百五十二條及ヒ第三百五十三條ノ區別及ヒ條件ニ從ヒ第三取得者ニ對シテ其銷除ヲ爲スコトヲ得

第五百五十四條 銷除訴權ハ第五百四十四條乃至第五百四十六條ニ定メタル時効ニ因リテ消滅スル外第五百四十五條ニ從ヒテ時効ノ進行ヲ始メタル後利害關係人カ銷除スルコトヲ得ヘキ合意ヲ明示又ハ默示ニテ認諾シタルトキハ之ヲ行フコトヲ得ス

第五百五十五條 明示ノ認諾ハ銷除スルコトヲ得ヘキ合意ノ要旨及ヒ其銷除ノ原因ヲ記シ且銷除訴權ノ拋棄ヲ述ヘタル明白ナル證書ニ因

リテ成ル

銷除ノ數箇ノ原因アルトキハ明示ノ認諾ハ特ニ證書ニ記シタル原因ニ付テノミ其效ヲ生ス

第五百五十六條 默示ノ認諾ハ左ノ行為ニ因リテ成ル

第一 合意ノ全部若クハ一分ノ任意ノ履行

第二 異議ナキ又ハ異議ノ留保ナキ強制ノ執行

第三 更改

第四 物上又ハ對人ノ擔保ノ任意ノ供與

默示ノ認諾ハ債權者ニ在テハ銷除スルコトヲ得ヘキ合意ノ履行ノ請求ニ因リ又ハ其合意ヲ以テ取得シタル物ノ全部若クハ一分ノ任意讓渡ニ因リテ成ル

第五百五十七條 認諾ハ銷除訴權ヲ有スル者ノ特定ノ承繼人ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第五百五十八條 初ヨリ無効ナル行為ハ之ヲ認諾スルコトヲ得ス但第五百六十五條ニ掲ケタル規定ヲ妨ケス

第五百五十九條 算數、氏名、日附又ハ場所ノ錯誤ノ改正ヲ目的トスル

訴權ハ時効ニ罹ルコト無シ但此訴權ノ附屬スル權利ノ時効ヲ妨ケス

第八節 廢罷

第五百六十條 債權者ヲ詐害シテ約シタル義務ノ廢罷及ヒ廢罷訴權ノ時効ハ第三百四十條乃至第三百四十四條ノ規定ニ從フ
贈與者及ヒ其相續人ノ利益ノ爲メニ設ケタル特別ノ廢罷ハ贈與ニ關スル規定ニ從フ

第九節 解除

第五百六十一條 義務ハ第四百九條、第四百二十一條及ヒ第四百二十二條ニ從ヒ明示ニテ要約シタル解除又ハ裁判上得タル解除ニ因リテ消滅ス
解除ヲ請求ス可キトキハ其解除訴權ハ通常ノ時効期間ニ從フ但法律ヲ以テ其期間ヲ短縮シタル場合ハ此限ニ在ラス

第四章 自然義務

第五百六十二條 自然義務ノ履行ハ訴ノ方法ニ依リテモ相殺ノ抗辯ニ依リテモ之ヲ要求スルコトヲ得ス其履行ハ債務者ノ任意ナルコトヲ要シ之ヲ其良心ニ委ス

第五百六十三條 債務者ノ任意ノ辨濟ハ不當ノ辨濟ナリトシテ之ヲ取戻スコトヲ得ス

自然義務ヲ辨濟シタル意思ノ證據カ事情ヨリ生スルニ於テハ辨濟ノ原因ヲ明示スルコトヲ要セズ

第五百六十四條 自然義務ハ追認、更改又ハ質若クハ抵當ノ供與ノ目的タルコトヲ得

右諸種ノ場合ニ於テ自然義務ハ通常ノ法定ノ效力ヲ生ス

第五百六十五條 自然義務ハ法定ノ承諾ヲ阻却スル錯誤ノ爲メ目的ノ指定ノ欠缺若クハ不足ノ爲メ又ハ必要ナル公式ノ欠缺ノ爲メ初ヨリ無効ナル合意ニ因リテ生スルコトヲ得

然レトモ公式ノ欠缺ノ爲メ無効ナル贈與ニ關シテハ贈與者自ラ自然義務ノ履行又ハ追認ヲ爲スコトヲ得ス其相續人又ハ承繼人ノミ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ方式上無効ナル遺言ヲ爲セル者ノ相續人ニ之ヲ適用ス
第五百六十六條 原因ノ欠缺又ハ不法ノ原因ノ爲メ無効ナル合意ハ自然義務ヲ生スルコトヲ得ス公ノ秩序ノ爲メ合意ノ目的トスルコトヲ禁シタル物ヲ目的ト爲ス合意ニ付テモ亦同シ

第五百六十七條 第三者ノ所爲ノ諾約及ヒ第三者ノ利益ニ於ケル要約ニ關シ第三百二十二條及ヒ第三百二十三條ニ定メタル無効ハ諾約者

ノ自然義務ノ生スルコトヲ妨ケス
 第五百六十八條 債務者カ不當ノ利得、不正ノ損害又ハ法律ノ規定ニ
 因リテ法定義務ヲ負擔スルコト有ル可キ場合ノ外債務者ハ此權原ニテ
 自然義務ヲ負擔シタリト有效ニ自ラ追認スルコトヲ得
 第五百六十九條 自然義務ハ法定義務ノ銷除、廢罷又ハ解除カ裁判上
 ニテ宣告セラレタル後ト雖モ存立スルコトヲ得
 法定義務カ此他ノ消滅方法ニ因リテ消滅シタル後ニ於テモ亦同シ
 第五百七十條 免責又ハ取得ノ時効ノ利益ヲ援用シタル者既判力ノ利
 益ヲ受クル者又ハ其他ノ推定若クハ證據ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ者
 ハ尙ホ自然義務ヲ負擔シタリト自ラ追認スルコトヲ得
 第五百七十一條 自然債權ノ法定ノ讓渡ハ協議契約ヲ以テ破産者ニ免
 除シタル金額ニ付キ其債權者ノ之ヲ爲シタル場合ノモ有效ナリ
 第五百七十二條 當事者ハ自然義務ノ任意ノ履行又ハ認定アラサル前
 ト雖モ仲裁契約ヲ以テ其自然義務ノ成立又ハ廣狹ヲ仲裁人ノ決定ニ
 委ヌルコトヲ得此場合ニ於テハ自然義務ヲ宣言シタル其決定ハ法定
 ノ義務ヲ生ス

民法財産取得編目錄

總則

- 第一章 先占 (自四至五)
- 第二章 添附 (自五至一一)
- 第一節 不動産上ノ添附
- 第二節 動産上ノ添附
- 第三章 賣買 (自一一至四〇)
- 第一節 賣買ノ通則
- 第一款 賣買ノ性質及ヒ成立
- 第二款 賣渡又ハ買受ノ無能力
- 第三款 賣渡スコトヲ得サル者
- 第二節 賣買契約ノ効力
- 第一款 所有權ノ移轉及ヒ危險
- 第二款 賣主ノ義務
- 第一款 引渡ノ義務
- 第二款 追奪擔保ノ義務
- 第三款 買主ノ義務

第三節 買賣ノ解除及ヒ銷除

第一款 義務ノ不履行ニ因ル解除

第二款 受戻權能ノ行使

第三款 隠シタル瑕疵ニ因ル買賣廢却訴權

第四節 不分物ノ競賣

第四章 交換 (自四〇至四二)

第五章 和解 (自四二至四三)

第六章 會社 (自四三至五七)

第一節 會社ノ性質及ヒ設立

第二節 社員ノ權利及ヒ義務

第三節 會社ノ解散

第四節 會社ノ清算及ヒ分割

第七章 射伴契約 (自五七至六四)

第一節 博戯及ヒ賭博

第二節 終身年金權

第一款 終身年金權ノ設定

第二款 終身年金權ノ契約ノ効力

第三款 終身年金權ノ消滅

第八章 消費貸借及ヒ無期年金權 (自六四至六九)

第一節 消費貸借

第二節 無期年金權ノ契約

第九章 使用貸借 (自六九至七二)

第一節 使用貸借ノ性質

第二節 使用貸借ヨリ生シ又ハ其貸借ニ際シテ生スル義務

第十章 寄託及ヒ保管 (自七二至七八)

第一節 寄託

第一款 任意寄託

第二款 急迫寄託及ヒ旅店寄託

第二節 保管

第十一章 代理 (自七八至八八)

第一節 代理ノ性質

第二節 代理人ノ義務

第三節 委任者ノ義務

第四節 代理ノ終了

第十二章 雇傭及ヒ仕事請負ノ契約 (自八八至九六)

第一節 雇傭契約

第二節 習業契約

第三節 仕事請負契約

民法

財産取得編

總則

第一條 物上及ヒ對人ノ權利ハ財産編ニ規定シタル原因ニ由ル外尙ホ本編ノ規定ニ從ヒ之ヲ取得スルコトヲ得

第一章 先占

第二條 先占ハ無主ノ動產物ヲ己レノ所有ト爲ス意思ヲ以テ最先ノ占有ヲ爲スニ因リテ其所有權ヲ取得スル方法ナリ

第三條 狩獵、捕漁ノ權利ノ行使及ヒ漂流物、遺失物ノ取得ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

戰時ニ於ケル海陸ノ掠奪物ニ付テモ亦同

第四條 遺棄物ヲ先占シタリト主張スル者ハ原所有者ノ任意ノ遺棄ヲ證スル責ニ任ス

第五條 他人ニ屬スル物ノ中ニ於テ偶然ニ發見シタル埋藏物ハ所有者ノ知レサルトキハ其一半ヲ發見者ニ付與ス

埋藏物カ埋レ又ハ隠レタル所ノ物ノ所有者ノ權利ハ次章ノ規定ニ從フ

第六條 埋藏物ノ原所有者ハ發見後三ケ年間ニ非サレハ前條ノ付與ニ反シテ自己ノ權利ヲ主張スルコトヲ得ス

此期間ハ原所有者カ埋藏物ノ埋レ又ハ隠レタル所ノ物ノ所有者タルニ於テハ其發見ヲ知リタル後一ケ年間ニ之ヲ短縮ス

然レトモ埋藏物ノ占有者カ惡意ナルトキハ通常ノ時效ヲ適用ス

第二章 添附

第七條 動產ト不動產トヲ同ハス或ル物ノ所有者ハ其物ニ附從トシテ合シタル物ヲ下ノ區別ニ從ヒテ取得ス

第一節 不動產上ノ添附

第八條 建築其他ノ工作及ヒ植物ハ總テ其附著セル土地又ハ建物ノ所有者カ自費ニテ之ヲ築造シ又ハ栽植シタリトノ推定ヲ受ク但反對ノ

證據アルトキハ此限ニ在ラス

右建築其他ノ工作物ノ所有權ハ土地又ハ建物ノ所有者ニ屬ス但權原又ハ時効ニ因リテ第三者ノ得タル權利ヲ妨ケス
植物ニ關スル場合ハ第十條ノ規定ニ從フ

六

第九條 土地又ハ建物ノ所有者カ他人ニ屬スル材料ヲ以テ建築其他ノ工作ヲ爲シタルトキハ其工作物ヲ毀壞シテ材料ヲ返還スル強要ヲ受ケス又材料ノ本主ニ其取去ヲ強要スルコトヲ得ス
然レトモ右ノ所有者ハ財産編第三百八十五條ノ規定ニ從ヒテ材料ノ本主ニ償金ヲ拂フノ責ニ任ス

第十條 他人ニ屬スル草木ノ栽植ニ付テハ其栽植ヲ爲シタル土地ノ所有者又ハ占有者ハ一ケ年内ニ其草木ヲ拔取り且之ヲ返還スル強要ヲ受ク尙ホ損害アルトキハ之ヲ賠償ス

右草木ノ所有者カ其返還ヲ欲セス又ハ栽植ノ時ヨリ一ケ年ヲ經過シタルトキハ其所有者ハ償金ヲ受ク

第十一條 他人ノ土地又ハ建物ノ善意ノ占有者ニシテ其土地又ハ建物ニ自己ノ材料又ハ草木ヲ以テ築造又ハ栽植ヲ爲シタル者ハ所有者ヨリ不動産回復ノ請求ヲ受クルニ當リ其工作物又ハ草木ヲ取拂フ費ニ

任セス所有者ハ其選擇ヲ以テ占有者ニ材料及ヒ手間賃ヲ拂ヒ又ハ不動産ノ増價額ヲ拂フ

築造又ハ栽植ヲ爲シタル者カ惡意ノ占有者アリシトキハ所有者ハ工作物及ヒ草木ヲ除去シテ場所ヲ舊狀ニ復セシメ且損害アルトキハ之ヲ賠償セシムルコトヲ得又所有者ハ前項ノ規定ニ從ヒ占有者ニ償金ヲ拂ヒテ右ノ工作物及ヒ草木ヲ保存スルコトヲ得

第十二條 舟筏ノ通ス可キト否トヲ問ハス河川ノ寄洲、中洲、干潟ノ所有權又ハ水路ノ變換ニヨリ生スル浸沒地及ヒ舊川床ノ所有權ノ歸屬ハ別ニ之ヲ定ム但海ノ干潟ニ付テハ財産編第二十三條ノ規定ニ從フ
第十三條 私有池ノ魚又ハ鳩舎ノ鳩カ計策ヲ以テ誘引セラレ又ハ停留セラレタルニ非スシテ他ノ池又ハ鳩舎ニ移リタルトキ其所有者カ自己ノ所有ヲ證シテ一週日間ニ之ヲ要求セザレハ其魚又ハ鳩ハ現在ノ土地ノ所有者ニ屬ス

群ヲ爲シテ他ニ移轉シタル蜜蜂ニ付テハ一週日間之ヲ追求スルコトヲ得

飼馴サレタルモ逃ケ易キ野栖ノ禽獸ニ付テハ善意ニテ之ヲ停留シタル者ニ對シ一ケ月間其回復ヲ爲スコトヲ得

七

第二節 動産上ノ附隨

第十四條 各別ノ所有者ニ屬スル數箇ノ動産物カ所有者ノ意ニ非スシテ第三者ニ因リテ附合セラレ其各物共ニ著シキ毀損又ハ減價ヲ受ケスシテ容易ニ分タル可キトキハ所有者ノ各自ハ其分離ヲ請求スルコトヲ得但損害アルトキハ附合ヲ爲シタル者之ヲ賠償ス

第十五條 二箇ノ物カ分ツ可カラサルカ又ハ之ヲ分ツカ爲メ著シキ毀損、減價ヲ爲シ若クハ過分ノ費用、時日ヲ要スルトキハ孰レノ所有者モ分離ヲ請求スルコトヲ得スレテ其物ハ附合ノ儘ニテ主タル物ノ所有者ニ歸屬ス但此所有者ハ從タル物ノ所有者ニ損害ヲ加ヘテ已レテ利シタル限度ニ應シ賠償ヲ負擔ス

或ル物ノ便益、粧飾又ハ補完ノ爲メニ附合セラレタル物ハ之ヲ從タル物ト看做ス主從ノ區別ニ付キ疑アルトキハ價格ノ低キ物ヲ以テ從タル物トス

此他ノ場合ニ於ケル物ノ主從ノ區別ハ之ヲ裁判所ノ査定ニ委ス

第十六條 附合カ主タル物ノ所有者ノ過失又ハ詐欺ニ因リテ成リ前條ノ規定ニ從ヒテ其分離ヲ爲ス可カラサルトキハ從タル物ノ所有者ノ

受ク可キ賠償ハ財産編第三百七十條及ヒ第三百八十五條ニ依リテ其額ヲ定ム

從タル物ノ所有者カ附合ヲ爲シタルトキハ主タル物ノ所有者ノ利益ノ限度ニ應シテノミ其損失ノ賠償ヲ受ク

第十七條 不都合ナシニハ物ヲ分離スルコトヲ得サル右同一ノ場合ニ於テ其性質、品質又ハ價格ニ因ルモ主從ノ區別ヲ爲シ難キトキハ其物ハ平等ノ權利ニテ各所有者之ヲ共有ス但過失又ハ惡意アル者ヨリ賠償ヲ受クルコトヲ妨ケス

第十八條 前數條ノ規定ハ各別ノ所有者ニ屬スル流動物、固形物又ハ金屬ノ混和ニモ亦之ヲ適用ス

然レトモ分離スルコトヲ得サル物カ其性質及ヒ品質ノ同シキニ因リテ共有ト爲ル可キトキハ各自ノ權利ハ已レヨリ出テタル物ノ數量ノ割合ニ應ス

第十九條 附合又ハ混和カ所有者ノ一人ノ所爲ヨリ生スル場合ニ於テハ他ノ所有者ハ專屬ノ所有權ヲモ共有權ヲモ承諾スル責ニ任セス添附ヲ爲シタル者ニ對シテ同品質ノ物又ハ其代價ヲ要求スルコトヲ得

第二十條 或人カ他人ノ物料ヲ以テ斷ナル用方ノ物ヲ作りタルトキハ

物料ノ所有者ハ手間賃ヲ拂フテ其物ノ所有權ヲ要求スルコトヲ得
然レトモ手間賃カ著シク物料ノ價額ヲ超ユルトキハ新ナル物ノ所有
權ハ製作者ニ屬ス但製作者ハ物料ノ所有者ニ賠償スルコトヲ要ス
製作者カ物料ノ幾分ヲ供シタルトキハ其物料ノ價額ハ優先權ヲ定ム
ル爲メ之ヲ手間賃ニ合算ス
所有者ノ承諾ナクシテ物料ヲ用井タルトキハ其所有者ハ常ニ自己ノ
優先權ヲ拋棄シテ同品質、同數量ノ物又ハ其代價ヲ要求スルコトヲ
得

第二十一條 附合、混和又ハ製作カ所有者ノ明示又ハ默示ノ承諾ヲ以
テ成ルトキハ所有權ハ合意ニ從ヒテ之ヲ定ム若シ疑アルニ於テハ分
離カ容易ナリト雖モ其分離ヲ要求スルコトヲ得ス且優先權及ヒ共有
權ニ關スル前數條ノ規定ヲ適用ス

第二十二條 前數條ニ定メサル動產物添附ノ場合ニ於テハ裁判所ハ前
數條ノ規定ノ援引ス可キハ之ヲ援引シ且條理ニ基キテ所有權及ヒ賠
償ノ論點ヲ審定ス

第二十三條 第五條ニ從ヒテ發見者ニ屬セサル埋藏物ノ部分ハ添附ニ
因リテ其埋藏物ノ埋レ又ハ隠レタル所ノ動產又ハ不動産ノ所有者ニ

屬ス

右動產又ハ不動産ノ所有者自身ニテ意外ニ發見シタル埋藏物ハ一半
ハ先占ニ因リ一半ハ添附ニ因リテ全部其所有者ニ屬ス

所有者ノ所爲又ハ其指圖ヲ受ケ若クハ受ケサル第三者ノ所爲ニテ特
ニ搜索ヲ爲スニ因リテ發見シタル埋藏物ハ添附ヲ以テ全部所有者ニ
屬ス

原所有者ノ回復ニ對シ埋藏物ノ發見者ノ爲メ第六條ヲ以テ定メタル
時効ハ右ノ場合ニ之ヲ適用ス

第三章 賣買

第一節 賣買ノ通則

第一款 賣買ノ性質及ヒ成立

第二十四條 賣買ハ當事者ノ一方カ物ノ所有權又ハ其支分權ヲ移轉シ
又ハ移轉スル義務ヲ負擔シ他ノ一方又ハ第三者カ其定マリタル代金
ノ辨濟ヲ負擔スル契約ナリ

賣買契約ハ下ノ規定ニ從フ外有償且雙務ナル契約ノ一般ノ規則ニ從
フ

第二十五條 賣買ハ當事者ノ承諾ノミヲ以テ完全ニ成立ス

然レトモ當事者ハ賣買ノ成立ヲ各自ノ證據ニ供スル公正證書又ハ私署證書ノ調製ノ條件ニ繫ラシムルコトヲ得

第二十六條 賣渡又ハ買受ノ一方ノヨリ豫約アルトキハ要約者カ財產編第三百八條ノ條件及ヒ區別ニ從ヒテ契約ノ取結ヲ要求スル時ヨリ諾約者ハ其豫約ニ於テ定メタル代價及ヒ條件ヲ以テ契約ヲ取結フ義務ヲ負擔ス

第二十七條 諾約者カ契約ヲ取結フコトヲ拒ムトキハ裁判所ハ賣買カ成立シタリトノ判決ヲ爲ス

不動産權ノ賣買ニ關スルトキハ其判決ヲ登記ス
賣渡ノ豫約ヲ登記シタルトキハ右判決ハ登記ニ之ヲ附記ス其登記ハ賣主ノ承繼人ニ對シ既往ニ遡リテ效力ヲ生ス

第二十八條 賣渡及ヒ買受ノ相互ノ豫約アルトキハ當事者ノ一方ハ前條ニ從ヒ他ノ一方ニ對シテ契約ノ取結ヲ強要スルコトヲ得

裁判所ハ此場合ニ於テ當事者ノ意思ヲ解釋シ賣買ノ豫約カ即時ノ賣買ノ效ヲ有スルモノト判決シ又期間ノ定アルトキハ其期間ハ履行ノミニ適用セラル、モノト判決スルコトヲ得

第二十九條 前四條ニ從ヒ當事者ノ雙方又ハ一方カ日後賣渡及ヒ買受

ノ契約ヲ取結フ義務又ハ單ニ證書ヲ作ル義務ヲ負擔シタル場合ニ於テ豫約ノ擔保トシテ手附ヲ授受シタルトキハ契約ヲ取結フコト又ハ證書ヲ作ルコトヲ拒ム一方ハ其與ヘタル手附ヲ失ヒ又ハ其受ケタル手附ヲ二倍ニシテ還償ス

第三十條 即時ノ賣買ニ於テハ手附ハ之ヲ與ヘタル者ノ利益ノ爲メニノミ解約ノ方法ト爲ル但買主ノ與ヘタル手附カ金銀ナルトキハ其地ノ慣習ニテ之ニ解約ノ性質ヲ付スル場合ノ外合意ニテ此性質ヲ明示スルコトヲ要ス

契約ノ全部又ハ一分ノ履行アリタルトキハ如何ナル場合ニ於テモ解約ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 試験ニテ爲ス賣買ハ事情ニ隨ヒ買主ノ適意ノ停止條件又ハ拒絕ノ解除條件ヲ帶ヒテ之ヲ爲シタルモノト看做スコトヲ得
試味ノ慣習アル日用品ノ賣買ハ適意ノ停止條件ヲ帶ヒテ之ヲ爲シタルモノト推定ス

第三十二條 前條ニ定メタル二箇ノ場合ニ於テ買主カ己レニ屬スル權能ノ行使ニ付キ制限ヲ定メサルトキハ短キ期間ニ於テ決答ス可キ催告ヲ受ク若シ其決答ヲ爲サスシテ賣渡物ノ引渡ヲ受ケタルトキハ買

主ハ承諾シタリトノ推定ヲ受ケ反對ノ場合ニ於テハ拒絕シタリトノ推定ヲ受ク

第三十三條 賣買ノ代價ハ全額ヲ以テセサルモ其目安チ契約ニ定ムルコトヲ要ス

又其代價ハ或ハ同種類ノ商品ノ現時又ハ近日ノ市價ニ委テ或ハ契約ヲ以テ指定シタル第三者ノ評價ニ委ヌルコトヲ得

右評價サ錯誤ニ出テタルカ又ハ明カニ公平ニ反スルトキハ其評價ノ異議ヲ爲スコトヲ得但其異議ハ損失ヲ受ケタリト主張スル一方カ評價ヲ知リタル時直チニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三者ト當事者ノ一方トノ間ニ共謀ノ詐欺アルトキハ財産編第二百十二條及ヒ第五百四十四條ノ規定ヲ適用ス

當事者ハ元本又ハ無期若クハ終身ノ年金權ヲ以テ代價ヲ定ムルコトヲ得然レトモ第三者ハ元本ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ定ムルコトヲ得ス但當事者カ明示ニテ一層廣キ權限ヲ第三者ニ與ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第三十四條 賣買契約ノ費用ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔ス但雙方カ別段決定ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第二款 賣渡又ハ買受ノ無能力

第三十五條 配偶者ノ間ニ於テハ動産ト不動産トチ間ハス賣買ノ契約ヲ禁ス

配偶者ノ一方カ他ノ一方ニ對シテ負擔スル眞實且正當ナル債務ヲ消滅セシムルニハ相互ニ代物辨濟ヲ爲スコトヲ得

右代物辨濟ハ相當ノ説明ヲ爲セル後裁判所ノ認許ヲ得タルニ非サレハ配偶者ノ間ニ於テ有效且完全ナラス

又此代物辨濟カ不動産物權ヲ目的トスルトキハ其代物辨濟ハ登記中ニ右認許ヲ附記シタルニ非サレハ第三者ニ對シテ效力ヲ有セス

第三十六條 前條ニ基キタル銷除ノ訴權ハ賣渡又ハ認許ナキ代物辨濟ヲ爲シタル配偶者、其相續人又ハ承繼人ノミニ屬ス但其訴權ハ財産編第五百四十四條以下ノ一般ノ規則ニ從フ

第三十七條 法律上、裁判上若クハ合意上ノ管理人ハ直接ニ自己ノ名ヲ以テスルモ間介人ニ依ルモ賣渡ノ任ヲ受ケタル財産ニ付キ協議上又ハ競賣上ノ取得者ト爲ルコトヲ得ス

此制禁ハ競賣ヲ處理シ又ハ指揮スルコトヲ法律ニ依リテ任セラレタル公吏ニ之ヲ適用ス

第三十八條 前條ノ規定ニ背キタル賣買ノ銷除訴權ハ原所有者、其相續人及ヒ承繼人ノミニ屬ス

第三十九條 判事、檢事及ヒ裁判所書記ハ争ニ係ル物權又ハ人權ニシテ其職務ヲ行フ裁判所ノ管轄ニ屬ス可キモノ、取得者ト爲ルコトヲ得ス

此制禁ハ右同一ノ條件ヲ以テ辯護士及ヒ公證人ニ之テ適用ス

第四十條 前條ヨリ生スル銷除訴權ハ讓渡人、權利ヲ争フ相手方、其雙方ノ相續人及ヒ承繼人ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

又權利ヲ争フ相手方、其相續人又ハ承繼人ハ讓受人ニ讓渡ノ現價ト辨濟ノ日ヨリノ利息トヲ辨償シテ其權利ノ受戻ヲ爲スコトヲ得

右ノ規定ハ違背者ニ對スル懲戒ノ罰ヲ妨ケス

第三款 賣渡スコトヲ得サル物

第四十一條 賣買カ性質ニ因リテ一般ニ融通スルコトヲ得サル物又ハ特別法ヲ以テ各人ニ處分ヲ禁シタル物ヲ目的トスルトキハ其賣買ハ無効ナリ

此賣買ノ無効ハ抗辯ニ依ルモ訴ニ依ルモ當事者各自ニ之ヲ援用スルコトヲ得

當事者ノ一方カ詐欺ヲ以テ賣買ノ制禁ナルコトヲ隱秘シタルトキハ損害賠償ノ責ニ任ス

第四十二條 他人ノ者ノ賣買ハ當事者雙方ニ於テ無効ナリ

然レトモ賣主ハ賣買ノ際其物ノ他人ニ屬スルコトヲ知ラサルニ非サレハ其無効ヲ援用スルコトヲ得ス

第四十三條 賣買契約ノ當時ニ於テ物カ既ニ全部滅失シタルトキハ其賣買ハ無効ナリ但賣主カ此滅失ヲ知リタルトキ又ハ賣主ニ之ヲ知ラサル過失アルトキハ善意ノ買主ニ對スル損害賠償ヲ妨ケス

物ノ一分ノ滅失ノ場合ニ於テ買主之ヲ知ラサリシトキハ買主ハ其選擇ヲ以テ或ハ殘餘ノ部分カ用方ニ不充分ナルコトヲ證シテ賣買ヲ解除シ或ハ割合ヲ以テ代價ヲ減少シテ賣買ヲ保持スルコトヲ得但此ニ箇ノ場合ニ於テハ賣主ニ過失アルトキハ其損害賠償ヲ妨ケス

賣買解除ノ請求ハ買主カ一分ノ滅失ヲ知リタル時ヨリ六ヶ月ヲ過キ又代價減少ノ請求ハ此時ヨリニケ年ヲ過クレハ之ヲ受理セス

第二節 賣買契約ノ效力

第一款 所有權ノ移轉及ヒ危險

第四十四條 賣買契約ハ賣渡物ノ所有權ノ移轉及ヒ其物ノ危險ニ付テ

ハ財産編第三百三十一條、第三百三十二條、第三百三十五條及ヒ第四百十九條ニ定メタル如キ普通法ノ規則ニ從フ

第四十五條 賣買ノ目的カ不動産ナルトキハ其契約ヲ以テ賣主ノ特定且善意ノ承繼人ニ對抗スルニハ財産編第三百四十八條以下ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

財産編第三百四十六條及ヒ第三百四十七條ハ右同一ノ目的ヲ以テ有體動産及ヒ債權ノ賣買ニ之ヲ適用ス

第二款 賣主ノ義務

第四十六條 賣主ハ定量物ノ所有權ヲ移轉スル義務ノ外尙ホ賣渡物ヲ引渡ス義務、引渡ニ至ルマテ其物ヲ保存スル義務及ヒ妨碍、追奪ニ對シテ買主ヲ擔保スル義務ニ任ス

第一則 引渡ノ義務

第四十七條 賣主ハ賣渡物ヲ其合意シタル時期及ヒ場所ニ於テ現存ノ形狀ニテ引渡ス責ニ任ス但其保存ニ付キ懈怠アルトキハ買主ニ對シテ賠償ヲ負擔ス

引渡ノ時期及ヒ場所ニ付キ合意ヲ爲サ、リントキハ財産編第三百三十三條第六項及ヒ第七項ノ規定ニ從フ

然レトモ買主カ代金辨濟ニ付キ合意上ノ期間ヲ得サリントキハ買主ハ其辨濟ヲ受クルマテ賣渡物ヲ留置スルコトヲ得

賣主ハ代金辨濟ノ爲メ期間ヲ許與シタルトキト雖モ買主カ賣買後ニ破産シ若クハ無資力ト爲リ又ハ賣買前ニ係ル無資力ヲ隱秘シタルトキハ尙ホ引渡ヲ遲延スルコトヲ得

第四十八條 賣主ハ契約ニ定メタル數量ヲ過不足ナク引渡スコトヲ要ス

然レトモ下ノ數條ニ定メタル場合及ヒ區別ニ從ヒテ賣主又ハ買主ハ約シタル數量ヨリ多ク讓渡シ又ハ取得スル責ニ任ス

第四十九條 賣渡物カ特定不動産ニシテ契約ニ其全面積ヲ明言シ且各坪ノ代價ヲ指示シタル場合ニ於テ現實ノ面積カ指示ノ面積ニ不足アルトキハ賣主ハ面積ヲ擔保セサル旨ヲ明言シタルトキト雖モ割合ヲ以テ代價減少ノ要求ニ服ス

現實ノ面積カ指示ノ面積ニ超過アルトキハ買主ハ割合ヲ以テ代價補足ノ要求ニ服ス

第五十條 全面積ヲ明言シ唯一ノ代價ヲ以テ不動産ヲ賣渡シ其面積ノ不足ノ場合ニ於テ賣主ハ惡意ナルトキ又ハ善意ナルモ面積ヲ擔保シ

タルトキ又ハ不足ノ坪數カ少ナクトモ二十分一ナルトキニ非サレハ
代價減少ノ要求ニ服セス

面積ヲ擔保セス又ハ面積ハ概算ナリトノ附記ハ惡意ナル賣主ノ責任
ヲ減セス

超過ノ場合ニ於テハ買主ハ其超過ガ二十分一ニ及ヘルトキニ非サレ
ハ代價補足ノ要求ニ服セス

第五十一條 建物ノ存スルト否トテ問ハス數箇ノ土地ヲ一箇ノ契約ヲ
以テ其各箇ノ面積ヲ指示シ唯一ノ代價ニテ賣渡シタル場合ニ於テ其
面積カ一箇ノ土地ニ超過アリ一箇ノ土地ニ不足アルトキハ其坪ノ箇
數ニ從ハス價格ニ從ヒテ相殺ス

此相殺ノ後猶ホ原價二十分一ノ過不足アルトキハ割合ヲ以テ代價ヲ
増加シ又ハ之ヲ減少ス

此規定ハ一箇ノ土地内ニ於テ別異ノ性質アル各部分ノ面積ヲ指示シ
タル場合ニモ之ヲ適用ス

第五十二條 買主ハ面積不足ノ爲メ代價減少ニ付權利ヲ有スル場合ニ
於テ尙ホ損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得又買主ハ約シタル面積カ其
用方ニ必要ナルコトヲ證シテ契約ノ解除ヲモ請求スルコトヲ得但面

積ヲ擔保セサル旨ヲ明言シタル賣買ハ此限ニ在ラス

超過ノ場合ニ於テ買主ハ二十分一以上ノ代價補足ヲ辨償スルコトヲ
要スルトキハ單純ニ契約ヲ解除スルコトヲ得

第五十三條 上ノ規則ハ目方、員數及ヒ尺度ヲ以テ指示シタル數量カ
買主ニ於テ容易且即時ニ調査スルコトヲ得サル日用品及ヒ動産物ノ
賣買ニ之ヲ適用ス

第五十四條 前數條ヨリ生スル代價改正、損害賠償又ハ契約解除ノ訴
權ハ不動産ニ付テハ一ケ年動産ニ付テハ一ケ月ノ期間ニ之ヲ行フコ
トヲ要ス

右期間ノ經過ハ賣主ニ在テハ契約ノ日ヨリ買主ニ在テハ引渡ノ日ヨ
リ始マル

第五十五條 動産又ハ不動産ノ賣買ニ於テ錯誤カ其物ノ品質ニ存スル
トキハ財産編第三百十條ノ規定ヲ適用ス

第二則 追奪擔保ノ義務

第五十六條 他人ノ物ヲ賣買シタル場合ニ於テ擔保ノ事ニ付キ何等ノ
特別ナル合意モ有ラサリシトキハ買主ハ未ダ追奪ノ恐アルニ至ラサ
ルトキト雖モ賣買無効ノ判決ヲ求ムルコトヲ得又買主カ契約ノ當時

其物ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知リ賣主カ之ヲ知ラザリシトキト雖モ亦同シ

第五十七條 買主カ惡意ナリシトキハ賣買ノ無効及ヒ追奪擔保ノ效果ハ買主ニ其猶ホ負擔スル代金辨濟ノ義務ヲ免カレシメ又ハ其既ニ辨濟シタル代金ヲ取戻スコトヲ許スニ在ルノミ

買主ハ買受物ノ價格カ減少シタルトキト雖モ右取戻ニ於テ代金ノ減少ヲ受クルコト無シ但價格ノ減少カ自己ノ詐欺ニ出テ又ハ自己ノ利益ト爲リタルトキハ此限ニ在ラス

如何ナル場合ニ於テモ買主カ其辨濟シタル代金ヲ取戻シタルトキハ物ノ占有ヲ賣主ニ返還スルコトヲ要ス

第五十八條 買主ハ契約ノ當時善意ナリシトキハ右ノ外尙ホ左ノ諸件ノ辨償ヲ受ク

第一 買主ノ支拂ヒタル契約費用ノ部分

第二 買受物ニ付キ買主カ支拂ヒタル費用ニシテ所有者ヨリ其辨償ヲ受クルコトヲ得サルモノ

第三 買受物ニ生シタル増價額但意外ノ事ニ因ルモ亦同シ

第四 所有者ノ請求後ニ收取シ之ニ返還スルコトヲ要スル果實

然レトモ買主ハ果實ニ換ヘテ之ニ對當スル時期間ノ賣買代金ノ法律上ノ利息ヲ受クルコトヲ欲スルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得

又善意ナル買主ハ此他所有者ノ回復ノ訴ニ對スル答辯ノ費用及ヒ擔保請求ノ費用等總テノ損害賠償ヲ普通法ニ從ヒテ請求スルコトヲ得

第五十九條 賣主ハ契約ノ當時善意ナリシトキハ財産編第三百八十五條ニ從ヒテ正當ニ豫見スルコトヲ得ヘカリシ限度ニ非サレハ前條ノ

第二號第三號及ヒ末項ニ定メタル賠償ヲ負擔セス

第六十條 善意ナル賣主ハ契約後ニ賣渡物ノ他人ニ屬スルコトヲ覺知シタルトキハ買主ヨリ代金ヲ提供スト雖モ其物ノ引渡ノ請求ヲ受クルニ當リ賣買ノ無効ヲ申立テ且抗辯ノ方法ニ依リテ擔保ノ定方ノ判決ヲ求ムルコトヲ得但買主カ追奪ノ場合ニ於ケル求償權ヲ拋棄スル旨ヲ明白ニ陳述シタルトキハ此限ニ在ラス

第六十一條 右覺知カ引渡後ニ在リタルトキハ賣主ハ買主カ即時ニ擔保訴訟ヲ行フヤ又ハ已レト立會ヒ第五十八條ニ從ヒテ現時負擔ノ賠償額ヲ評定スルヤニ付キ買主ヲ遲滯ニ付スルコトヲ得

此末ノ場合ニ於テ賣主ハ其受取リタル代金ト共ニ右評價ノ金額ヲ集

供シテ供託シタルトキハ總令擔保ノ請求アルモ此他ノ責任ヲ負擔セ

二四

供託シタル金額ヲ引取ルノ權利ヲ財産編第四百七十八條ニ從ヒテ行
使シタル賣主ハ再ヒ本條ノ許與セル權能ヲ援用スルコトヲ得ズ

第六十二條 他人ノ物ノ賣主ハ日後其物ノ所有者ト爲リタルトキハ買
主ナシテ賣買ヲ認諾スルヤ擔保訴權ヲ行フモノ一ヲ擇マシムルコト
シ何時ヒテモ催告スルコトヲ得

右同一ノ權利ハ他人ノ物ノ賣主ノ相續人ト爲リタル眞所有者ニ屬ス
第六十三條 買受物ノ分割ノ部分カ完全所有權又ハ虛有權ニテ第三者
ニ屬スル場合ニ於テ買主カ此部分ヲ取得スルヲ得サルコトヲ知レハ
初ヨリ其物ヲ買ハサル可キ程ニ其性質又ハ廣狹ニ因リテ有益ナルコ
トヲ證スルトキハ全部追奪ノ爲メ定メタル如ク損害ノ賠償ヲ得テ契
約ヲ解除スルコトヲ得

買主ハ契約ノ解除ヲ求メサルトキハ其受ケタル直接且現時ノ損失ノ
限度ニ於テ賠償ヲ要求スルコトヲ得

第六十四條 買受物ノ不分ノ部分カ第三者ニ屬スルトキハ其部分ノ重
要ノ如何ニ拘ハラヌ買主ハ損害賠償ヲ得テ契約ヲ解除スル權利ヲ有

買主ハ契約ノ解除ヲ求メサルトキハ買受物ノ價格ノ減少シタルトキ
ト雖モ常ニ此ニ對當スル買受代金ト契約費用トノ部分ヲ取戻シ又其
價格ノ増加シタルトキハ其損害ノ賠償ヲ受ク

第六十五條 或ハ賣渡シタル土地ニ屬スルモノトシテ契約ニ於テ述
タル働方地役ノ追奪アリタルトキ或ハ契約ニ於テ述ハサル人爲ヲ以
テ設定シタル受方地役ニ關シ又ハ財産ノ一分ニ存スル用益權、賃借
權ニ關シテ第三者ノ要求アリタルトキハ第六十三條ノ規定ヲ適用ス
財産ノ全部ニ存スル用益權又ハ賃借權ニシテ其經過ス可キ殘餘時期
カ建物ニ付テハ一ケ年土地ニ付テハ二ケ年ヲ超エサルモノニ關シテ
モ亦同シ

賣買ノ財産ノ全部ニ存スル用益權又ハ賃借權ノ繼續時期カ建物ニ付
テハ一ケ年土地ニ付テハ二ケ年ヲ超ユ可キトキハ買主ハ尙ホ自己ニ
殘存セル權利ノ不十分ナルヲ證スルコトヲ要セスシテ前條ニ從ヒ賣
買ヲ解除スルコトヲ得

第六十六條 契約ニ於テ述ヘタルト否トテ問ハヌ賣渡シタル土地ニ先
取特權又ハ抵當權ノ負擔アリテ買主カ其代金ノ辨濟ノ前又ハ辨濟ノ

二五

時其土地ヲシテ此負擔ヲ免カレシムル爲メニ必要ナル方式ヲ履行セサルニ因リ賣主ノ債權者ノ爲メニ所有權ヲ取上ケラレタルトキハ買主ハ賣主ニ對シ第五十八條及ヒ第五十九條ノ規定ニ從ヒテ擔保ノ求償權ヲ有ス

第六十七條 差押ヘタル財産ノ競落人カ追奪ヲ受ケタルトキハ被差押人ニ對シテ代金ノ返還ヲ求ムルコトヲ得若シ被差押人カ無資力ナルニ於テハ代金ノ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シテ其代金ノ返還ヲ求ムルコトヲ得

競落人ハ差押人カ差押ノ際ニ其財産ノ債務者ニ屬セサルコトヲ知リタルニ非サレハ之ニ對シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得又債務者カ其財産ニ存スル第三者ノ權利ヲ詐欺ヲ以テ隱秘シタルニ非サレハ之ニ對シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

競賣條件書ノ調製及ヒ競落ノ處理ニ任シタル公吏ハ其職分ヲ缺キタル爲メ買主ノ錯誤ヲ惹起シタルニ非サレハ損害賠償ノ責ニ任セス

第六十八條 債權ノ賣主ハ當然自己ノ債權ノ存立及ヒ其有效ノ擔保ノ責ニ任ス
又賣主ハ明示ニテ債務者ノ有資力ノ擔保ヲ諾約シタルニ非サレハ其

擔保ノ責ニ任セス

有資力ノ擔保ニ任シタル場合ニ於テモ賣主ハ債權カ既ニ滿期ト爲リタルトキハ讓渡ノ日ニ於ケル有資力ノミニ付キ且受取リタル代金ノ限度ニ從ヒテ其責ニ任ス但一層廣大ナル擔保ノ明約ト裏書ヲ以テ讓渡ス商證券ノ特別規則トチ妨ケス

未タ滿期ト爲ラサル債權ノ讓渡ニ於テ讓渡人カ他ノ特約ナクシテ債務者ノ將來ノ有資力ヲ擔保シタルトキハ其擔保ハ滿期ヨリ一ケ年又無期年金權ニ付テハ其讓渡ヨリ十ケ年ニテ絶止ス

六十九條 物權ト人權トチ問ハス争ニ係ル權利ノ讓渡ニ於テハ讓渡人ハ特別ノ合意ナク且讓受人カ争アルコトヲ知リタルトキハ其主張ノ虛構ナラサルコトヲ擔保スルノヨニシテ讓渡シタル權利ノ眞ノ成立ヲ擔保セス

裁判上ト裁判外トチ問ハス本權ニ關スル明白ノ争ノ目的タル權利ニ付テノミ右ノ規定ヲ適用ス

讓渡人ハ其主張ノ虛構ナリシ場合ニ於テハ讓渡代金ノ返還ノ外讓受人カ正當ニ期望シタル利益ノ賠償ヲ負擔ス

第七十條 會社ニ於ケル自己ノ權利ヲ賣渡シタル者ハ其權利ノ存立及

ヒ其賣買契約ニ示セル權利ノ廣狹ニ付テノミ擔保ノ責ニ任ス
會社ノ從前ノ營業ヨリ生シ既ニ清算濟ト爲リタル賣主ノ權利及ヒ義務ハ買主ニ利害ノ關係ヲ及ホスコト無シ

賣主ト會社トノ間ニ於ケル特別ノ計算ニ付テモ亦同シ

第七十一條 上ノ場合ニ於テ無擔保ニテ賣買スルトノ契約ヲ爲シタルトキハ雖モ買主カ追奪ヲ受ケタルニ於テハ賣主ハ代金ヲ返還スル責ニ任ス但買主カ賣買ノ時ニ於テ追奪ノ危險アルコトヲ了知シタルトキハ賣主ハ此返還ヲ負擔セス

賣主ハ買主ノ危險負擔ニテ賣買スルトノ契約ヲ爲シタルコトノミニ因リテ亦代金ヲ返還スル責ヲ免カル

然レトモ如何ナル場合ニ於テモ又如何ナル約款ニ依ルモ賣主ハ賣買ノ前後ヲ問ハス第三者ニ授與シタル權利ヨリ生スル妨礙又ハ追奪ノ擔保ヲ免カルコトヲ得ス

第七十二條 賣主カ擔保ノ義務ノ全部又ハ一部ヲ買主ノ惡意ノ故ヲ以テ免カレント主張スルトキハ賣渡物ニ關スル行爲カ第三者ノ利益ノ爲メニ登記シ有リト雖モ其登記ノミニテハ買主ノ惡意ヲ證スルニ足ラス尙ホ賣主ハ登記官吏ノ認證書ニ依リ又ハ其他ノ方法ヲ以テ買主

カ賣買ノ前ニ此行爲ヲ了知シタル直接ノ證據ヲ供スルコトヲ要ス
第七十三條 財産編第三百九十九條及ヒ第四百條ハ擔保ノ爲メニスル賣主ノ召喚ニ付キ及ヒ追奪ヲ受ケタル買主カ擔保人ヲ訴訟ニ參加セシメサル爲メニ生スル失權ニ付キ之ヲ適用ス

第三款 買主ノ義務

第七十四條 買主ハ合意シタル時期ニ於テ代金ヲ辨濟スルコトヲ要ス又其時期ニ付キ特別ノ合意ナキトキハ引渡ノ時ニ於テ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス

引渡ヲ日後ニ延フルノ合意アルトキハ代金ノ辨濟ヲモ暗ニ日後ニ延フルモノト推定ス

賣主カ引渡ノ爲メ恩惠期限ヲ裁判所ヨリ得タルトキハ買主ハ代金辨濟ノ爲メ同一ノ期間ヲ享有ス

代金辨濟ノ恩惠期限ハ引渡ノ爲メ賣主亦之ヲ享有ス

第七十五條 代金辨濟ノ場所ヲ合意セサルトキハ其辨濟ハ有體動産ニ付テハ引渡ヲ爲ス場所不動産債權爭ニ係ル權利又ハ會社ニ於ケル權利ニ付テハ證書ノ交付ヲ爲ス場所ニ於テ之ヲ爲ス
引渡ノ前又ハ後ニ代金ノ辨濟ヲ要求スルコトヲ得ヘキトキハ其辨濟

ハ買主ノ住所ニ於テ之ヲ爲ス

第七十六條 買受物カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ定期ノ利益ヲ生スルトキハ買主ハ引渡ノ時ヨリ當然代金ノ利息ヲ負擔ス
反對ノ場合ニ於テハ利息ハ特別ノ合意又ハ辨濟ノ催告ニ依ルニ非サレハ之ヲ負擔セス

第七十七條 買主カ物上訴權ニ因リテ妨碍ヲ受ケ又ハ妨碍ヲ受クル恐アル正當ノ事由ヲ有スルトキハ賣主カ其妨碍若クハ危險ヲ止マシムルマテ又ハ追奪アリタルニ於テハ代金ヲ返還スル爲メノ保證人ヲ立ツルマテ買主ハ此訴權ノ輕重ニ從ヒテ代金ノ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ拒ムコトヲ得

此規定ハ買主カ買受物ノ他人ニ屬スルヲ直接ニ證スルコトヲ待ルトキハ賣買無効ノ判決ヲ求メ及ヒ擔保ノ訴權ヲ行フコトヲ妨ケス

第七十八條 買受ケタル不動産ニ付キ抵當權又ハ先取特權ノ登記アルトキハ買主ハ滌除ノ方式ヲ行フマル後ニ非サレハ代金ヲ辨濟スル責ナシ但法律上ノ期間ニ於テ滌除ヲ行フコトヲ要ス

第七十九條 前二條ノ場合ニ於テ賣主ハ其先取特權及ヒ第三者ニ對スル解除ノ權利ヲ保存スル爲メノ公示ヲ爲サ、リシトキハ當事者雙方

ノ名ヲ以テ買主チシテ猶豫ナク代金ヲ供託セシムルコトヲ得但其代金ハ當事者雙方ノ承諾又ハ裁判所ノ判決ニ依リ且諸手續ノ終了後ニ非サレハ之ヲ引取ルコトヲ得ス

第八十條 動產物ノ買主カ代金ヲ辨濟シタルト否トチ問ハス引渡ヲ受クル權利ヲ有スル時ニ於テ其引渡ヲ受クルコトヲ拒ミタルトキハ賣主ハ財産編第四百七十四條乃至第四百七十八條ニ從ヒテ其賣渡物ノ提供及ヒ供託ヲ爲スコトヲ得

然レトモ日用品其他速ニ破損ス可キ物ニ付テハ賣主ハ買主ノ爲メ之ヲ轉賣スルコトヲ得ルトキハ其轉賣ヲ爲スコトヲ要ス

第三節 賣買ノ解除及ヒ銷除

第一款 義務ノ不履行ニ因ル解除

第八十一條 當事者ノ一方カ上ニ定メタル義務其他特ニ負擔スル義務ノ全部若クハ一分ノ履行ヲ缺キタルトキハ他ノ一方ハ財産編第四百二十一條乃至第四百二十四條ニ從ヒ裁判上ニテ契約ノ解除ヲ請求シ且損害アレハ其賠償ヲ要求スルコトヲ得

當事者カ解除ヲ明約シタルトキハ裁判所ハ恩惠期限ヲ許與シテ其解除ヲ延ヘシムルコトヲ得ス然レトモ此解除ハ履行ヲ缺キタル當事者

ノ遲滞ニ付シタルモ猶ホ履行セサルトキニ非サレハ當然其效力ヲ生
セス

第八十二條 買主カ辨濟其他ノ義務ヲ缺キタル爲メノ解除ハ買主ノ猶
ホ代金ノ全部若クハ一分ノ負擔又ハ他ノ負擔ヲ明示シタル賣買證書
ニ依リ登記ヲ爲シタルニ非サレハ買主ヨリ轉得者ニ對シテ之ヲ請求
スルコトヲ得ス但債權擔保編第八十二條ノ規定ヲ妨ケス

第八十三條 辨濟期限ノ定アル動産ノ賣買ニ於テ其引渡ヲ實行シタル
トキハ辨濟ヲ缺キタル爲メノ賣主ノ解除ノ權利ハ買主ノ他ノ債權者
ヲ害シテ之ヲ行フコトヲ得ス

辨濟期限ノ定ナキ賣買ニ付テハ賣主ハ引渡ヨリ八日內ニ賣買ヲ解除
スルコトヲ得然レトモ善意ナル第三者ノ既得ノ物權ヲ害スルコトヲ
得ス

第二款 受戻權能ノ行使

第八十四條 賣主ハ賣買證書ニ明記シタル受戻ノ約款ニ依リ買主ノ地
辨シタル代金ト費用ノ部分トヲ指定ノ期間ニ買主ニ返還スルニ於テ
ハ其賣買ヲ解除ス可キコトヲ要約スルヲ得

右期間ハ不動産ニ付テハ五ヶ年、動産ニ付テハ二ヶ年ヲ超ユルコト

ヲ得ス此ヨリ長キ時期ノ要約ハ當然之ヲ此期限ニ短縮ス

一旦期間ヲ定メタル以上ハ右制限內ト雖モ之ヲ伸長スルコトヲ得ス
然レトモ其伸長ハ之ヲ再賣買ノ豫約ト看做スコトヲ得此場合ニ於テ
ハ第二十六條及ヒ第二十七條ノ規定ニ從フ

賣買後ニ於テ爲シ又ハ別證書ヲ以テ爲シタル受戻ノ要約ニ付テモ亦
同シ

賣買ハ代金ノ半額以上ノ辨濟ノ爲メ期限ヲ與ヘ且其期限カ受戻ノ爲
メ定メタル期間ノ半以上ニ及ヘルトキハ有效ニ受戻ノ權能ヲ要約ス
ルコトヲ得ス

第八十五條 不動産ニ付テハ法律ノ定メタル期間ニ其定メタル條件ヲ
以テ爲シタル受戻權能ノ行使ハ買主カ第三者ニ授與シ又ハ第三者カ
買主ノ權ニ基キテ取得シタル物權ヲ排除シテ其不動産ヲ賣主ニ復セ
シム但賃借權ニシテ殘期ノ一ヶ年ヲ超エサルモノハ此限ニ在ラス
動産物ニ付テハ受戻ノ權能ハ善意ニテ其動産物上ニ物權ヲ取得シタ
ル第三者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス

第八十六條 賣主ノ債權者ハ賣主ニ代ハリテ受戻ノ權能ヲ行フコトヲ
得

然レトモ買主ハ右債權者カ豫メ其債務者ノ無資力ヲ證シ且財産編第
三百三十九條ニ從ヒテ受戻權能ノ行使ノ爲メ裁判上ニテ賣主ニ代位
スルヲ要求スルコトヲ得

買主ハ同一ノ場合ニ於テ鑑定人ノ評價シタル買受物ノ現時ノ價額ト
第八十八條ニ從ヒテ賣主ヨリ已レニ返還ス可キ金額トノ差額ニ達ス
ルマテ賣主ノ債務ヲ辨濟シテ債權者ノ訴ヲ止ムルコトヲ得

第八十七條 賣主カ受戻ノ約款ニテ賣渡シタル物ヲ日後抵當トシ又ハ
之ニ其他ノ物權ヲ負擔セシメタルトキハ其權利ノ效力ハ賣主又ハ其
債權者ノ受戻權能ヲ行ヒタル後ニ非サレハ生セス
賣主カ受戻ニ服スル物ノ所有權ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ自己ノ
名ヲ以テ受戻ヲ爲スコトヲ得然レトモ讓渡前ニ賣主カ他人ニ對シテ
承諾シ且登記ヲ經タル此他ノ物權ヲ妨碍スルコトヲ得ス但其擔保訴
權ヲ失フコト無シ

第八十八條 賣主カ受戻ノ權能ヲ行ハントスルトキハ指定ノ期間ニ賣
買代價及ヒ契約費用ノ外尙ホ物ノ保存費用ヲ買主ニ辨償スルコトヲ
要ス

買主カ右金額ヲ受取ルコトヲ拒ミタルトキハ賣主ハ猶豫ナク之ヲ供

託スルコトヲ要ス

賣主ハ物ノ改良費用ヲ辨償スルコトヲ要ス然レトモ裁判所ハ此辨償
ニ付テハ賣主ニ猶豫ヲ許スコトヲ得

買主ハ右金額ノ皆濟ヲ受クルマテ其物ノ上ニ留置權ヲ有ス

第八十九條 不動産ノ共有者ノ一人カ其不分ノ部分ヲ受戻約款ニテ賣
リタル場合ニ於テ買主カ他ノ共有者ニ促カサレタル競賣ニ因リテ競
落人ト爲リタルトキハ賣主ハ前條ニ掲ケタル金額ニ競賣ノ代金ヲ加
ヘテ其不動産ノ全部ニ對スルニ非サレハ受戻ヲ爲スコトヲ得ス又買
主ハ之ニ故障ヲ述フルコトヲ得ス

買主カ自ラ競賣ヲ促シタルトキハ賣主ハ其賣渡シタル部分ニ付テノ
受戻ヲ爲スコトヲ得又買主ハ全部ノ受戻ニ故障ヲ述フルコトヲ得

第九十條 競レヨリ競賣ヲ促カシタル場合ニ於テ賣主ハ競賣ニ召喚セラレサリ
一人又ハ外人ノ競落シタル場合ニ於テ賣主ハ競賣ニ召喚セラレサリ
シトキハ其賣渡シタル部分ニ付テノ競落人ニ對シテ受戻ノ權利ヲ
有シ之ニ反スルトキハ其權利ヲ失フ

第九十一條 現物ヲ以テ分割シタルトキ賣主カ其分割ニ召喚セラレタ
ルニ於テハ賣主ハ競レヨリ分割ヲ促カシタルヲ問ハス他ノ所有者ニ

歸シタル部分ニ付キ何等ノ要求ヲモ爲スコトヲ得スシテ買主ニ歸シタル部分ノミチ受戻スコトヲ得但買主ノ供與シ又ハ受取りタル補足代金ヲ賣主買主ノ間互ニ計算スルコトヲ妨ケス
賣主カ分割ニ召喚セラレザリシトキハ賣主ハ選擇ヲ以テ或ハ其分割ヲ認諾シ買主ニ對シテ前項ニ示シタル權利ヲ行ヒ或ハ第八十八條ニ掲ケタル金額ヲ買主ニ辨償シ共有者ニ對シテ再分割ヲ促カスコトヲ得

第九十二條 不分物ノ共有者カ一箇ノ契約及ヒ唯一ノ代價ニテ其物ヲ受戻ノ約款ヲ以テ賣渡シタルトキハ買主ハ一分ニ付キ受戻ヲ受クル責ナシ

又買主ハ賣主ノ一人ヨリ爲ス全部ノ受戻ニ故障ヲ述フルコトヲ得之ニ反シテ數人ノ共有者カ各別ノ契約ヲ以テ各自ノ部分ヲ賣渡シタルトキハ各別ニ受戻ヲ爲スコトヲ得但第八十九條及ヒ第九十一條ノ規定ハ之ヲ此場合ニ適用スルコトヲ得

第九十三條 數人ノ買主カ一箇ノ契約又ハ各別ノ契約ヲ以テ一箇ノ財產ヲ受戻ノ約款ニテ取得シタルトキ賣主カ買主ノ間ニ分割ヲ爲サル前ニ受戻ヲ爲サント欲スルニ於テハ賣主ハ總買主ニ對シ又ハ一人

若クハ數人ノ買主ニ對シテ其各自ノ部分ニ付キ受戻ヲ爲スコトヲ得既ニ分割ヲ爲シタルトキハ賣主ハ各買主ニ對シ分割又ハ競賣ニ因リテ其各自ニ歸シタル部分ノミニ非キハ受戻ヲ爲スコトヲ得ス

第三款 隠レタル瑕疵ニ因ル賣買廢却訴權

第九十四條 動産ト不動産トヲ問ハス賣渡物ニ賣買ノ當時ニ於テ不表見ノ瑕疵アリテ買主之ヲ知ラス又修補スルコトヲ得ス且其瑕疵カ物ヲシテ其性質上若クハ合意上ノ用方ニ不適當ナラシメ又ハ買主其瑕疵ヲ知レハ初ヨリ買受ケサル可キ程ニ物ノ使用ヲ減セシムルトキハ買主ハ其賣買ノ廢却ヲ請求スルコトヲ得

此場合ニ於テハ買主ハ辨償代金ト契約費用トヲ取戻シ其代用ノ利息ハ請求ノ日ニ至ルマテノ物ノ收益又ハ使用ト之ヲ相殺ス

第九十五條 買主カ隠レタル瑕疵ノ賣買廢却訴權ヲ行フ可キ程ニ重大ナルヲ證フルコト能ハス又ハ物ヲ保有スルコトヲ欲スルトキハ買主ハ便益ヲ失フ割合ニ應シテ代價ノ減少ヲ請求スルコトヲ得

第九十六條 買主カ賣主ニ對シ賣買ノ廢却又ハ代價ノ減少ヲ得タルニ拘ハラズ賣主カ初ヨリ其瑕疵ヲ知リタルトキハ買主ハ尙ホ其受ケタル損害又ハ失ヒタル利益ニ付テノ賠償ヲ要求スルコトヲ得

第九十七條 隠レタル瑕疵ヲ擔保セストノ要約ハ賣主チシテ初ヨリ自
 ラ了知シ且詐欺ヲ以テ隠秘シタル瑕疵ニ付テノ責任ヲ免カレシメス
 第九十八條 賣買ノ當時ニ於テ物ニ瑕疵アリタルコト其瑕疵ヨリ買主
 ニ損害ヲ生シタルコト及ヒ買主又ハ賣主カ其瑕疵ヲ了知シタルコト
 ハ人證、鑑定其他ノ法律上ノ證據方法ヲ以テ之ヲ證ス
 第九十九條 賣買廢却、代價減少及ヒ損害賠償ノ訴ハ左ノ期間ニ於テ
 之ヲ起スコトヲ要ス

第一 不動産ニ付テハ六ヶ月

第二 動産ニ付テハ三ヶ月

第三 動物ニ付テハ一ヶ月

右期間ハ引渡ノ時ヨリ之ヲ起算ス
 然レトモ此期間ハ買主カ瑕疵ヲ知レル證據アリタル日ヨリ其半ニ短
 縮ス但其殘期カ此半ヲ超ユルトキニ限ル
 買主カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ右期間ニ隠レタル瑕疵ヲ覺知
 スル能ハサリシコトヲ證スルトキハ其期間ノ滿了後ニ於テモ訴ヲ爲
 スコトヲ得此場合ニ於テハ意外ノ事又ハ不可抗力ノ止ミタル時ヨリ
 通常期間ノ三分一ヲ以テ新期間ト爲ス

第一百條 隠レタル瑕疵ニ基キタル代價減少ノ訴權ハ買主カ買受物ヲ無
 償又ハ有償ニテ讓渡シタルモ之ヲ失ハス但有償ノ讓渡ノ場合ニ於テ
 ハ其瑕疵ノ爲メ買主カ損失ヲ受ケタルトキ又ハ讓受人ヨリ訴ヘラレ
 若クハ訴ヘラレハノ恐アルトキニ限ル

第一百一條 賣渡物カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ全部又ハ半以上滅
 失シタルトキハ賣買廢却訴權ヲ行フコトヲ得ス
 滅失部分ノ多少ニ拘ハラズ代價減少ノ訴權ハ殘存部分ノ割合ニ應シ
 テ存立ス

如何ナル場合ニ於テモ賣主ハ隠レタル瑕疵ヨリ生スル全部又ハ一分
 ノ滅失ノ責ニ任ス

第一百二條 合式ノ強制賣却ハ賣買廢却訴權ヲモ代價減少訴權ヲモ生セ

第一百三條 或ル動物又ハ日用品ノ隠レタル瑕疵ニ付テハ特別法ヲ以テ
 其賣買上ノ效果ヲ定ムルニ至ルマテ本法ノ規定ヲ適用ス

第四節 不分物ノ競賣

第一百四條 不分財產ノ分割ヲ爲スニ當リ共有者ノ一人アリトモ現物ノ
 分割ヲ拒ム者アルトキハ其財產ノ協議賣却又ハ競賣ヲ爲シ各共有者

ノ權利ノ限度ニ應シテ其代金ヲ配當ス

第百五條 共有者カ其一人若クハ第三者ニ協議賣却ヲ爲シ又ハ相互ノ間ニ競賣ヲ爲スニ付キ一致ヲ得ル能ハサルトキ又ハ共有者中ニ失踪者若クハ無能力者アルトキハ裁判所又ハ裁判所ノ指定シタル公吏ノ前ニ於テ下分物ノ競賣ヲ爲ス但民事訴訟法ニ定メタル競賣方式ニ從フコトヲ要ス

共同競賣人ノ各自ハ常ニ競賣ニ外人ノ參與ヲ許スヲ要求スルコトヲ得共有者ノ一人カ失踪シ又ハ無能力ナルトキハ外人ノ參與ハ當然且必要ナリトス

第百六條 共有者ノ一人カ不分物ノ全部ヲ取得シタルトキハ其競賣又ハ協議賣却ハ共有者間ノ分割ノ行爲ト看做サレ會社ノ分割ニ關シ規定シタル效力ヲ生ス

第三者ニ競落又ハ協議賣却ヲ爲シタルトキハ其賣買ハ第三者ト原共有者トノ間ニ於テ本章ニ規定シタル賣買ノ效力ヲ生ス

第四章 交換

第百七條 交換ハ當時者ノ一方カ或ル物ノ所有權其他ノ權利ヲ他ノ一方ヨリ取得シ又ハ之ヲシテ諾約セシメ其對價トシテ或ル物ノ所有權

其他ノ權利ヲ他ノ一方ニ移轉シ又ハ移轉スルコトヲ諾約スル契約ナリ

相互ノ權利ノ價額カ均一ナラサルトキハ金錢其他ノ物ノ補足ヲ以テ之ヲ均一ニス

金錢ノ補足カ交換ニ供シタル物ノ價額ヲ超ユルトキハ其契約ハ之ヲ賣買ト看做ス

第百八條 當事者ハ交換ニ供シ又ハ諾約シタル物又ハ權利ニ對スル妨礙及ヒ追奪ノ擔保ヲ相互ニ負擔ス

當事者ノ一方カ他ノ一方ノ諾約シタル物又ハ權利ヲ取得スルコトヲ得ザリシトキハ其選擇ヲ以テ或ハ金錢ノ對價ヲ要求スルコトヲ得或ハ契約ノ解除ヲ請求シテ自己ノ供與シタルモノヲ取戻スコトヲ得但孰レノ場合ニ於テモ損害アレハ其賠償ヲ受ク

右解除ノ權利ハ取戻ニ服スル不動産ニ付キ權利ヲ取得シタル第三者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス但財産編第三百五十二條第一項ニ從ヒテ請求ノ公示前ニ其第三者ノ權原ノ登記アリタルトキニ限ル

第百九條 賣買ノ規則ハ左ノ例外ヲ以テ交換ニ之ヲ適用ス
交換ハ配偶者ノ間ニ之ヲ爲スコトヲ許ス但交換物ノ價額ノ差カ調整

ノ利益ヲ成ストキハ贈與ヲ禁制シ又ハ之ヲ制限スル規則ニ從テ
當事者ノ一方又ハ雙方カ指定ノ期間ニ於テ任意ニ交換ヲ解除スルコ
トヲ要約シタルトキハ第二十七條ニ依リ賣買ノ豫約ヲ以テ第三者ニ
對抗スルコトヲ得ル條件ニ從フニ非サレハ其解除ヲ以テ第三者ニ對
抗スルコトヲ得ス

第五章 和解

第一百十條 和解ハ當事者カ交互ノ讓合又ハ出捐ヲ爲シテ既ニ生シタル
爭ヲ落著セシメ又ハ生スルコト有ル可キ爭ヲ豫防スル契約ナリ
和解ノ成立、有效、效力及ヒ證據ハ下ノ規定ヲ除ク外合意ニ關スル一
般ノ規則ニ從フ

第一百十一條 和解ハ法律ノ錯誤ノ爲メ之ヲ銷除スルコトヲ得ス但其錯
誤カ相手方ノ詐欺ニ起因スルトキハ此限ニ在ラス

第一百十二條 和解ハ偽造ノ書類又ハ無効ノ行爲ニ依リ承諾シタルコト
ヲ理由トシテ之ヲ銷除スルコトヲ得ス但此限ニ在ラス 申立ヲ爲スヲ得ヘキ
當事者ニ於テ其書類ノ偽造ヲ知ラス又ハ其行爲ヲ法律ニ於テ無効ナ
ラシムル所ノ事實ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ス

第一百十三條 定マリタル爭ニ付キ爲シタル和解ハ新ニ發見シタル證書

ニ因リテ當事者ノ一方カ爭ノ目的ニ付キ何等ノ權利ヲモ有セス又ハ
他ノ一方カ其目的ニ付キ完全且爭フ可カラサル權利ヲ有スルコトノ
顯ハレタルトキハ事實ノ錯誤ノ爲メ亦之ヲ銷除スルコトヲ得

確定シタル判決又ハ攻撃スルヲ得サル契約ニ因リ既ニ爭ノ落著シタ
ル場合ニ於テ其判決又ハ契約ヲ知ラスシテ和解ヲ爲シタルトキモ亦
同シ

然レトモ和解カ從前ノ原因ヨリ生スルコト有ル可キ總テノ爭ヲ落著
セシメ又ハ之ヲ豫防スルヲ目的トシタルトキハ當事者ノ一方ノ利益
タル確定證書ノ發見ハ其和解ノ銷除ヲ生セス但其證書カ相手方ノ所
爲ニ因リテ控留セラレタルトキハ此限ニ在ラス

第一百十四條 有效ノ和解ハ當事者ノ相互ニ追認シタル權利又ハ利益ニ
シテ既ニ生シ又ハ豫見シタル爭ノ目的タルモノニ付テハ當事者間ニ
在テハ確定判決ノ權利ト均シキ認定ノ效力ヲ生ス此場合ニ於テハ其
權利又ハ利益ハ從前ノ原因ニ由リテ保持シタルモノト看做ス

但當事者雙方ニ更改ヲ爲ス意思アリシトキハ此限ニ在ラス
之ニ反シテ相互ニ供與シ又ハ賭約シタル權利又ハ利益ノ全部若クハ
一分ニシテ爭ノ目的ヲサリシモノニ付テハ和解ハ物權又ハ人權ヲ

生シ之ヲ移轉シ若クハ之ヲ消滅セシムル有價合意ノ規則ニ從フ

四四

第六章 會社

第一節 會社ノ性質及ヒ設立

第百十五條 會社ハ數人カ各自ニ配當ス可キ利益ヲ收ムル目的ニテ或ル物ヲ共通シテ利用スル爲メ又ハ或ル事業ヲ成シ若クハ或ル職業ヲ營ム爲メ各社員カ定マリタル出資ヲ爲シ又ハ之ヲ諾約スル契約ナリ

第百十六條 商事會社ニ特別ナル規則ハ商法ヲ以テ之ヲ定ム

第百十七條 社員ノ出資ハ或ハ動産又ハ不動産ノ所有權若クハ收益權或ハ金錢又ハ技術、勞力ヲ以テスルコトヲ得

出資ニ不均一ナルコトヲ得

第百十八條 民事會社ハ當事者ノ意思ニ因リテ之ヲ法人ト爲スコトヲ得

此場合ニ於テハ會社ニ社名ヲ付シ且其契約ハ商事會社ノ公示ノ爲メ法律ニ規定シタル方式ニ從ヒテ之ヲ公示スルコトヲ要ス但社名ヲ付シ又ハ公示ヲ爲シタルトキハ其會社ヲ法人ト爲ス意思アリト推定ス
第百十九條 合意ノ一般ノ規則殊ニ當事者ノ承諾、能力、合意ノ目的、原因及ヒ證據ニ關スルモノハ會社ニ之ヲ適用ス

第百二十條 會社ハ其目的ノ商事ニ在ラサルモ資本ヲ株式ニ分ツトキハ商法ノ規定ニ從フ

第二節 社員ノ權利及ヒ義務

第百二十一條 會社ハ契約ノ日ヨリ開始ス但明示又ハ默示ニテ他ノ期限ヲ定メ又ハ條件ヲ附シタルトキハ此限ニ在ラス

各社員ハ會社ノ開始スル時ニ於テ其諾約シタル出資ヲ差入ル、コトヲ要ス之ヲ差入レサルトキハ其社員ハ出資ニ生スル果實及ヒ利息ヲ當然負擔ス且遲延ノ爲メ損害ヲ生シタルトキハ出資ノ金錢ヲ以テスルトキト雖モ其賠償ヲ負擔ス

第百二十二條 技術又ハ勞力ノ出資ヲ諾約シタル社員カ其諾約ヲ缺キタルトキハ其社員ハ他ノ社員ノ選擇ニ從ヒ會社ニ對シテ或ハ其義務ノ履行ヲ缺キタル當時ヨリ會社ノ受ケタル損害ヲ賠償シ或ハ其勞力ヲ會社外ニ用ヰテ得タル利益ヲ分與スル責ニ任ス

第百二十三條 動産ト不動産トヲ問ハス特定物ノ所有權ヲ出資ト爲フコトヲ諾約シタル社員ハ會社ニ對シ賣主ト同シク其物ノ妨碍、追奪又ハ面積、數量ノ不足及ヒ隠レタル瑕疵ニ付キ擔保ノ責ニ任ス
又社員出物ノ收益權ノシテ出資ト爲スコトヲ諾約シタルトキハ賣主

四五

人十同シク擔保ノ責ニ任ス

第二百二十四條 會社契約ヲ以テ社員中ヨリ一人又ハ數人ノ業務擔當人ヲ選任シタルトキハ其各員ハ受任ノ權限ヲ除ユルコトヲ得ス
權限ノ定マラサル業務擔當人ハ共同又ハ各別ニテ通常ノ管理行為ヲ爲スニ止マル

又業務擔當人ハ會社ノ目的中ノ重要ナル行為ニ付テハ共同ニテ之ヲ爲スコトヲ得但異議アル場合ニ於テハ其行為ヲ中止シ總社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第二百二十五條 會社契約ヲ以テ業務擔當人ヲ選任セサル場合ニ於テ總社員ノ一致ニテ之ヲ選任セサル限ハ社員ノ各自ハ前條ニ規定シタル行為ヲ其條件ニ從ヒテ爲ス權ヲ有ス

第二百二十六條 會社契約ヲ以テ業務擔當人ニ選任セラレタル社員ハ正當ノ原因アルトキ又ハ其承諾及ヒ總社員ノ同意ヲ得タルトキニ非ズレハ委任ノ期限内ニ之ヲ解任スルコトヲ得ス
會社設立以後ノ契約ヲ以テ選任シタル業務擔當人ハ之ヲ選任シタルト同一ノ方法ヲ以テ其承諾ヲ要セスシテ之ヲ解任スルコトヲ得

第二百二十七條 業務擔當人カ選任シタル方法ノ如何ヲ問ハス其中ノ一人又ハ數人ノ死亡、辭任又ハ解任アリテ此等ノ事件ノ爲メニ會社ノ解散セザルトキハ總社員ノ過半数ヲ以テ其補闕者ヲ選任ス

第二百二十八條 右ノ外會社定款ノ執行ニ關スル總テノ處分ハ亦社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ定ム
定款ニ反スル行為又ハ定款外ノ行為ニ付テハ總社員ノ一致ヲ得ルヲ必要トス

本條ハ定款又ハ法律ノ之ニ反スル規定ヲ妨ケス

第二百二十九條 第三者カ會社ト業務擔當社員ノ一人トニ對シテ同性質ノ債務ヲ負擔シタルトキ其第三者カ二箇ノ債務ヲ消滅セシムルニ足ラサル金錢又ハ有價物ヲ此社員ニ辨濟スルニ於テハ其社員ハ會社ノ債權額ト自己ノ債權額トノ割合ニ應スルニ非サレハ自己ノ債權ノ救濟ニ之ヲ充當スルコトヲ得ス但債務者ノ爲シタル充當ヲ變更スルコトヲ得ス

然レトモ債務者カ正當ノ利益ナクシテ社員ノ債權額ノ全部ニ充當シタルトキハ社員ハ其辨濟ノ額内ヨリ右ノ割合ニ應スル部分ヲ會社ニ分與スル責ニ任ス

債務者又ハ社員カ有效ナル充當ヲ爲サハルトキハ財産編第四百七十

分與スル責ニ任ス

二條ニ從ヒテ法律上ハ充當ノ規則ヲ適用ス

第三百十條 業務擔當人タルト否トヲ問ハス社員ニシテ會社ノ債務者
ヨリ會社ニ對スル債務ノ一分ヲ受取リタル者ハ場合ノ如何ニ拘ハラ
ズ會社ニ其利益ヲ得セシムルコトヲ要ス但自己ノ持分トシテ受取證
書ヲ與ヘタルトキト雖モ亦同シ

第三百十一條 業務擔當人タルト否トヲ問ハス各社員ハ其過失又ハ
怠ニ因リテ會社ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

此損害ハ社員ハ會社營業ノ他ノ事件ニ付キテ會社ニ得セシメタル利
益ト相殺スルコトヲ得ス但其事件ノ互ニ連絡シタルトキハ此限ニ在
ラズ

第三百十二條 會社契約ヲ以テ業務擔當人ヲ選任セサルカ爲メニ業務
ヲ取扱フ社員ハ自己ノ業務ニ於ケルト同一ノ注意ヲ加ヘサルトキニ
非ラザレハ過失ノ責ニ任セス

第三百十三條 各社員ハ會社資本中ニ於テ使用スルコトヲ得ル金額ナ
キトキハ會社ノ所屬物ニ關スル必要及ヒ保持ノ費用ヲ自己ノ權利ノ
都合ニ應ジテ分擔スル責ニ任ス

第三百十四條 業務擔當人タルト否トヲ問ハス各社員ハ會社ヲシテ自

己ノ利益外ニ會社ノ爲メ有益ニ立替ヘタル金額ヲ返還セシメ又ハ會
社ノ利益ノ爲メ善意ニテ負擔シタル義務ヲ認諾セシメ又ハ會社ノ營
業ノ爲メ自己ノ財産ニ受テタル避ケルヲ得サル損害ヲ賠償セシムル
コトヲ得

第三百十五條 會社營業ノ爲メ社員ノ立替ヘタル金額ハ其使用ノ日ヨ
リ當然利息ヲ生ス

之ニ反シテ各社員ハ自己ノ營業ノ爲メ會社資本中ヨリ引取シタル金
額ニ付テハ當然會社ニ對シテ其利息ヲ負擔シ尙ホ損害アルトキハ賠
償ノ責ニ任ス

第三百十六條 社員ハ會社解散ノ際ニ現在スル資本ニ於ケル各自ノ持
分ヲ會社契約又ハ其後ノ契約ヲ以テ隨意ニ定ムルコトヲ得但第三百
十八條ニ掲ケタル二箇ノ場合ハ此限ニ在ラス

第三百十七條 社員ハ其一人又ハ數人ノ持分カ利益及ヒ損失ニ於テ固
一ナラサルヲ合意スルコトヲ得

然レトモ利益ノヨリ豫見シテ右ノ持分ヲ定メタルトキハ損失ニ付テ
モ同一ノ定方ヲ合意シタリトノ推定ヲ受ク
如何ナル場合ニ於テモ受ケタル損失ヲ控除シ會社ノ貸方トシテ殘ル

所ノモノニ非サレハ配當ス可キ利益ト看做サス又右貸方ヲ竭シタル後借方トシテ殘ル所ノモノニ非サレハ損失ト看做サス然レトモ會社ノ存立中ニ詐害ナクシテ既ニ爲シタル利益又ハ損失ノ一分ノ配當ハ之ヲ變更セス

第三百三十八條 會社資本ノ全部又ハ會社ノ得タル利益ノ全部ヲ社員中ノ一人ニ歸ス可キ約款ハ無効ナリ

技術又ハ勞力ヲ出資ト爲シタル社員ニ非ラサル社員ニ全ク損失ノ負擔ヲ免カレシムヘキ約款モ亦同シ

會社契約ニ右ノ約款ヲ附記シタルトキハ其約款ハ契約ヲシテ全ク無効ナラシム又日後ニ右ノ約款ヲ追加シタルトキハ其約款ハ契約ノ存立ヲ妨ケスシテ會社ノ清算ハ第四百四十一條ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第三百三十九條 社員ハ自己ノ選任セシ又ハ選任ス可キ社員又ハ外人タル一人若クハ數人ノ仲裁人ヲシテ會社解散ノ際各自ノ持分ヲ定メシムルコトヲ會社契約又ハ其後ノ契約ヲ以テ合意スルコトヲ得

仲裁人ノ爲シタル定方ハ仲裁人カ仲裁ノ適法ノ方式又ハ仲裁契約ヲ以テ授ケラレタル條件ヲ履行セサルカ又ハ明カニ公平ヲ失シタルトキニ非サレハ之ヲ改變スルコトヲ得ス

右定方ノ無効ノ請求ハ此ニ因リテ害ヲ受ケタリト主張スル社員ニ在テハ其社員カ定方ノ執行ニ加ハリタルトキ又ハ其定方ヲ知りタルヨリ三ヶ月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百十條 會社契約ヲ以テ持分ノ定方ヲ仲裁人ニ委任ス可キコトヲ定メタル場合ニ於テ少ナクトモ社員ノ過半数カ仲裁人ヲ選任スルコトニ一致セサルトキハ裁判所ニ於テ其選任ヲ爲ス

選任セラレタル仲裁人カ定方ヲ爲スコトヲ欲セス又ハ之ヲ爲スコト能ハサルニ當リ社員カ其改選ニ付キ一致セサルトキモ亦同シ

第四百十一條 社員自身ニテ若クハ仲裁人ヲ以テ持分ノ定方ヲ爲サス又ハ仲裁人ノ定方ノ無効ト爲リタルトキハ會社資本及ヒ利益又ハ損失ハ社員ノ出資額ノ割合ニ應シテ之ヲ配當ス

社員ノ出資ト爲シタル技術又ハ勞力ノ評價ナキトキハ裁判所ハ各般ノ事情ヲ斟酌シテ其出資ノ價額ヲ定ム

技術又ハ勞力ト財產トヲ出資ト爲シタル社員ハ前項ニ定メタル價額外尙ホ其財產ノ價額ニ從ヒテ計算シタル持分ノ配當ヲ受ク

第四百十二條 各社員ハ自己ノ持分ニ第三者ヲ組合サシムルコトヲ得又其持分ヲ賣入シ又ハ之ヲ讓渡スコトヲ得然レトモ此等ノ行爲ハ之

第五百四十二條 各社員ハ自己ノ持分ニ第三者ヲ組合サシムルコトヲ得又其持分ヲ賣入シ又ハ之ヲ讓渡スコトヲ得然レトモ此等ノ行爲ハ之

第五百四十二條 各社員ハ自己ノ持分ニ第三者ヲ組合サシムルコトヲ得又其持分ヲ賣入シ又ハ之ヲ讓渡スコトヲ得然レトモ此等ノ行爲ハ之

第五百四十二條 各社員ハ自己ノ持分ニ第三者ヲ組合サシムルコトヲ得又其持分ヲ賣入シ又ハ之ヲ讓渡スコトヲ得然レトモ此等ノ行爲ハ之

第五百四十二條 各社員ハ自己ノ持分ニ第三者ヲ組合サシムルコトヲ得又其持分ヲ賣入シ又ハ之ヲ讓渡スコトヲ得然レトモ此等ノ行爲ハ之

ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ズ但會社契約ヲ以テ社員ニ此權利ヲ
認許シタルトキハ此限ニ在ラス此場合ニ於テハ會社カ社員ノ讓渡サ
ント欲スル持分ヲ消却スル爲メ先買權ヲ留保シタルトキハ自己ノ持
分ヲ讓渡サントスル社員ハ會社カ其先買權ヲ行フカ拋棄スルカニ付
キ之ヲ遲滯ニ付スルコトヲ要ス

第四百十三條 業務擔當人カ會社ノ名ヲ以テ又ハ會社ノ營業ノ爲メ有
效ニ負擔シタル義務ハ會社カ法人ヲ成セルトキハ各社員ノノ一身
上ノ債權者ニ先チ會社資本ヲ以テ之ヲ擔保ス

會社資本ノ不十分ナル場合又ハ訴追債權者ニ其資本ヲ示サ、ル場合
ニ於テハ總社員ハ連帶シテ會社ノ義務ヲ負擔ス會社カ法人ヲ成サ、
ルトキモ亦同シ

右ノ場合ニ於テ各社員ノ決算ハ第三百三十六條乃至第四百十一條ニ規
定シタル貸方及ヒ借方ニ於ケル各自ノ持分ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第三節 會社ノ解散

第四百十四條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ當然解散ス

第一 會社契約ヲ以テ指定シタル期間ノ滿了又ハ解除條件ヲ成就

第二 會社ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能

第三 會社資本ノ全部又ハ半額以上ノ損失

第四 社員ノ一人ノ技術、勞力又ハ收益ヲ以テスル繼續ノ出資ヲ
爲スノ不能

第五 社員ノ一人ノ死亡、禁治産、破産又ハ顯然ノ無資方但第四百
十七條ノ規定ヲ妨ケス

第四百十五條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ之ヲ解散スルコトヲ得

第一 如何ナル場合ヲ問ハス社員ノ一致ノ意思

第二 會社ニ明示又ハ默示ノ一定ノ期間ナキ場合ニ於テ惡意ニ非
ス又不和合ノ時期ニ非スシテ解散ノ請求ヲ爲ストキハ社員一人
ノ意思

第三 會社ニ一定ノ期間アルトキト雖モ社員ノ一人ノ義務不履行

ニ基キタル解除ノ訴又ハ正當ノ理由ニ基キタル解散ノ請求

第四百十六條 社員ハ會社ノ期間ノ滿了前ニ明示又ハ默示ニテ其期間
ヲ伸長スルコトヲ得

默示ノ伸長ハ一定ノ期間ノ滿了後ニ於テ社員ノ一人タモ故障ヲ爲サ
スシテ會社營業ノ繼續シタル事實ヨリ生スルコトヲ得此場合ニ於テ會
社ハ前條第二號ニ從ヒ社員ノ一人ノ意思ヲ以テ之ヲ解散スルコトヲ得

第四百十七條 社員ハ第四百十四條第五號ニ掲ケタル原因ニ由リテ會社ヲ解散セシム且闕員ノ持分ヲ定メ他ノ社員ニテ之ヲ繼續スルヲ合意スルコトヲ得

又社員ハ死亡シタル社員ノ相續人又ハ無能力ト爲リタル社員ト共ニ會社ヲ繼續スルヲ合意スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ相續人又ハ無能力者ノ合式ノ代人ノ新ナル承諾ヲ要ス

第四節 會社ノ清算及ヒ分割

第四百十八條 會社ノ解散シタルトキハ社員ノ各自又ハ其承繼人ヨリ清算ヲ請求スルコトヲ得

清算ハ分割前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但社員ノ多數カ全部又ハ一分ノ分割ヲ先ニスルコトヲ請求シタルトキハ此限ニ在ラス
又會社ノ各債權者ハ清算前ニ分割ヲ爲スコトニ付キ故障ヲ申立ツルコトヲ得

第四百十九條 清算ハ左ノ條件ヲ包含ス

- 第一 著手シタル業務ノ成就
- 第二 會社ノ債務ノ辨濟及ヒ其債權ノ取立

第三 各社員ト會社トノ間ノ特別ナル計算

第四 分割ス可キ貸方又ハ負擔ス可キ借方ニ於ケル各社員又ハ其代人ノ持分ノ指定

第四百五十條 會社契約ニ清算人ノ選任及ヒ其權限ニ關スル約款ナキトキハ清算ハ或ハ總社員之ヲ爲シ或ハ社員ノ一致ヲ以テ委任シタル一人若クハ數人ノ社員之ヲ爲シ或ハ社員ノ一致ヲ以テ選任シタル第三者之ヲ爲ス

社員カ清算人ノ選任ニ付キ一致セサルトキハ裁判所ニ於テ之ヲ選任ス
第四百五十一條 清算人ハ如何ナル場合ヲ問ハス速ニ毀損又ハ滅盡ス可キ物ヲ讓渡スコトヲ要ス

滿期ト爲リタル債務ノ辨濟ノ爲メ必要ナルトキハ此他ノ動產ヲ讓渡スコトヲ得
不動産ニ付テハ清算人ハ社員ノ特別ナル委任ヲ受クルニ非サレハ之ヲ抵當トシ又ハ讓渡スコトヲ得ス
前項ノ讓渡ハ競賣競落ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但協議止ノ讓渡ヲ許シタル場合ハ此限ニ在ラス孰レノ場合ニ於テモ社員ノ

過半数ヲ以テ決スルコトヲ要ス

五六

清算人ハ社員ノ名ヲ以テ原告又ハ被告トシテ訴訟ヲ爲スコトヲ得
清算人カ會社ノ債務又ハ債權ニ付キ承諾シタル和解及ヒ仲裁ハ第三
者ト通謀シタル詐欺ノ爲メニ非サレハ之ヲ攻撃スルコトヲ得ス

第五十二條 清算ニ於ケル總計算ハ社員ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
右ノ計算ヲ認可スルニハ社員ノ過半数ノ議決ヲ以テ足レリトス
此議決ハ總計算ニ付キ之ヲ爲シ又ハ計算ノ或ル部分ニ付キ各別ニ之
ヲ爲スコトヲ得

認可ヲ得サル計算ニシテ仕直スコトヲ得ヘキモノナルトキハ清算人
其費用ヲ以テ之ヲ爲ス若シ仕直スコトヲ得サルトキハ清算人ハ代理
ノ規則ニ從ヒ其過失ニ因リテ加ヘタル損害ノ責ニ任ス

清算人ノ受任シタル權限ニ依リ又ハ前條ニ從ヒテ爲シタル行意ハ善
意ナル第三者ニ對シテ之ヲ取消スコトヲ得ス

第五十三條 會社ノ清算後ハ不分ニテ存スル財産ノ分割ハ社員ノ各
自又ハ其承繼人ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得但當事者カ財産編第三十
九條ニ從ヒ不分ニテ存スルコトヲ會社ノ解散後ニ合意シタルトキハ
此限ニ在ラス

第五十四條 分割部分ノ定方又ハ其配付ニ付キ當事者ノ一致セサル
トキハ財産共通ノ分割ノ爲メ別ニ定メタル規則ニ從フ

第五十五條 會社資本中ノ物ニシテ分割ニ因リ各社員ニ歸シタルモ
ノニ關スル其社員ノ權利ハ會社解散ノ日ニ遡リテ効力ヲ有シ又清算
中他ノ社員ヨリ其物ニ付キ第三者ニ授與シタル權利ハ之ヲ解除ス
第五十六條 分割者ハ分割ニ因リテ取得ス可キ權利ノ上ニ受クルコ
ト有ル可キ妨礙及ヒ追奪ニ付キ其各自ノ部分ニ應シテ相互ニ擔保ヲ
爲ス

分割者ノ一人カ無資力ナルトキハ其一人ノ負擔シタル賠償ノ部分ハ
被擔保人ヲ併セテ他ノ共同分割者ノ間ニ之ヲ分ツ

第七章 射倖契約

總則

第五十七條 射倖契約トハ當事者ノ雙方若クハ一方ノ損益ニ付キ其
効力カ將來ノ不確定ナル事件ニ繫ル合意ヲ謂フ

第五十八條 射倖契約ニハ其性質ニ因ルモノ有リ當事者ノ意思ニ因
ルモノ有リ

博戲、賭事、終身年金權其他終身權利ノ設定、陸上、海上ノ保險及ヒ冒

賤貸借ハ性質ニ因ル關係ノモノナリ
此他成立又ハ效力ヲ停止又ハ解除ノ偶成ノ條件ニ繫ラシムル契約ハ
當事者ノ意思ニ因ル射倖ノモノナリ

第百五十九條 陸上、海上ノ保險及ヒ冒險貸借ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

第一節 博戲及ヒ賭事

第百六十條 博戲ハ博戲者ノ勇氣、力量、巧技ヲ發達ス可キ性質ナル體
驅運動ヲ目的トスルニ非サレハ其義務履行ノ爲メ訴權ヲ許サス

賭事ニ基ク訴權ハ右ノ如キ體驅運動ヲ爲ス人ノ爲メ又ハ賭者ノ直接
關係スル農上商業ノ進歩ノ爲メニ非サレハ亦之ヲ許サス

右ノ博戲又ハ賭事ニ於テ諾約シタル金額又ハ有價物カ事情ニ照シテ
過度ナリト見ユルトキハ裁判所ハ之ヲ減少スルコトヲ得スシテ全ク
其請求ヲ棄却スルコトヲ要ス

第百六十一條 前條ノ場合ノ外博戲及ヒ賭事ハ自然義務ヲモ生セズ目
其債務ノ追認、更改又ハ保證ハ總テ無効ナリ

然レトモ右博戲又ハ賭事ニ因ル有能力者ノ任意ノ辨濟ハ之ヲ取戻ス
コトヲ許サス但勝者ニ於テ詐欺又ハ欺瞞アリタルトキハ此限ニ在ラ

ス

第百六十二條 官許ヲ得サル富講ハ訴權ナキ博戲及ヒ賭事ト同視ス
商品又ハ公ノ證券ノ投機ノ定期賣買ニ付テモ初ヨリ當事者カ諾約シ
タル金額又ハ有價物ノ引渡及ヒ辨濟ヲ實行スルニ意ナク單ニ相場昂
低ノ差額ヲ計算スルノヒテ目的トシタルコトヲ被告ノ證スルトキモ
亦同シ

第百六十三條 前二條ノ場合ニ於テ被告ヨリ銷除ヲ申立テサルトキハ
判事ハ職權ヲ以テ其銷除ヲ言渡スコトヲ得但契約又ハ請求ニ於テ博
戲、富講又ハ相場差額ノ賭事カ債務ノ原因タルコトヲ明言セシトキ
ニ限ル

第二節 終身年金權

第一款 終身年金權ノ設定

第百六十四條 終身年金權ハ動産若クハ不動産ナル元本ノ讓渡ノ報酬
又ハ既往若クハ將來ノ勤勞ノ報酬トシテ有償ニテ之ヲ設定スルコト
ヲ得

又贈與又ハ遺贈ヲ以テ無償ニテ之ヲ設定スルコトヲ得
又終身年金權ハ有償又ハ無償ニテ讓渡シタル元本ノ上ニ留存シテ之

ヲ設定スルコトヲ得

六〇

第六十五條 終身年金權ハ對價物ノ供與者ニ非サル人ノ利益ノ爲メ
之ヲ要約スルコトヲ得

此場合ニ於テハ要約者ト諾約者トノ間ニ在テハ有償契約ノ規則ニ從
ヒ要約者ト得益者トノ間ニ在テハ贈與ノ規則ニ從フト雖モ贈與ノ方
式ニ從フコトヲ要セス

第六十六條 終身年金權ハ債權者若クハ債務者ノ終身ヲ期シ又ハ第
三者ノ終身ヲ期シテ之ヲ設定スルコトヲ得

此末ノ場合ニ於テ契約カ有償ナルトキハ其成立ニ付キ第三者ノ承諾
ヲ必要ナリトス然レトモ此承諾前ニ辨濟シタル年金ハ之ヲ取戻スコ
トヲ得ス

第六十七條 終身年金權ハ同時又ハ順次ニ數人ノ債權者ノ終身ヲ期
シテ之ヲ設定スルコトヲ得

此場合ニ於テハ財産編第一百條ノ用益權ニ關スル規定ヲ適用ス

第六十八條 有償ノ終身年金權ノ契約ハ其設定ノ爲メ終身ヲ期セラ
レタル人カ合意ノ當時ニ於テ既ニ死亡シタルトキハ當事者雙方其死
亡ヲ知ラスト雖モ無効ナリ

右ノ人カ合意ノ當時ニ於テ既ニ罹レル疾病ノ爲メ六十日內ニ死亡シ
タルトキハ其約契ハ當然之解除ス

第六十九條 無償ノ終身年金權ハ設定者ニ於テ之ヲ讓渡スコトヲ得
ス且差押フルコトヲ得サルモノト定ムルコトヲ得

右約款ハ設定證書ニ記入シタルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗ス
ルコトヲ得ス

養料トシテ無償ニテ設定シタル終身年金權ハ當然讓渡スコトヲ得ス
且差押フルコトヲ得サルモノナリ

本條ノ規定ハ贈與者ノ利益ノ爲メ贈與財産ノ上ニ留存シタル終身年
金權及ヒ支拂時期ノ至リタル年金ニ之ヲ適用セス

第七十條 終身年金權ノ讓渡及ヒ差押ノ禁止ハ其一事ノミチ要約シ
タルトキト雖モ二事共ニ存立ス

第二款 終身年金權ノ契約ノ效力

第七十一條 債務者ハ年金權ノ設定ノ爲メ終身ヲ期セラレタル人ノ
生存中ハ其年金權ノ年金ヲ支拂フコトヲ要シ且買戻ヲ爲スコトヲ得
ス但其買戻ニ付キ特別ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

第七十二條 年金ハ毎月又ハ此ヨリ長キ時期ニ於テ其支拂ヲ爲スコ
トヲ得

七一

キトキト雖モ債權者日割ヲ以テ之ヲ取得ス
然レトモ年金ヲ前拂ス可キトキハ債務者ハ既ニ支拂時期ノ始マリ
ルヲ一期分ヲ分擔ス

第百七十三條 債權者ハ解除ノ權利ヲ留保セサルトキハ年金支拂ノ欠
缺ノ爲メ契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得ス只其債務者ノ財産中ニ於
テ年金ヲ受クルニ足ル可キ部分ヲ差押ヘ之ヲ賣却セシメ其賣却代金
ヨリ生スル利息ヲ以テ年金ノ支拂ニ充ツルコトヲ得但他ノ債權者ノ
競取ヲ拒ムコトヲ得ス

終身年金權ヲ無償ニテ設定シ又ハ贈與若クハ遺贈ノ元本ノ上ニ留存
シタルトキモ亦右ト同一ニ處辨ス

第百七十四條 終身年金權ノ債務者ハ年金權ノ設定ノ爲メ終身ヲ期セ
タル人カ支拂ノ時期ニ生存セシコトヲ債權者ヨリ生存認證書ヲ
以テ證セサルトキハ其年金ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得
此認證書ハ其人ノ現住地ノ受持公證人又ハ身分取扱人之ヲ交付ス

第三款 終身年金權ノ消滅
第百七十五條 有償ノ終身年金權ノ債務者カ年金支拂ノ爲メ諾約シタ
ル擔保ヲ供セス又ハ供シタル擔保ヲ減少スルトキハ債權者ハ契約ソ

解除ヲ請求スルコトヲ得但既ニ取得シタル年金ヲ返還スル責ナシ
贈與又ハ遺贈ノ元本ノ上ニ留存シタル終身年金權ノ債權者モ亦右ト
同一ノ權利ヲ有ス
右ノ解除ハ年金權ノ設定ノ爲メ終身ヲ期セラレタル人カ確定判決前
ニ死亡シタルトキハ之ヲ宣告セス

第百七十六條 普通法ニ於テ許シタル銷除及ヒ廢罷ノ原因ハ終身年金
權ニ之ヲ適用ス
終身年金權ハ此他尙ホ更改、合意上ノ免除、混同、時效及ヒ要約シタ
ル受取ニ因リテ消滅ス

然レトモ終身年金權カ第百六十九條及ヒ第百七十條ニ從ヒ法律又ハ
人爲ニ依リテ讓渡スコトヲ得ス又ハ差押フルコトヲ得サルモノナル
トキハ其年金權ハ時效ニ罹ラス

如何ナル場合ニ於テモ年金ハ支拂時期後五ケ年ニシテ時效ニ罹ル
第百七十七條 終身年金權ハ其設定ノ爲メ終身ヲ期セラレタル人ノ死
亡ニ因リテ消滅ス但第百六十八條ノ規定ヲ妨ケス
然レトモ終身ヲ期セラレタル人カ債務者ノ責ニ歸ス可キ不正ノ原因
ニ由リテ死亡シタル場合ニ於テ其年金權ヲ有償ニテ又ハ贈與若クハ

遺贈ノ負擔トシテ設定シタルトキハ其契約又ハ惠與ハ之ヲ解除ス且
債務者ハ既ニ支拂ヒタル年金ヲ取戻サスシテ其取得シタル財産ヲ返
還スルコトヲ要ス

右ト同一ノ死亡ノ場合ニ於テ其年金權ヲ直接ニ贈與シ又ハ遺贈シタ
リシトキハ年金ノ支拂ハ裁判所カ終身ヲ期セラレタル人ノ生命ノ繼
續期ト推測スル期間之ヲ繼續セシム

第八章 消費貸借及ヒ無期年金權

第一節 消費貸借

第七十八條 消費貸借ハ當事者ノ一方カ代替物ノ所有權ヲ他ノ一方
ニ移轉シ他ノ一方カ或ル時期後ニ同數量及ヒ同品質ノ物ヲ返還スル
義務ヲ負擔スル契約ナリ

第七十九條 當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ裁判所ハ當事
者ノ意思ヲ推測シ且事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

返還ノ場所ノ定マラサリシトキハ無利息ノ貸借ニ付テハ貸主ノ住所
又利息附ノ貸借ニ付テハ借主ノ住所ニ於テ其返還ヲ爲ス

第八十條 不可抗力ニ因リテ借用物ヲ返還スルコト能ハサルトキハ
借主ハ其物ノ不可抗力ニ罹リシ日及ヒ場所ノ相場ニ從ヒテ算定シタ
ル其物ノ價額ヲ負擔得

第八十一條 貸主ニ屬セサル物ノ貸借ハ無効ナリ其貸借カ利息附ニ

シテ且借主カ善意ナリシトキハ貸主ハ借主ニ對シテ擔保ノ責ニ任ス
然レトモ此貸借ハ左ノ場合ニ於テハ有效ナリ

第一 借主カ善意ニテ借用物ヲ消費シタルトキ

第二 借主カ時効ニ因リ眞所有者ノ回復ノ請求ヲ排却シタルトキ

第三 眞所有者カ貸借ヲ認諾シタルトキ

第八十二條 貸借物ニ借主ノ了知セスシテ貸主ノ了知シタル隠レタ
ル瑕疵アリテ借主爲メニ損害ヲ受ケタルトキト雖モ貸主ハ無利息ノ
貸借ニ付テハ其損害ノ責ニ任セス但貸主ニ詐欺アリ又ハ加害ノ意思
アリタルトキハ此限ニ在ラス

此貸借カ利息附ナルトキハ貸主ノ了知セサリシ隠レタル瑕疵ト雖モ
之ヲ了知スルコトヲ得ヘキトキハ其責ニ任ス

其他賣買廢却訴權ニ關スル第九十四條乃至第一百一條ノ規定ハ之ヲ消
費貸借ニ適用スルコトヲス

第八十三條 財産編第四百六十三條乃至第四百六十六條ハ正貨又ハ
強制通用ノ紙幣ニテ爲シタル消費貸借ニ之ヲ適用ス

然レトモ貸主カ財産編第四百六十五條ノ許セル金貨若クハ銀貨ヲ以テ指定シタル價額ノ辨濟ヲ受ケ又ハ此等ノ正貨ノ一ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ要約スルニハ同性質ノ正貨又ハ他ノ正貨若クハ紙幣ヲ以テ對當ノ價額ヲ實際ニ貸付スルコトヲ要ス

第百八十四條 貸借チ金銀塊ニテ爲シタルトキハ借主ハ他ノ商品ノ貸借ノ如ク同一ノ性質、重量及ヒ品格ノ金銀塊ヲ返還スルコトヲ要ス

第百八十五條 金銀、日用品又ハ商品ノ借主ハ使用ノ報酬トシテ元本ノ外ニ利息ノ名目ヲ以テ借用物ノ割合ニ應スル金額又ハ有價物ノ辨濟ヲ約スルコトヲ得

第百八十六條 利息ハ要約シタルニ非サレハ借主ニ對シテ之ヲ要求スルコトヲ得ス

借主ヨリ利息ヲ辨濟ス可キノ合意アリテ其額ノ定ナキトキハ其割合ハ法律上ノ利息ニ從フ

要約セラレサル利息ヲ法律ノ制限内ニテ任意ニ辨濟シタル借主ハ之ヲ取戻シ又ハ之ヲ元本ノ辨濟ニ充當スルコトヲ得ス

第百八十七條 合意上ノ利息ハ法律上ノ利息ヲ超ユルコトヲ得但法律ヲ以テ特定メタル合意上ノ利息ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

法律ノ制限ヲ超エテ顯然ニ利息ヲ定メタルトキハ之ヲ法律ノ制限ニ減却シ此制限ヲ超エテ爲シタル辨濟ハ之ヲ元本ノ辨濟ニ充當シ又ハ之ヲ取戻スコトヲ得

債權者カ實際ニ貸付シタル元本ヲ超ユル元本ヲ認メシメ又ハ其他ノ方法ヲ以テ不正當ノ利息ヲ隱秘シタルトキハ債務者ハ其不正當ノ利息ヲ辨濟スルコトヲ要セス若シ辨濟シタルトキハ之ヲ取戻スコトヲ得

第百八十八條 貸主ハ支拂時期ノ至リタル利息ニ付キ異議ヲ爲サスシテ元本ノ全部又ハ一分ヲ受取リタルトキハ其利息ヲ受取リ又ハ之ヲ拋棄シタルトノ推定ヲ受ク但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第百八十九條 十ヶ年ヲ超ユル期間ヲ以テ利息附ノ貸借ヲ爲シタルトキハ借主ハ如何ナル反對ノ合意アルモ十ヶ年後ハ常ニ辨濟ヲ爲ス權能ヲ有ス

然レトモ年賦金ヲ以テ利息ノ外尙ホ元本ノ幾分ヲ漸次ニ辨濟ス可キトキハ其取越辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第百九十條 第百八十六條乃至第百八十九條ノ規定ハ消費貸借ヨリ生ズル義務ヲ除ク外金額又ハ定量物ノ義務及ヒ合意上、法律上ノ利息

第二節 無期年金權ノ契約

第百九十一條 貸主ハ元本ノ要求ヲ爲スコトヲ自ラ禁止シ年金ノミヲ受取ルコトヲ要約スルコトヲ得之ヲ無期年金權ノ設定ト謂フ

此禁止ハ明示ナルカ又ハ明カニ事情ヨリ生スルコトヲ要ス

第百九十二條 無期年金ノ債務ヲ負擔スル借主ハ如何ナル反對ノ合意

アルモ常ニ其受取リタル元本ノ辨濟ヲ爲スコトヲ得

然レトモ借主ハ十ヶ年ヲ超エサル或ル時期前ニ辨濟ヲ爲サ、ルヲ約スルコトヲ得

右期間ハ常ニ之ヲ更新スルコトヲ得然レトモ亦十ヶ年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヲ超ユルトキハ十ヶ年ニ短縮ス

辨濟ハ反對ノ合意アラザルトキハ全部タルコトヲ要ス

債務者ハ六ヶ月前ニ辨濟ヲ爲ス意思ヲ債權者ニ豫告スルコトヲ要ス但當事者ニ於テ他ノ期間ヲ定メタルトキハ此限ニ在ラス

債務者ハ自己ノ定メタル時期ニ於テ辨濟ヲ爲サ、ルトキハ其損害賠償ノ責ニ任ス然レトモ辨濟ノ強要ヲ受クルコト無シ但更改アリタルトキハ此限ニ在ラス

第百九十三條

債務者ハ財産編第四百五條第一號乃至第三號ニ依リテ尋常ノ債務者カ權利上ノ期限ノ利益ヲ失フ場合又ハ合式ノ付遲滞ヲ受タル後引續キニ十ヶ年間年金ノ辨濟ヲ缺キタル場合ニ於テハ元本辨濟ノ強要ヲ受ク

此末ノ場合ニ於テ裁判所ハ財産編第四百六條ニ從ヒ債務者ニ恩惠上ノ期限及ヒ分割辨濟ヲ許與スルコトヲ得

第百九十四條

前二條ノ規定ハ不動産讓渡ノ代價若クハ條件トシテ設定シ又ハ無償ニテ設定シタル無期年金權ニ之ヲ適用ス

右前レノ場合ニ於テモ辨濟ハ當事者ノ評定シタル元本ヲ以テ之ヲ爲シ又元本ノ評定ナキトキハ法律上ノ利息ノ割合ニ從ヒテ計算シタル年金ヲ生ス可キ元本ヲ以テ之ヲ爲ス

日用品ヲ以テ年金ニ充ツルトキハ辨濟ハ特別ノ合意アルニ非サレハ前十ヶ年間ノ其平均代價ニ基キ計算シタル元本ヲ以テ之ヲ爲ス

第九章 使用貸借

第一節 使用貸借ノ性質

第百九十五條 使用貸借ハ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ使用ノ爲メ之ニ動産又ハ不動産ヲ交付シ明示又ハ默示ニテ定メタル時期ノ後他ノ一

方カ其借受ケタル原物ヲ返還スル義務ヲ負擔スル契約ナリ
此貸借ハ本來無償ナリ

第百九十六條 借主ハ使用ノ物權ヲ取得セズ單ニ貸主及ヒ其相續人ニ
對シテ人權ヲ取得ス

借主ノ權利ハ其相續人ニ移轉セズ但其相續人カ當事者ノ意思ノ之ニ
異ナルコトヲ證スルトキハ此限ニ在ラス又其相續人カ他ヨリ同種ノ
物ノ使用ヲ得ル爲メ裁判所ヨリ返還猶豫ノ期間ヲ受クルコトヲ妨ケ
ス

第二節 使用貸借ヨリ生シ又ハ其貸借ニ際シテ生スル義務

第百九十七條 借主ハ借用物ノ性質又ハ合意ニ因リテ定マリタル用方
ニ從ヒ且貸借期間ニ非サレハ其物ヲ使用スルコトヲ得ス

借主ハ此他ノ使用又ハ期限後ノ使用ニ因リテ生スル借用物ノ滅失又
ハ毀損ニ付テハ勿論又其使用ニ際シ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ
生スル滅失又ハ毀損ニ付テモ其責ニ任ス

第百九十八條 借主ハ自己ノ物ヲ用ヒテ借用物ノ滅失又ハ毀損ヲ免カ
レシムルコトヲ得ヘキトキ又ハ自己ノ物ト借用物トカ同時ニ危險ヲ
受クルニ際シ自己ノ物ノミヲ以テシタルトキモ亦意外ノ事又ハ不可

抗力ニ因リテ生スル借用物ノ滅失又ハ毀損ノ責ニ任ス

第百九十九條 借主ハ借用物保持ノ通常費用ヲ負擔シ貸主ニ對シテ其
償還ヲ求ムルコトヲ得ス

第二百條 借主ハ合意セシ時期ニ於テ借用物ヲ返還スルコトヲ要ス其
時期前ト雖モ許サレタル使用ヲ終リシトキハ亦同シ但第二百三條第
二項ノ規定ヲ妨ケス

返還ノ時期ヲ定メス且物ノ使用カ繼續ス可キモノナルトキハ裁判所
ハ貸主ノ請求ニ因リテ返還ノ爲メ相應ナル時期ヲ定ム

第二百一條 借主カ借用物ノ第三者ニ屬スルコトヲ了知スルトキト雖
モ貸主又ハ其代人ニ之ヲ返還スルコトヲ要ス但第三者カ其返還ニ付
キ合式ニ故障ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

此末ノ場合ノ外返還ハ貸主又ハ其代人ノ住所ニ於テ之ヲ爲ス

第二百二條 數人連合シテ同時又ハ交互ニ用ユル爲メ一箇ノ物ヲ借用
シタルトキハ各自連帶ニテ上ノ義務ヲ負擔ス

第二百三條 貸主ハ明示又ハ默示ニテ借主ニ許シタル期限前ニ貸付物
ノ返還ヲ要求スルコトヲ得ス

然レトモ其物ニ付キ急迫ニシテ且豫期セザル要領ノ生シタルトキハ

貸主ハ裁判所ニ請求シテ期限前ニ一時又ハ永久ノ返還ヲ爲サシムル
コトヲ得

第二百四條 貸主ハ借主カ借用物保存ノ爲メ支出シタル必要且急迫
ル費用ヲ之ニ辨償スル責ニ任ス

又貸主ハ貸付物ノ瑕疵ノ爲メ借主ノ受ケタル損害ニ付テハ第八
十二條第一項ノ規定ヲ適用ス

第二百五條 借主ハ前條ニ依リテ自己ノ受ク可キ賠償ヲ得ルマテ借用
物ニ付キ留置權ヲ行フコトヲ得

第十章 寄託及ヒ保管

第一節 寄託

第二百六條 寄託ハ一人カ動産ヲ交付シ他ノ一人カ之ヲ看守シ要求
第直チニ原物ヲ返還スル契約ナリ

寄託ハ本來無償ナリ

寄託ニハ任意ノモノ有リ急迫ノモノ有リ

第一款 任意寄託

第二百七條 任意ノ寄託ハ寄託者カ寄託ノ時日、場所及ヒ受寄者
由ニ選擇スルコトヲ得ル場合ニ於テ成ルモノナリ

第二百八條 寄託ハ所有者ノミナラス尙ホ物ノ看守及ヒ保存ニ付キ利
害ノ關係アル人又ハ其代理人之ヲ爲スコトヲ得

又寄託ハ無能力者ノ法律上ノ代人之ヲ爲スコトヲ得

第二百九條 寄託ハ契約ヲ爲ス完全ノ能力ヲ有スル者ニ非サレハ之ヲ
受クルコトヲ得ス

然レトモ無能力者ハ猶ホ自己ノ手ニ存スル寄託物ノ返還又ハ寄託ニ
因リテ得タル利益ノ返還ニ付キ民事上其責ニ任ス但背信ニ付テノ公
訴ヲ妨ケス

第三百十條 受寄者ハ受寄物ノ看守及ヒ保存ニ付テハ自己ノ財産ニ加
フルト同一ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

然レトモ受寄者カ自ラ求メテ寄託ヲ受ケ又ハ單ニ自己ノ利益ヲ目的
トシ要用ニ從ヒ受寄物ヲ使用スルノ許諾ヲ得テ寄託ヲ受ケタルトキ
ハ受寄者ハ善良ナル管理人ノ注意ヲ爲ス責ニ任ス但此末ノ場合ニ於
テ受寄者カ其物ヲ使用シタルトキハ第九十八條ノ規定ヲ適用ス

第三百十一條 受寄物返還ノ遲滯ニ付セラレタル受寄者ハ普通法ニ從
ヒ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因ル滅失ノ責ニ任ス

第三百十二條 寄託者カ受寄者ニ寄託物ノ性質ヲ隱秘シタルトキハ受

寄者之ヲ知ラント探求スルコトヲ得ス又其性質ヲ受寄者ノミニ知ラシメタル場合ニ於テモ受寄者之ヲ他人ニ漏泄スルコトヲ得ス若シ之ヲ漏泄シタル爲メ損害アルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第二百十三條 受寄者ハ受寄物ヲ使用シ又ハ其果實ヲ消費スルコトヲ得ス但此カ爲メ寄託者ノ明示又ハ黙示ノ許諾アリタルトキハ此限ニ在ラス

此許諾ハ寄託ニ使用貸借ノ性質ヲ與フルニ足ラス

第二百十四條 受寄者ハ其收取シタル果實及ヒ產出物ト又之ヲ金錢ニ換ヘサルヲ得サリシトキハ其代金ト共ニ原物ヲ返還スルコトヲ要ス但前條ノ規定ヲ妨ケス

受寄者カ受寄物ニ付キ或ル償金又ハ或ル權利若クハ利益ヲ取得シタルトキハ之ヲ寄託者ニ移轉スルコトヲ要ス

又受寄者カ故意ニテ受寄物ヲ消費シ讓渡シ又ハ隱匿シタルトキハ遲滯ニ付セラル、コト無クシテ當然損害賠償ノ責ニ任ス但背信ニ付テノ公訴ヲ妨ケス

第二百十五條 受寄者ノ相續人カ受寄物ナルコトヲ知ラスシテ其物ヲ消費シ又ハ之ヲ讓渡シタルトキハ其相續人ハ此ニ因リテ得タル利益

ノ額ニ滿ツルマテ賠償ノ責ニ任ス

右ノ規定ハ遺忘又ハ錯誤ニ因リ自己ノ物トシテ受寄物ヲ處分シタル受寄者ニ之ヲ適用ス

第二百十六條 寄託物ノ返還ハ寄託者又ハ其法律上若クハ合意上ノ代人ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百十七條 返還ニ付キ場所ヲ定メサリシトキハ受寄者カ受寄物ヲ移置シタルモ其現在ノ場所ニ於テ之ヲ返還ス但寄託者ヲ詐害スル意思アルトキハ此限ニ在ラス

第二百十八條 寄託者ノ要求次第物ヲ返還ス可キ受寄者ノ義務ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

第一 受寄者カ其物ノ自己ニ屬スルコトヲ證スルコトヲ得ルトキ

第二 受寄者カ次條ニ從ヒテ留置權ヲ行フコトヲ得ルトキ

第三 受寄者カ排渡差押ノ合式ノ告知ヲ受ケタルトキ

第四 受寄者カ受寄物ノ盜品ナルコトヲ覺知シ且其所有者ヲ知リタルトキ但此場合ニ於テ受寄者ハ所有者ニ其寄託ヲ受ケタルコトヲ通知シ且持定セル相應ノ期間ニ寄託者ト立會ノ上ニテ其物ヲ要求ス可ク若シ此期間ヲ過クルモ立會ハサルトキハ寄託者ニ

返還ヲ爲ス可キ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

七六

第二百十九條 寄託者ハ寄託物ノ保存ノ爲メ受寄者ノ支出シタル必要ノ費用ト其物ノ爲メニ受寄者ノ受ケタル損害トヲ賠償スルコトヲ要ス
右賠償ノ皆濟ヲ受ケルマテ受寄者ハ受寄物ノ上ニ留置權ヲ行フコトヲ得

第二款 急迫寄託及ヒ旅店寄託

第二百二十條 寄託者カ火災、洪水、難船、地震又ハ暴動ノ如キ不測ニシテ且不可抗ノ事變ニ因リ已ムテ得ズ寄託ヲ爲ストキハ之ヲ急迫ノ寄託ト謂フ

急迫ノ寄託ハ諸般ノ方法ニ依リ又ハ事情ヨリ生スル事實ノ指定ニ依リテ之ヲ證スルコトヲ得

此他急迫寄託ハ任意寄託ノ規則ニ從フ

第二百二十一條 旅店及ヒ下宿屋ノ主人ハ其止宿セシムル旅人ノ携帶シタル手荷物ノ受託ニ付テハ之ヲ急迫ノ受寄者ト看做ス
舟車運送人其他水陸運送ノ營業人モ亦其運送ヲ任セラレタル荷物ニ付テハ之ヲ急迫ノ受寄者ト看做ス

然レトモ本條ノ受寄者ハ有償合意ヨリ生スル通常ノ義務ヲ負擔ス

第二節 保管

第二百二十二條 保管トハ數人ノ間ニ於テ爭論ノ目的タル物ヲ第三者ニ寄託スルヲ謂フ

保管ハ動産又ハ不動産ヲ目的トスルコトヲ得
保管ニハ合意上ノモノ有リ裁判上ノモノ有リ

第二百二十三條 合意上ノ保管ハ其保管ニ付テモ保管人ノ選定ニ付テモ當事者ノ承諾アルコトヲ要ス

裁判上ノ保管人ハ當事者カ其選定ニ付キ一致セサルトキニ非サレハ裁判所ハ職權ヲ以テ之ヲ選定スルコトヲ得ス

裁判所ハ當事者ノ一人ヲ保管人ニ選任スルコトヲ得

第二百二十四條 合意上ト裁判上トヲ問ハス保管人ハ報酬ヲ受ケルコトヲ得此場合ニ於テ保管人ハ善良ナル管理人ノ通常ノ注意ヲ保管物ニ加フル責ニ任ス

第二百二十五條 裁判上ノ保管人ハ財産編第百十九條ニ從ヒテ保管物ヲ貸貸スルコトヲ得然レトモ合意上ノ保管人ハ當事者ノ特別ノ委任ヲ受ケルニ非サレハ貸貸スルコトヲ得ス

七七